

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
623 その他の細菌病			
相野公孝・保坂和良・岩元 豊・松浦克成	2009	ジャガイモの実生を用いた青枯病検定法の開発.	日植病報 75(1): 79.(講要)
秋元喜弘	1995	ジャガイモ青枯病の総合防除.	いも類振興情報 44: 23-26.
秋津教雄・中保一浩・前川義雄・仲川晃生	2006	(B102) <i>Pseudomonas fluorescens</i> 剤のジャガイモマイクロチューバー紙筒移植栽培への処理方法と塊茎の青枯病菌潜在感染抑止効果について.	日本農薬学会講要集 31th: 46.(講要)
Budi, Tjahjano・陶山一雄・藤井 漣	1987	<i>Clostridia</i> によるジャガイモ塊茎腐敗 (2) 病原性と2, 3の性質.	日植病報 53(3): 404.(講要)
d'Ursel, C.M.・土屋健一・堀田光生・野津祐三・橋本正勝	1999	<i>Ralstonia solanacearum</i> に対する特異抗体の作製.	日植病報 65(3): 362.(講要)
Fouché-Weich, J., Poussier, S., Trigalet-Demery, D., Berger, D. and Coutinho, T.	2006	Molecular identification of some African strains of <i>Ralstonia solanacearum</i> from eucalypt and potato.	J.Gen.Plant Pathol. 72(6): 369-373.
藤本岳人・安岡眞二・青野桂之・佐山 充・中山尊登・大木健広・眞岡哲夫	2016	<i>Pectobacterium carotovorum</i> subsp. <i>B rasilensis</i> によるジャガイモ黒あし病の発生(病原追加).	日植病報 82(3): 277.(講要)
舟山広治・松代平治・成田武四	1956	馬鈴薯青枯病菌と各種根粒菌との拮抗作用について(予報).	北農研究抄報 3: 61-62.
舟山広治・成田武四・永田利男	1959	馬鈴薯青枯病と品種との関係.	日植病報 24(1): 63.(講要)
舟山広治	1959	馬鈴薯青枯病発生圃場における各種作物根圏微生物の消長.	日植病報 24(1): 63.(講要)
舟山広治	1960	前作物と馬鈴薯青枯病発生との関係.	日植病報 25(1): 64.(講要)
舟山広治・岡 啓	1960	馬鈴薯青枯病抵抗性と馬鈴薯品種の類縁関係.	日植病報 25(5): 235.(講要)
舟山広治	1960	馬鈴薯青枯病菌の発育とpHとの関係.	北日本病虫年報 11: 46.(講
舟山広治・成田武四	1962	馬鈴薯青枯病菌の越冬について.	北農 29(5): 1-3.
不破秀明・畑谷達治・堀田光生・田中文夫	2015	ジャガイモ黒あし病の病原細菌3種の検出と同定.	日植病報 81(1): 92(講要)
後藤孝雄・片山克己・東 一洋	1992	メッシュ気候図利用によるジャガイモ青枯病の防除対策.	日植病報 58(1): 109.(講要)
後藤孝雄・片山克己・東 一洋	1992	メッシュ気候図利用によるジャガイモ青枯病の防除対策.	日植病報 58(1): 109.(講要)
後藤孝雄・片山克己・東 一洋	1992	メッシュ気候図利用によるジャガイモ青枯病の防除対策.	九州農業研究 54: 84.
後藤孝雄・泉 省吾・片山克己・西山 登・鶴内孝之	1993	短期輪作によるジャガイモ青枯病の防除.	九州農業研究 55: 81.
後藤孝雄・泉 省吾・片山克己・西山 昇・鶴内孝之	1993	短期輪作によるジャガイモ青枯病の防除.	日植病報 59(1): 50.(講要)
波部一平・大林憲吾	2014	無菌培養植物を用いた <i>in vitro</i> でのジャガイモ青枯病抵抗性検定法.	九州病虫研報 60: 1-8.
波部一平・大林憲吾	2014	ジャガイモ無菌培養苗を用いた青枯病抵抗性検定法の開発.	九州病虫研報 60: 100.(講要)
波部一平・岳田 司	2015	無菌培養植物を用いたジャガイモ青枯病菌phyloptype I およびIVに対する抵抗性育種素材の探索.	日植病報 81(3): 299.(講要)
波部一平・岳田 司	2015	ジャガイモ青枯病菌 phyloptype IV に対するジャガイモ無菌培養物を用いた <i>in vitro</i> 青枯病抵抗性検定法の適用.	九州病虫研報 61: 82.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
波部一平	2016	ジャガイモにおける青枯病抵抗性 <i>in vitro</i> 検定法を利用した青枯病菌phyloptype IおよびIVの温度による発病特性.	九州病虫研報 62: 20-26.
波部一平・岳田 司	2016	<i>In vitro</i> 検定法による本邦産ジャガイモ青枯病菌のジャガイモに対する病原性.	日植病報 82(3): 285.(講要)
広瀬 清・谷井昭夫・酒井隆太郎	1981	ジャガイモの種薯および土壌からの軟腐病原細菌の検出と血清型.	日植病報 47(1): 102-103.(講要)
堀 正太郎(答)	1917	馬鈴薯の腐敗につき質問並答.(問答)	大日本農會報 435: 44-45.
堀田光生・大城 篤・古屋成人・高江洲和子・土屋健一	2003	日本及び外国産ジャガイモ青枯病菌(biovar 2, N2)の細菌学のおよび遺伝的特性の比較.	日植病報 69(1): 22.(講要)
堀田光生・大城 篤・高江洲和子・佐藤豊三	2003	沖縄県本島で分離されたジャガイモおよびニガウリ青枯病菌の遺伝系統.	日植病報 69(1): 22.(講要)
堀田光生・田中文夫	2008	PCRによるジャガイモ黒脚病菌の検出法の検討.	日植病報 74(1): 42.(講要)
堀田光生・土屋健一・田中文夫・菅 康弘・大城 篤・吉田隆延	2008	マルチプレックスPCRによる国内産ジャガイモ青枯病菌のPhylotypeの識別.	日植病報 74(3): 254.(講要)
堀田光生・田中文夫・不破秀明	2009	ジャガイモの種いも伝染性細菌病の特徴と簡易保菌検定法.	植防 63(2):98-103.
堀田光生・田中文夫・杉山俊平・丸田幸男・眞岡哲夫	2010	マクロアレイを用いた種いも伝染性病原細菌の高精度検出法の検討.	日植病報 76(3): 213.(講要)
堀田光生・菅 康弘・大城 篤・土屋健一	2012	日本産ジャガイモ青枯病菌の遺伝的および生理的特性.	植防 66(5): 274-276.
片山克己・木村貞夫	1982	ジャガイモから分離される青枯病菌 <i>Pseudomonas solanacearum</i> のbiovarについて.	日植病報 48(3): 373-374.(講要)
片山克己・木村貞夫	1982	ジャガイモ青枯病に関する研究 第1報 減収率および塊茎の維管束褐変.	九州病虫研報 28: 28-30.
片山克己・木村貞夫・浜 久助	1983	ジャガイモ青枯病に関する研究 第2報 秋作の多発要因, 特に温度について.	九州病虫研報 29: 15-18.
片山克己・木村貞夫・沢畑 秀	1983	西南暖地で栽培されるジャガイモの青枯病抵抗性品種間差異.	日植病報 49(1): 84-85.(講要)
片山克己・木村貞夫	1983	ジャガイモ青枯病菌biovarの分布と被害.	日植病報 49(3): 412-413.(講要)
片山克己・木村貞夫	1984	青枯病菌 (<i>Pseudomonas solanacearum</i>) biovar IIとIVの純水中及び土壌中における死滅条件.	日植病報 50(1): 105-106.(講要)
片山克己・木村貞夫	1984	ジャガイモの青枯病菌 <i>Pseudomonas solanacearum</i> biovar IIとIVの分離比率の変動および寄主範囲.	日植病報 50(3): 418.(講要)
片山克己・木村貞夫・沢畑 秀	1983	西南暖地で栽培されるジャガイモの青枯病抵抗性品種間差異.	九州農業研究 45: 103.
片山克己・木村貞夫	1984	青枯病菌 (<i>Pseudomonas solanacearum</i>) biovar IIとIVの純水中および土壌中における耐熱性.	九州農業研究 46: 113.
片山克己・木村貞夫・新須利則	1984	ジャガイモ青枯病に関する研究 第3報 夏季露地マルチ及び土壌消毒剤の効果.	九州病虫研報 30: 21-24.
Katayama, K. and Kimura, S.	1984	Prevalence and temperature requirements of biovar II and IV strains of <i>Pseudomonas solanacearum</i> from potatoes.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 50(4): 476-482.
片山克己・木村貞夫	1985	<i>Pseudomonas solanacearum</i> レース1およびレース3の細菌学的性質.	日植病報 51(3): 339.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
片山克己・小村国則・ 亀川 昭・沢畑 秀・木村 貞夫	1986	暖地向きジャガイモ育成系統の青枯病に 対する抵抗性の発現.	日植病報 52(1): 108.(講要)
片山克己・木村貞夫	1986	光電比色計で測定したジャガイモの青枯 病菌 <i>P. solanacearum</i> の増殖量の生長 曲線式へのあてはめ.	日植病報 52(3): 504.(講要)
片山克己・木村貞夫・ 沢畑 秀	1986	ジャガイモ青枯病に関する研究 第4報 土 壤消毒および品種, 植付時期の選択による 総合防除.	九州病虫研報 32: 20-23.
片山克己・小村国則・ 亀川 昭・沢畑 秀・木村 貞夫	1986	暖地向きジャガイモ育成系統の青枯病に 対する抵抗性の発現.	九州農業研究 48: 147.
片山克己・木村貞夫	1987	ジャガイモ青枯病発生の年次間差と気温 および増殖速度.	日植病報 53(1): 85.(講要)
片山克己・木村貞夫	1987	ジャガイモ青枯病の発生生態と防除に関 する研究 第2報 各種防除法およびその 体系化.	長崎農試研報 15: 29-57.
片山克己・木村貞夫	1987	ジャガイモの青枯病発生の年次間差と気 温および増殖速度.	九州農業研究 49: 121.
片山克己	1988	ジャガイモ青枯病の発生生態と防除.	植防 42(6): 299-303.
片山克己	1988	西南暖地におけるジャガイモ青枯病の発 生生態と抑制技術に関する研究.	日植病報 54(3): 279.(学術奨 励賞研究要旨)
片山克己・木村貞夫	1988	ジャガイモ青枯病の発生生態と防除に関 する研究 1 発生生態と病原細菌の系 統.	長崎総農試研報(農業) 14: 1- 30.
片山克己・木村貞夫	1989	ジャガイモ青枯病の発生生態と防除に関 する研究 2 各種防除法およびその体系 化.	長崎総農試研報(農業) 15: 29-57.
片山克己・植松 勉	1991	長崎県内で収穫したジャガイモ青枯病菌 の生理型とそのバクテリオファージ.	日植病報 57(1): 83.(講要)
片山克己・後藤孝雄・ 植松 勉・廣谷 弘	1991	ジャガイモ青枯病に関する研究 第5報 数 種土壌消毒剤の効果.	九州病虫研報 37: 3-5.
片山克己・植松 勉	1991	長崎県内で収穫したジャガイモ青枯病菌 の生理型とそのバクテリオファージ.	九州農業研究 53: 84.
川上清隆・小林敏郎・ 小畑琢志・富永時任	1974	北海道におけるジャガイモ黒脚病につい て.	日植病報 40(3): 201.(講要)
川上清隆・小林敏郎	1975	ジャガイモ黒脚病の抗血清による診断.	日植病報 41(1): 120.(講要)
川上清隆・小林敏郎	1975	ジャガイモ黒脚病菌に寄主特異的なバク テリオファージ.	日植病報 41(3): 280-281.(講 要)
川上清隆・小林敏郎・ 小畑琢志・富永時任	1976	ジャガイモ黒あし病に関する研究 I 病 原細菌の細菌学的性質.	植防研報 13: 19-30.
川上清隆・工藤浩平・ 小林敏郎	1977	ジャガイモ黒あし病に関する研究 II 黒あ し病の抗血清による診断.	植防研報 14: 24-31.
木村貞夫	1977	収穫後のジャガイモ塊茎腐敗防止につい て 第1報 軟腐病感染条件の検討.	九州病虫研報 23: 57-59.
木村貞夫・小川義雄・ 知識敬道	1979	ジャガイモの軟腐病による塊茎腐敗の防 止法 - 暖地ジャガイモの出荷前処理.	長崎総農試研報(農業) 7: 100-121.
木村伸司・柳田麒策	1974	接種塊茎によるジャガイモ黒脚病の発病 経過.	日植病報 40(2): 119.(講要)
木村伸司	1975	接種塊茎によるジャガイモ黒脚病の発病 経過 (2).	日植病報 41(1): 128.(講要)
木村伸司・柳田駒策	1978	種いも及び発病茎におけるジャガイモ黒 あし病原菌の消長.	日植病報 44(1): 72.(講要)
木村伸司	1980	種いも接種によるジャガイモ黒あし病の発 生経過.	北海道農試研報 125: 9-16.
木村伸司	1980	罹病ジャガイモ上の黒あし病菌の推移.	北海道農試研報 125: 17-22.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小林敏郎・川上清隆	1977	ジャガイモ黒あし病に関する研究 III 黒あし病菌に寄主特異的なフーヅ.	植防研報 14: 32-37.
高知農試	1916	馬鈴薯湿性腐敗病予防試験.	病蟲雜 3(6): 473.
Koike, M., Kozawa, T., Okino, K., Nagao, H. and Shimada, T.	1996	<i>In vitro</i> evaluation of potato resistance <i>Verticillium albo-atrum</i> .	Res. Bull.Obihiro Univ. 20(1): 11-16.
小室幸子・土屋健一・Mulya, K.・堀田光生・百町満朗	2003	インドネシア産青枯病菌の多様性.	日植病報 69(1): 42. (講要)
近藤 史・牛木 純・福田豊・上田 実・内藤繁男	2001	ジャガイモ指斑病の発生に及ぼすカルシウムおよびホウ素肥料の影響.	土肥誌 72(2): 230-236.
小山八十八・星野好博	1950	馬鈴薯凋萎病発生実態調査結果に就て.	日植病報 14(1・2): 39. (講要)
黒木達也・小松亜璃沙・森 太郎・松崎弘美・松添直隆	2014	非病原性 <i>Ralstonia solanacearum</i> によるジャガイモ青枯病の発病抑制. (植物病理)	土と微生物 68(2): 114-115. (講要)
前田征之・渡辺 忍・寺田恵里香・安岡眞二・田中文夫・美濃羊輔	1997	ジャガイモ黒脚病菌 (<i>Erwinia chrysanthemi</i>) の塊茎内部保菌.	北日本病虫研報 48: 66-68.
Masangcay, T.	2015	Mapping of bacterial wilt population in potato growing areas in Benguet and Mountain Province: An important facet in seed production.	118th Ann. Meeting .Jpn. Soc. Trop. Agr., A-61. (abs.)
永松 貢	1960	じゃがいもの俵内温湿度と軟腐病菌の感染状況.	日植病報 25(1): 47-48. (講要)
中保一浩・秋津教雄・仲川晃生	2006	ジャガイモマイクロチューバーへのシュードモナス・フルオレッセンス剤処理方法の検討.	日植病報 72(1): 39-40. (講要)
中村吉秀・落合弘和・加来久敏・後藤孝雄・土屋健一・堀田光生・平八重一之・日比忠明	1993	ジャガイモ青枯病菌(<i>Pseudomonas solanacearum</i>)の大腸菌rRNA(16S+23S)プローブによるRFLP解析.	日植病報 59(3): 306. (講要)
中村吉秀・後藤孝雄	1994	春作におけるジャガイモ青枯病の発病条件.	日植病報 60(6): 734-735. (講要)
中村吉秀・後藤孝雄・仲川晃生	1995	ジャガイモ青枯病の品種抵抗性検定法 (予報).	日植病報 61(6): 596. (講要)
中村吉秀・後藤孝雄	1995	春作におけるジャガイモ青枯病の発病条件.	九州農業研究 57: 87.
中村吉秀・後藤孝雄・仲川晃生	1996	ジャガイモ青枯病の品種抵抗性検定法 (予報).	九州農業研究 58: 91.
中村吉秀・仲川晃生	1996	生理型の違いがジャガイモ青枯病の発病および生育・収量に及ぼす影響 - 秋作 -.	日植病報 62(3): 307. (講要)
中村吉秀・迎田幸博・菅康 弘・仲川晃生	1997	塊茎浸漬接種法を用いたジャガイモ青枯病の品種抵抗性検定.	日植病報 63(3): 242. (講要)
成田武四・春貫起男	1951	馬鈴薯の凋萎性病害に関する研究 (I) 凋萎性病害の種類とその區別点.	日植病報 15(2): 79-80. (講要)
成田武四・春貫起男	1951	馬鈴薯の凋萎性病害に関する研究 (II) 美深地方に於ける所謂凋萎病の発生と気温並に降水との関係.	日植病報 15(2): 80. (講要)
成田武四	1951	北海道に於ける馬鈴薯青枯病の発生について.	北日本病虫年報 2: 30-31. (講要)
成田武四・春貫起男	1952	北海道に於ける馬鈴薯青枯病の発病について.	日植病報 16(1): 29. (講要)
成田武四・春貫起男	1952	北海道に於ける馬鈴薯青枯病に関する調査.	北海道立農試報告 4: 1-62.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
成田武四	1958	北海道における馬鈴薯の細菌病に関する研究.	北海道立農試報告 8: 1-80.
西田藤次	1923	馬鈴薯黒脚病.	病蟲雑 10(6): 310-314.
西山幸司・酒井隆太郎	1975	<i>Fseudomonas caronafaciens</i> var. <i>atropurpurea</i> の生産する生理活性物質 3. ジャガイモ塊茎切片が生理活性物質に反応する諸条件.	日植病報 41(3): 281-282.(講要)
大堀英幹	2015	種苗管理センターにおけるジャガイモ黒あし病の発生状況と対応.	いも類振興情報 125: 26-32.
小笠原賢亮・富永時任	1979	ジャガイモ萎凋細菌病の新潟における発生.	日植病報 43(1): 126.(講要)
小原 赴・橋口満男・吉武貞敏・三善重信	1956	馬鈴薯軟腐病耐病性の品種間差違について 第1報 接種試験について.	福岡農試時報 13: 23-24.
岡部徳夫・後藤正夫	1956	<i>Fseudomonas</i> sp. によるヒマワリ, ジャガイモ, キャベツ, クローバ及びダリアの病害について.	日植病報 20(4): 173.(講要)
岡山農試	1916	馬鈴薯青枯病豫防試験.	病蟲雑 3(11): 903.
大城 篤・田場 聡・高江洲和子	2001	沖縄県で発生したジャガイモ青枯病の発生生態.	九州病虫研報 47: 153.(講要)
大城 篤・高江洲和子・上原美歌・高江洲賢文・伊良波幸和	2005	ジャガイモ青枯病に防除効果を有するアメリカフウロの施用量と施用方法の改善.	日植病報 71(3): 245-246.(講要)
Ooshiro, A., Kaji, M., Katoh, Y., Kawaide, H. and Natsume, M.	2011	Antibacterial activity of alkyl gallates and related compounds against <i>Ralstonia solanacearum</i> .	J. Pesticide Sci. 36(2): 240-242.
尾崎克己・木村俊彦	1984	ナス科植物青枯病菌の黄褐変現象と biovar との関係について.	日植病報 50(3): 418.(講要)
尾崎政春・谷井昭夫・馬場徹代・土屋貞夫	1968	ジャガイモ黒脚病とその病原細菌 (予報).	日植病報 34(5): 262.(講要)
尾崎政春・土屋貞夫	1970	ばれいしょ黒脚病類似病害について.	北農 37(11): 24-27.
尾崎政春・谷井昭夫・馬場徹代・土屋貞夫	1972	ジャガイモ黒脚病の伝播様式.	北海道立農試集報 28: 62-69.
榑 善和・福永泰也・黒田弥生・松添直隆・岩井久・荒井 啓	1998	<i>Solanum toxicarium</i> における <i>Ralstonia (Pseudomonas) solanacearum</i> の動静.	九州病虫研報 44: 115.(講要)
佐藤倫造	1983	<i>Verticillium albo-atrum</i> のアルファルファ菌株およびジャガイモ菌株の病原性.	日植病報 49(1): 120.(講要)
菅 康弘・中村吉秀・仲川晃生	1997	暖地二期作条件におけるジャガイモ青枯病菌の動態.	日植病報 63(6): 480.(講要)
菅 康弘・仲川晃生・迎田幸博	1997	ジャガイモ青枯病の発病に及ぼすバリダマイシンの効果.	九州病虫研報 43: 19-21.
菅 康弘・仲川晃生	1998	ジャガイモ青枯病抵抗性に及ぼす biovar の影響.	九州病虫研報 44: 114-115.(講要)
菅 康弘・中村吉秀・仲川晃生	1998	ジャガイモ青枯病各種 biovar が発病におよぼす影響(秋作).	日植病報 64(4): 379.(講要)
菅 康弘・中村吉秀・仲川晃生	1998	ジャガイモ青枯病菌各種 biovar が発病に及ぼす影響(春作).	日植病報 64(6): 591.(講要)
菅 康弘・仲川晃生	1999	ジャガイモ青枯病の生物的防除法に関する研究 第1報 発病抑制に関する微生物の選抜.	日植病報 65(6): 645.(講要)
菅 康弘・仲川晃生	1999	ジャガイモ青枯病の薬剤防除法としてのバリダマイシン剤の利用.	九州病虫研報 45: 21-23.
菅 康弘・仲川晃生	1999	バリダマイシン剤によるジャガイモ青枯病の防除法.	九州病虫研報 45: 134.(講要)
菅 康弘・仲川晃生	2000	ジャガイモ青枯病の生物防除に有効な微生物の選抜.	九州農業研究 62: 73.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
菅 康弘・仲川晃生	2000	南西諸島におけるジャガイモ青枯病の発生とその要因.	土と微生物 54(2): 165.(講要)
菅 康弘・宮崎 孝	2001	挿芽浸漬法を用いたジャガイモ品種の青枯病抵抗性検定.	九州病虫研報 47: 6-8.
菅 康弘・小川哲治・堀田光生・古屋成人・土屋健一	2012	暖地二期作ジャガイモ栽培における緑肥導入と青枯病発生抑制効果との関係.	日植病報 78(1): 72-73.(講要)
菅 康弘・小川哲治・堀田光生・梅北瑞紗・古屋成人・土屋健一	2012	日本産ジャガイモ青枯病菌 <i>Ralstonia solanacearum</i> の各種ジャガイモ品種に対する病原力の差異.	日植病報 78(3): 281-282.(講要)
菅 康弘・小川哲治・堀田光生・古屋成人・土屋健一	2012	暖地二期作ジャガイモ栽培への緑肥導入が青枯病の発生におよぼす影響.	土と微生物 66(2): 76.(講要)
菅 康弘・堀田光生・古屋成人・土屋健一	2013	日本産ジャガイモ青枯病菌 <i>Ralstonia solanacearum</i> のジャガイモ品種・系統に対する病原力と各種植物に対する病原性の差異.	植防 67(11): 612-617.
菅 康弘・堀田光生・古屋成人・土屋健一	2013	本邦産ジャガイモ青枯病菌 <i>Ralstonia solanacearum</i> の各種植物に対する病原性の差異.	日植病報 79(1): 71.(講要)
Suga, Y., Horita, M., Umekita, M., Furuya, N. and Tsuchiya, K.	2013	Pathogenic characters of Japanese potato strains of <i>Ralstonia solanacearum</i> .	J. Gen. Plant Pathol. 79(2): 110-114.
菅 康弘・堀田光生・古屋成人・土屋健一	2014	日本産ジャガイモ青枯病細菌の系統と病原性.	植物細菌病談話会論文集 26: 1-9.
Suharjo, R., Hayakawa, T., Tsujimoto, H., Nomura, K., Sawada, H. & Takikawa, Y.	2009	Identification of <i>Dickeya</i> sp. isolated from bacterial stem rot of potato.	日植病報 75(3): 272.(講要)
陶山一雄・Budi, Tjahjano・藤井 溥	1987	<i>Clostridia</i> によるジャガイモ塊茎腐敗 (1) 発生と分布.	日植病報 53(3): 403-404.(講要)
陶山一雄	1989	<i>Pectolytic clostridia</i> に起因する根系作物の軟化腐敗症状.	植物細菌病談話会講要集(第15回), pp.27-33.
陶山一雄・鈴木匡之・根岸寛光・藤井 溥	1989	根基作物に存在する <i>Pectolitic clostridia</i> .	日植病報 55(4): 510.(講要)
陶山一雄・budi, T.・藤井 溥	1990	貯蔵ジャガイモ塊茎に発生した粘性腐敗病.	日植病報 56(5): 577-583.
鈴木裕志・田中文夫・川瀬由香里・麻生真琴・美濃羊輔	2000	増菌法およびPCRによるジャガイモ塊茎中の黒脚病菌 <i>E. chrysanthemi</i> の検出.	日植病報 66(3): 330-331.(講要)
田淵尚一	1979	ジャガイモ青枯病抵抗性の早期検定法.	九州病虫研報 25: 14-16.
田淵尚一・山川邦夫・望月英雄	1984	バレイショの青枯病抵抗性早期検定の可能性.	農及園 59(5): 711-712.
田淵尚一・亀川 沼・佐田 満・塚本正男・松尾和敏	1987	ジャガイモ青枯病防除に対する土壌消毒剤の効果について.	九州病虫研報 33: 235-236.(講要)
竹内 徹・谷井昭夫・美濃羊輔	1986	ジャガイモ塊茎, 根からのそうか病菌拮抗菌の分離とその抗菌スペクトラム.	日植病報 52(1): 138-139.(講要)
竹内 徹・谷井昭夫・美濃羊輔	1987	ジャガイモそうか病菌拮抗細菌の分類・同定および根圏での増殖.	日植病報 53(1): 78-79.(講要)
滝元清透	1927	馬鈴薯・蕃茄・甘藍・苺・其他野菜及び花弁類の腐敗病に関する研究 (1).	農及園 2(8): 843-852.
滝元清透	1927	馬鈴薯・蕃茄・甘藍・苺・其他野菜及び花弁類の腐敗病に関する研究 (2).	農及園 2(9): 967-976.
滝元清透	1930	馬鈴薯の青枯病.	病蟲雑 17(10): 643-646.
滝元清透	1954	ジャガイモ軟腐病予防上薬剤のかけ方.	日植病報 19(1・2): 90.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中文夫・不破秀明・堀田光生	2008	ジャガイモ黒あし病菌3種のELISAおよびPCRによる識別.	日植病報 74(3): 256-257.(講要)
田中文夫・不破秀明・堀田光生	2009	ELISAおよびPCRを用いたジャガイモ黒あし病菌3種の保菌塊茎からの検出.	日植病報 75(1): 87.(講要)
田中文夫・不破秀明・堀田光生	2009	種いも伝染性病原細菌のジャガイモ塊茎からの簡易検出法の開発.	日植病報 75(3): 273.(講要)
田中文夫・清水基滋・角 一雄・大上大輔・小笠原美奈子・不破秀明・児玉不二雄	2010	ジャガイモの種いも伝染性細菌病の切断刀伝染に対するマレイン酸の防除効果.	北日本病虫研報 61: 57-60.
田中文夫・清水基滋・不破秀明・小曾納雅則・大上大輔・小笠原美奈子・角 一雄	2011	ジャガイモの種いも伝染性病害の切断刀伝染に対するマレイン酸の防除効果.	植防 65(9): 551-554.
田中一郎	1950	馬鈴薯凋萎病について.	防疫時報 18: 18-22.
谷井昭夫・馬場徹代	1971	北海道における植物細菌病 II <i>Erwinia chrysanthemi</i> Burkholder et al. (<i>Pectobacterium carotovorum</i> var. <i>chrysanthemi</i>)によるジャガイモの萎凋細菌病.	北海道立農試集報 24: 1-10.
谷井昭夫・馬場徹代	1971	ジャガイモから分離された <i>Erwinia</i> 属細菌2種とアズキ, キュウリから分離された <i>Pseudomonas</i> 属細菌2種.	日植病報 37(3): 183.(講要)
谷井昭夫・尾崎政春・馬場徹代	1973	ジャガイモの黒脚病.	日植病報 39(4): 351-360.
谷井昭夫・赤井 純	1975	<i>E. carotovora</i> var. <i>carotovora</i> の1系統菌によるジャガイモの黒脚病.	日植病報 41(3): 280.(講要)
Tanii, A. and Akai, J.	1975	Blackleg of potato plant caused by a serologically specific strain of <i>Erwinia carotovora</i> var. <i>carotovora</i> (Jones) Dye.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 41(3): 513-517.
谷井昭夫・赤井 純	1977	種薯消毒によるジャガイモ黒脚病の防除.	日植病報 43(3): 357.(講要)
谷井昭夫・赤井 純	1978	切断刀およびコンテナ消毒剤のジャガイモ病害類に対する効果.	日植病報 44(1): 72.(講要)
谷井昭夫	1980	ジャガイモの黒脚病を起因する細菌と簡易同定法.	日植病報 46(3): 401.(講要)
谷井昭夫	1981	ジャガイモ軟腐病および黒脚病の生態と分類に関する一考察.	日植病報 47(3): 393.(講要)
谷井昭夫	1982	ジャガイモ軟腐病のストレプトマイシン剤種薯処理と茎葉散布による防除効果.	日植病報 48(1): 129.(講要)
谷井昭夫	1983	“ジャガイモの病害”, <i>Erwinia</i> (黒あし病菌と軟腐病菌), 「北海道畑作物の土壤病害」(宇井格生 監修).	北海道畑作物の土壤病害刊行会, 札幌, pp.15-25.
谷井昭夫	1984	北海道におけるジャガイモ黒あし病に関する研究.	北海道立農試報告 45: 1-104.
谷井昭夫・安岡真二・田中文夫	1994	北海道十勝地方でジャガイモ黒あし病を起因する <i>Erwinia chrysanthemi</i> の生化学的および血清学的性質.	日植病報 60(6): 791-792.(講要)
Tauati, J.・神田絢美・矢野和孝・大西浩平・木場章範・曳地康史	2005	わが国で分離された <i>Ralstonia solanacearum</i> のgyrBとpopAの塩基配列とpopP1の有無による系統解析.	日植病報 71(1): 67-68.(講要)
富永時任・西山幸司	1970	北海道に発生したジャガイモ黒脚病.	日植病報 36(5): 337.(講要)
富永時任・小笠原賢亮	1979	ジャガイモ萎凋細菌病の新潟における発生.	日植病報 45(4): 474-477.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
水流照男	1995	“3.青枯病”, II 馬鈴薯の病害虫とその防除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切嶺 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.52-54.
露無慎二・村田伸夫	1978	ジャガイモ黒脚病菌における各種ペクチン質分解酵素の活性.	日植病報 43(3): 380.(講要)
上田榮次郎	1903	植物細菌病(其一)「バチルス, ソラニシアルム」及び「バチルス, ソラニンコーラ」ノ性質.	植雑 17(202): 321-322.(雑録)
Wakimoto, S., Utatsu, I., Matsuo, N. and Hayashi, N.	1982	Multiplication of <i>Pseudomonas solanacearum</i> in pure water.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(5): 620-627.
柳田麒策	1974	ジャガイモ黒脚病菌の熱水可溶性抗原について.	日植病報 40(2): 119-120.(講要)
柳田麒策	1977	ジャガイモ塊茎切断面における黒あし病菌の増殖.	日植病報 43(1): 108.(講要)
柳田麒策	1977	発病初期の接種塊茎でのジャガイモ黒あし病菌菌量.	日植病報 43(3): 351-352.(講要)
柳田麒策・木村伸司	1980	ジャガイモ種いもの黒あし病菌による汚染調査.	北海道農試研報 128: 7-11.

630 菌類病

中山尊登	2012	“3節-(3) 菌類病とその防除”, III章 ジャガイモの生産と普及, 「ジャガイモ事典」(いも類振興会 編).	いも類振興会, 東京, pp.216-222.
------	------	---	-------------------------

631 疫病1

鏡谷大節	1967	ジャガイモ疫病に対するユーパレン水和剤の防除効果.	農薬研究 1384): 31-32.
鏡谷大節	1968	ばれいしょ疫病に対するアントラコールの試験結果.	農薬研究 15(1): 1-3.
赤井 純・田中一郎	1956	馬鈴薯疫病の初期発生様相.	北日本病虫年報 7: 66.(講要)
赤井 純・田中一郎	1959	馬鈴薯疫病菌の新生塊茎罹病について.	日植病報 24(1): 22.(講要)
赤井 純・坪木和男	1968	ジャガイモ疫病発生程度別面積調査の調査方法の検討.	北日本病虫研報 19: 35.
赤井 純・坪木和男	1969	ジャガイモ疫病発生程度別面積調査の調査方法の検討 2.	北日本病虫研報 20: 36.
秋野聖之・廣富 大・加藤雅康・林 敬介・近藤則夫	2009	2001年から2007年に分離された日本産ジャガイモ疫病菌のメタラキシル感受性の変化.	北日本病虫研報 60: 285.(講要)
秋野聖之・小沼花織・廣富 大・萩原寛之・林 敬介・近藤則夫	2009	2005-2007年における日本産疫病菌の遺伝子型.	日植病報 75(3): 236.(講要)
秋野聖之・Steven Kildea・近藤則夫・Loiise R. Cooke	2011	日本におけるジャガイモ疫病菌集団の遺伝的多様性と外国集団との関係.	日植病報 77(1): 76-77.(講要)
秋野聖之・白井佳代・内藤良平・玉木健二・近藤則夫	2011	2008-2010年に同一圃場に発生したジャガイモ疫病菌集団の急激な変化.	日植病報 77(1): 169.(講要)
秋野聖之	2013	日本におけるジャガイモ疫病菌の系統の変化.	植防 67(10): 553-557.
秋野聖之・竹本大吾・保坂和良	2014	<i>Phytophthora infestans</i> : ジャガイモ疫病研究 一過去と現在の概観一.	日植病報 80(特集号): 8-15.
Akino, S., Takemoto, D. and Hasaka, K.	2014	<i>Phytophthora infestans</i> : a review of past and current studies on potato late blight.	J. Gen. Plant Pathl. 80(1): 24-37.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
秋野聖之・大澤 央・福江由佳・浅野賢治・近藤則夫	2016	無病徴塊茎におけるジャガイモ疫病菌の生存と塊茎腐敗への関与.	日植病報 82(3): 256.(講要)
Anderson, P. and Foorbes, G	2007	ジャガイモ疫病研究の原点にたつて.	いも類振興情報 93: 1-5.
有本英里香・多賀正節	2009	ジャガイモ疫病菌 <i>Phytophthora infestans</i> における半数体株の発見.	日植病報 75(1): 73.(講要)
青森農試	1926	馬鈴薯疫病ト種薯トノ關係試験.	青森農試業年 14:30.
明日山秀文・山口富雄	1951	ジャガイモ疫病菌の病薯による越冬とその発病経過.	日植病報 15(3・4): 148-149.(講要)
明日山秀文・山口富雄	1952	馬鈴薯疫病の第一次伝染源.	日植病報 16(3・4): 144.(講要)
茶谷正孝・小村国則	2005	パレイシヨのメタラキシル耐性疫病菌に対する品種系統間差異 第1報 切離葉による抵抗性検定.	九州農業研究 67: 23.
忠 英一・北野のぞみ	2000	ジャガイモ疫病の薬剤散布時期と防除効果.	東北農業研究 53: 97-98.
(大日本農會)	1902	馬鈴薯疫病. [雑録]	大日本農會報 255: 53.
(大日本農會)	1903	瓜哇薯疫病. [農界片々]	大日本農會報 265: 60.
遠藤利光・佐々木正人・青木 篤・赤井 純	1983	Metalaxylのジャガイモ疫病および疫病菌による塊茎腐敗防除効果.	日植病報 49(1): 117.(講要)
藤井直哉・秋野聖之・生越 明	1995	ジャガイモ疫病菌の卵胞子形成に及ぼす要因について.	日植病報 61(6): 651.(講要)
藤川江梨子・秋野聖之・内藤繁男	2000	ジャガイモ疫病菌の卵胞子発芽株の培養性質とハイブリッド検定.	日植病報 66(3): 310.(講要)
藤根 統	2012	ジャガイモ疫病による塊茎腐敗に対する薬剤の効果試験条件の検討.	北日本病虫研報 63: 37-41.
藤原秀雄	1942	美深地方に於ける馬鈴薯疫病防除上の注意.	北農 9(7): 14-18., 北海道農試時報 161: 13-17.
福江由佳・秋野聖之・近藤則夫	2015	ジャガイモ疫病菌の系統間における培養性質および病原力の比較.	日植病報 81(1): 91.(講要)
福江由佳・大塚美幸・秋野聖之・浅野賢治・近藤則夫	2015	ジャガイモ疫病菌の土壌混和接種による塊茎腐敗の発病条件.	日植病報 81(3): 222.(講要)
福居文男・小林幸男	1954	馬鈴薯疫病に対するザラム剤の防除効果試験.	北日本病虫年報 5: 95-96.(講要)
福居文雄・小林幸男	1957	馬鈴薯疫病とオオニジュウヤホシテントウムシの防除試験.	北日本農薬研 6: 70-71.
福富雅夫・山本昌木	1979	疫病菌に対するジャガイモ葉組織細胞の抵抗性ならびに感受性反応の電子顕微鏡観察.	日植病報 45(4): 534-535.(講要)
後藤清孝・清多佳子・秋野聖之・内藤繁男	2002	ジャガイモ疫病菌形質転換株を用いた有性生殖器官の識別.	日植病報 68(2): 175-176.(講要)
後藤清孝・秋野聖之・内藤繁男	2003	ジャガイモ疫病菌GUS形質転換株を用いた有性生殖の観察.	日植病報 69(3): 272-273.(講要)
後藤清孝・秋野聖之・前田淳司・内藤繁男	2004	アジア諸国および北海道におけるジャガイモ疫病菌の集団遺伝学的解析.	日植病報 70(3): 214.(講要)
後藤清孝・秋野聖之・内藤繁男	2005	ジャガイモ疫病菌北海道菌株の卵胞子発芽.	日植病報 71(3): 213.(講要)
波部一平・小川哲治	2013	ジャガイモ疫病防除における各種無機銅水和剤の耐雨性評価.	九州病虫研報 59: 7-12.
波部一平・小川哲治	2016	各種ジャガイモ疫病防除用無機銅水和剤の人工降雨装置下での耐雨性評価.	植防 70(8): 525-529.
原 敬一	1954	培養基上より見た馬鈴薯疫病菌の病原性の相違について.	日植病報 18(3・4): 158.(講要)
平井篤造・他	1954	馬鈴薯種間雑種の疫病抵抗性検査.	東北農業 7(6): 181-182.
廣富 大・馬場ゆきこ・秋野聖之・近藤則夫	2008	2001年から2004年に北海道で分離されたジャガイモ疫病菌の遺伝子型分布.	日植病報 74(3): 213.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
廣富 大・細淵勇治・後藤清孝・秋野聖之・近藤則夫	2009	トマトおよびジャガイモから分離された疫病菌の遺伝子型分布と病原力の比較.	日植病報 75(1): 89.(講要)
廣富 大・後藤清孝・細淵勇治・秋野聖之・近藤則夫	2009	日本産 <i>Phytophthora infestans</i> の遺伝子型とトマト葉に対する病原力の関係.	日植病報 75(1): 236.(講要)
北海道庁	1901	馬鈴薯疫病.	殖民法 1: 45-47.
北海道農試	1912-1915	馬鈴薯ボルドー合剤撒布試験.	北海道農試業功 (明治44, 45, 大正2, 3年度).
北海道農試	1912-1915	馬鈴薯品種對疫病關係試験.	北海道農試業功 (明治44, 45, 大正2, 3年度).
北海道農試	1916	馬鈴薯「疫病知ラズ」ノ来歴ニ關スル調査.	北海道農試業功 (大正2年度), p.22.
北海道農試	1919	馬鈴薯疫病ト播種期トノ關係試験.	北海道農試業功 (大正6年度), pp.25-26.
北海道農試	1921	耐病性馬鈴薯「北農2号」成績概要.	道農會報 21(9): 313-318.
北海道農試	1922	耐病性馬鈴薯「北農2号」成績概要.	病蟲雜 9(8): 454-459.
北海道農試	1921-1922	馬鈴薯疫病對ボルドー合剤撒布經濟調査(上川支場).	北海道農試業概 (大正7, 8, 9年度).
北海道農試	1928	馬鈴薯疫病及二十八星瓢蟲防除試験.	北海道農試業概 (昭和3年度), p.149., 164.
堀 正侃	1934	馬鈴薯疫病菌と寄主及びその他の植物との關係.	日植病報 4(1・2): 88-89.(講要)
堀 正侃	1934	病原菌の性質から見た馬鈴薯の疫病に就て.	日園雜 46: 49-54.
堀 正侃	1935	馬鈴薯疫病防除論 (1).	教育農藝 4: 462-468.
堀 正侃	1935	馬鈴薯疫病防除論 (2).	教育農藝 4: 571-576.
堀 正侃	1935	馬鈴薯疫病菌の植物体侵入と化學成分との關係.	日植病報 5(1): 10-22.
堀 正侃	1935	疫病菌の寄主體侵入に就て.	日植病報 5(1): 79-82.(講要)
堀 正侃	1935	馬鈴薯疫病菌とその抵抗性植物との關係に就ての研究.	日植病報 5(3): 225-244.
堀 正侃	1935	培養基上から見た馬鈴薯疫病菌の寄生性.	病蟲雜 22(3): 193-201.
堀 正侃	1936	濃度を異にする各種溶液中に於ける <i>Phytophthora infestans</i> の遊走子形成.	日植病報 6(2): 145-148.
堀 正侃	1938	本邦各地産馬鈴薯疫病菌に關する2, 3の調査.	日植病報 8(1): 66-67.(講要)
堀 正侃	1940	馬鈴薯品種の疫病に對する抵抗性.	病蟲雜 27(12): 856-857.
堀 正侃	1944	馬鈴薯疫病防除論.	農業 762: 36-46.
堀 正侃	1947	“馬鈴薯の疫病(べと病)”, 「甘藷馬鈴薯の病虫害」(中島 汀 編).	日本甘藷馬鈴薯(株), 東京, pp.1-17.
堀 正侃	1948	馬鈴薯疫病とその防ぎかた. (農林叢書第26号)	農業技術協會, 東京, 28p.
堀 正侃	1950	“馬鈴薯の疫病(べと病)”, 「いも類の病虫害と防除」(堀 正侃 編).	朝倉書店, 東京, pp.1-20.
堀 正侃	1951	馬鈴薯疫病の生態と防除.	農及園 26(1): 55-58.
堀 正侃・吉田三千子	1959	馬鈴薯疫病菌株の卵胞子形成の差異.	日植病報 24(1): 21-22.(講要)
堀 正侃・吉田三千子	1959	馬鈴薯疫病菌の卵胞子と雌雄性菌株について.	日植病報 24(1): 37.(講要)
堀 正侃・吉田三千子	1959	罹病植物, 各種培地上に於ける馬鈴薯疫病菌の卵胞子様器官について.	日植病報 24(1): 37-38.(講要)
堀 正侃・桜井義郎	1959	馬鈴薯疫病菌の土中越冬について.	日植病報 24(1): 38.(講要)
堀 正侃・吉田三千子	1959	馬鈴薯疫病菌の卵胞子形成について.	日植病報 24(2): 87-92.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
堀 正侃・桜井義郎	1961	馬鈴薯疫病菌の第一次発生源に関する調査研究 III 罹病薯による疫病菌の越冬について.	日植病報 26(2): 75.(講要)
堀 正侃	1964	馬鈴薯疫病の伝染環に関する研究.	農薬検査所報告 (特別号), pp.1-69.
堀川知広・富山宏平・道家紀志	1974	ジャガイモ健全および感染組織中での ¹⁴ C-リシチンの代謝.	日植病報 40(3): 180-181.(講要)
堀田治邦・谷井昭夫・佐々木正人	1990	フェニルアマイド系殺菌剤耐性のジャガイモ疫病菌の発生とその諸性質.	日植病報 56(1): 145.(講要)
市川久雄・原田敏男・近藤 租	1960	ダイセンM-22のミスト機利用によるジャガイモ疫病の除防効果.	関東東山病虫年報 7: 27.
市川久雄・原田敏男・呉羽好三・柴本 精・黒岩 匡	1963	広幅散布機による穂いもち病, ニカメイチュウ第2世代およびジャガイモ疫病防除効果.	関東東山病虫年報 10: 29.
飯田 格・綾正 弘・元橋 顕	1950	粉剤による馬鈴薯疫病防除試験.	農及園 25(5): 421-422.
飯塚慶久	1953	馬鈴薯エキ病の発生予察法.	植防 7(5・6): 147-451.
稲垣春郎	1970	顕微映画によるジャガイモ細胞の疫病菌に対する初期反応の研究 (1) 映画撮影中の顕微鏡視野 (ニコンM型) の温度変化について.	日植病報 36(5): 366.(講要)
石坂信之・柳田麒策	1973	ジャガイモ漿果の疫病について.	北日本病虫研報 24: 58.
伊藤隆二・高桑 亮	1965	イネいもち病とジャガイモ疫病.	日植病報 (記念号): 51-57.
Ito, S.	1918	A preliminary report on a leaf-blight resistant strain of potato.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 1(1): 5-9.
伊藤誠哉	1919	馬鈴薯の疫病に就て.	園芸 11(3): 11-19.
伊藤誠哉	1921	馬鈴薯に対するボルドー合剤撒布試験.	北海道農事試報告 11: 45-47.
伊藤十四英・中山高成	1956	馬鈴薯疫病の発生条件と収量.	農及園 31(3): 471-472.
岩田 勉	1968	ダイホルタンH水和剤の馬鈴薯疫病に対する効果.	農薬 15(3): 60-63.
出水忠夫	1950	馬鈴薯疫病の発生予察に就いて.	日植病報 15(1): 37-38.(講要)
鹿児島農試	1925	馬鈴薯の疫病竝に偽瓢蟲豫防試験.	鹿児島農試功程 (大正14).
鹿児島農試	1926	馬鈴薯疫病蟲豫防試験.	鹿児島農試功程 (昭和元).
梶原敏宏	1972	ジャガイモ疫病菌の侵入と寄主反応の電顕観察.	日植病報 38(3): 183.(講要)
笠井幹夫	1926	馬鈴薯ノ疫病ニ關する研究.	農林省病菌害蟲彙報 17: 1-
鹿島健太・秋野聖之・白井佳代・平田明靖・内藤良平・玉木健二・近藤則夫	2012	2009-2011年の北海道で発生したジャガイモ疫病菌の遺伝子型構成.	日植病報 78(3): 228.(講要)
鹿島健太・秋野聖之・近藤則夫	2014	ジャガイモ疫病菌遺伝子型間における病原性および腐生性の差異.	日植病報 80(1): 58-59.(講要)
加藤文一	1960	疫病菌に対する馬鈴薯品種塊茎の反応について.	日植病報 25(5): 236.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・生越 明・小林喜六	1988	ジャガイモ疫病菌の生理的変異に関する研究 (II) コロニータイプと病原性.	日植病報 54(3): 349.(講要)
加藤雅康・A.A. Mosa・佐藤章夫・生越 明	1989	ジャガイモ疫病菌の親和性型 (compatibility type), 培養型, 病原性の相互関係.	日植病報 55(4): 499.(講要)
加藤雅康	1989	日本におけるジャガイモ疫病菌の交配型A2菌の発見. (こんなことが, いま)	土と微生物 34: 69-70.
加藤雅康・A.A. モサ・佐藤章夫・小林喜六・生越 明	1990	メタラキシル耐性ジャガイモ疫病菌の日本における分布.	日植病報 56(1): 145.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
加藤雅康・A.A. Mosa・佐藤章夫・小林喜六・生越 明	1990	ジャガイモ疫病菌の交配型A1, A2の日本における分布 -1989年の調査結果-	日植病報 56(3): 375.(講要)
加藤雅康・A.A. Mosa・佐藤章夫・小林喜六・生越 明	1991	日本におけるジャガイモ疫病菌の交配型の分布(1990年).	日植病報 57(1): 120.(講要)
加藤雅康・A.A. MOSA・佐藤章夫・小林喜六・生越 明	1992	メタラキシル耐性ジャガイモ疫病菌のわが国における分布(1990, 91年).	日植病報 58(1): 149.(講要)
Kato, M., Saito, N., Ahmed, A.M., Kobayashi, K. and Ogoshi, A.	1992	Cultural features associated with mating types of <i>Phytophthora infestans</i> isolated from potato crops in Japan.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 58(2): 267-275.
加藤雅康・佐藤章夫・島貫忠幸・A.A. Mosa・小林喜六・生越 明	1992	日本産ジャガイモ疫病菌の病原性と交配型.	日植病報 58(4): 556.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・高橋賢司	1993	ジャガイモの疫病菌A1, A2両交配型共存圃場における交配型間の競合と卵孢子形成.	日植病報 59(3): 299.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・高橋賢司	1993	ジャガイモ疫病菌卵孢子の試験圃場における形成の確認.	日植病報 59(6): 770.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・生越 明・島貫忠幸・高橋賢司	1994	日本におけるジャガイモ疫病菌の交配型, メタラキシル耐性, 病原性の推移.	日植病報 60(3): 358.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・高橋賢司	1996	ジャガイモ疫病の第一次病斑形成能力における交配型A ₁ , A ₂ 菌株間の比較.	日植病報 62(6): 648.(講要)
加藤雅康・佐藤章夫・高橋賢司	1997	低温貯蔵塊茎におけるジャガイモ疫病交配型A1とA2菌間の生存能力の比較.	日植病報 63(3): 213.(講要)
加藤雅康・内藤繁男	1997	北海道におけるジャガイモ疫病菌の交配型A1菌の新系統の発生とその分布.	日植病報 63(6): 529.(講要)
Kato, M., Sato, N., Takahashi, K. and Shimanuki, T.	1998	Yearly change of frequency and geographical distribution of A2 mating type isolates of <i>Phytophthora infestans</i> in Japan from 1987 to 1993.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 64(3): 168-174.
加藤雅康・内藤繁男	1998	ジャガイモ疫病菌の交配型A1菌の新系統の酵素多型, 病原性, オートミール寒天培地上の菌糸伸長.	日植病報 64(4): 332.(講要)
加藤雅康・内藤繁男	1998	ジャガイモ疫病菌新A1系統とA2系統の圃場抵抗性品種「マチルダ」に対する感染力の比較.	日植病報 64(6): 582.(講要)
加藤雅康・内藤繁男	1999	1998年に分離したジャガイモ疫病菌のメタラキシル感受性の系統間比較.	日植病報 65(3): 358-359.(講要)
加藤雅康・島貫忠幸	2001	ジャガイモ疫病発生予察モデルの北海道における適合性.	北日本病虫害研報 52: 38-41.
加藤雅康	2001	ジャガイモ疫病菌の系統の分布変動とその要因.	植防 55(10): 467-470.
加藤雅康・島貫忠幸	2002	ジャガイモ廃棄場における疫病の第一次病斑形成.	日植病報 68(1): 107.(講要)
加藤雅康・島貫忠幸・若山健二	2002	北海道におけるジャガイモ疫病菌の系統の地理的分布の変動(1999~2001年).	日植病報 68(2): 195.(講要)
加藤雅康・島貫忠幸	2003	ジャガイモおよびトマト疫病菌の両宿主における病斑拡大および遊走子のう形成量の差異.	日植病報 69(1): 75-76.(講要)
Katsube, T. and Chlrvathra, M.	1976	Potato tuber rot caused by late blight in SRI LANKA.	北日本病虫害研報 27: 36-40.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
桂 琦一・安味 宏	1964	<i>Phytophthora infestans</i> 菌遊走子のうの発芽の二型とその核現象.	日植病報 29(2): 70.(講要)
桂 琦一・千速 明	1967	ジャガイモ疫病菌による粉状そうか病類似症状の発現.	日植病報 33(2): 87.(講要)
桂 琦一・千速 明	1968	ジャガイモ疫病菌による粉状そうか病類似の病状発現.	関西病虫研報 10: 10-15.
桂 琦一	1968	ジャガイモ疫病菌による粉状そうか病類似の病害発生.	農及園 43(1): 75-76.
桂 琦一	1972	ジャガイモ疫病菌の遊走子嚢とその発芽における核現象.	京都府立大學術報告(農學) 24: 20-24.
河合一郎	1955	馬鈴薯の疫病防除はなぜ関心がうすいか.	農業技術研究 9(5): 20-21.
川上瀧彌	1903	馬鈴薯疫病九州ニ發生ス.	植雜 17(196): 119.(雜録)
菊地 重	1937	十勝地方に於ける品種別による馬鈴薯疫病防除の効果.	北農 4(11): 446-447.
北沢健治・富山宏平	1967	ジャガイモ疫病抵抗性反応の顕微鏡的解析 (I) 抵抗性品種における菌の進行停止.	日植病報 33(5): 350.(講要)
北沢健治・富山宏平	1968	ジャガイモ疫病抵抗性反応の顕微鏡的解析 (II) 褐変細胞内における菌糸の伸長.	日植病報 34(3): 180-181.(講要)
北沢健治・石坂信之・佐藤章夫・富山宏平	1968	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生態学的研究 (1) 土壤中菌量(レーシー・マーフィー変法)消長と塊茎腐敗発生消長との関係.	日植病報 34(5): 366-367.(講要)
北沢健治・佐藤章夫・石坂信之・富山宏平	1969	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生態学的研究 (3) 人工降雨による発生機構の解析.	日植病報 35(5): 371.(講要)
北沢健治・稲垣春郎・富山宏平	1970	顕微映画によるジャガイモ細胞の疫病菌に対する初期反応の研究 (2) 貫穿初期における寄主原形質の変化.	日植病報 36(5): 366.(講要)
北沢健治・佐藤章夫・石坂信之・根本正康	1971	土壤中におけるジャガイモ疫病菌の検出.	日植病報 37(5): 405.(講要)
北沢健治・佐藤章夫・石坂信之・富山宏平	1971	疫病菌によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生態学的研究 第1報 降雨と塊茎腐敗の発生.	北海道農試 98: 38-46.
北沢健治・佐藤章夫	1974	土壤中におけるジャガイモ疫病菌の検出 (2報).	日植病報 40(2): 120.(講要)
北沢健治	1975	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する研究. VIII 各種土壤におけるジャガイモ疫病菌の検出と生存.	日植病報 41(1): 127.(講要)
今野清隆・鈴木一実・山岡直人・福富雅夫・山本昌木	1978	全葉透明化法による疫病感染ジャガイモ葉細胞の反応型の解察.	日植病報 44(1): 93.(講要)
鴻江政雄・川田 武	1955	高冷地における馬鈴薯疫病の防除法.	農及園 30(6): 832-834.
工藤三郎・渡邊 茂・工藤和一	1951	銅粉剤による馬鈴薯疫病防除試験.	北日本病虫年報 2: 35-36.(講要)
工藤三郎・藤田竹雄	1957	馬鈴薯疫病に対する水銀剤防除試験.	北日本農薬研報 6: 62-63.(講要)
栗林數衛・市川久雄	1950	馬鈴薯疫病菌の空中に於ける飛散状況に関する調査.	日植病報 14(3・4): 104.(講要)
日下大器・北井史郎	1978	ジャガイモ疫病菌用新合成培地.	武田研究所報 37(1・2): 96-
草野俊助	1901	馬鈴薯病菌 <i>Phytophthora</i> 日本ニ産ス.	植雜 15(167): 1a-3.
草野俊助	1901	馬鈴薯疫菌ノ産地.	植雜 15(168): 36.(雜録)
草野俊助	1956	馬鈴薯疫病の思い出.	植防 10(12): 505.
桑山 隆	1955	馬鈴薯疫病菌に対する各種薬剤効果の一検定法.	日植病報 20(1): 40.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
桑山 隆・青木 篤	1956	馬鈴薯疫病に対する“馬鈴薯ボルドウ”の防除効果.	北日本農薬研報 5: 53-54.(講要)
教育農藝編集部	1933	馬鈴薯の疫病 (6月の農事作業).	教育農藝 2: 1131.
教育農藝編集部	1934	馬鈴薯の塊莖疫病 (二月の病害蟲).	教育農藝 3: 237.
米田 勉・森 元幸・梅村 芳樹	1991	ジャガイモ疫病菌レースの発生生態の変化.	日植病報 57(3): 407-408.(講要)
真木 胼	1952	鈴薯新品種並に蕃茄品種の疫病抵抗性に関する研究.	中国四国農業研究 1: 53-54.
三谷 滋・蒲池 健・杉本 光二・荒木智史・山口 明奈・小川宗和・堀江 幹也・大島 武・村井重 夫・松尾憲総	2000	新規殺菌剤IKF-916のバレイシヨ疫病に対する圃場での効果.	日植病報 66(2): 181.(講要)
三谷 滋・杉本光二・蒲 池 健・荒木智史・小川 宗和・大島 武・村井重 夫・松尾憲総	2000	新規殺菌剤シアゾファミドによるバレイシヨ 疫病の防除.	日植病報 66(3): 308.(講要)
三谷 滋・蒲池 健・杉本 光二・山口 朋奈・荒木 智史・瀧井康子・西村 昭広・大島 武・松尾憲 総	2001	(C-319) 北海道から分離したバレイシヨ疫 病菌のシアゾファミドに対する感受性.	日本農薬学会講要集 26th: 155.(講要)
三谷 滋・蒲池 健・杉本 光二・荒木智史・大島 武・松尾嘉総	2002	新規殺菌剤シアゾファミドによるバレイシヨ 疫病の防除 (2) -その適用性につい て.	日植病報 68(1): 107-108.(講 要)
Mitani, S., Kamachi, K. and Sugimoto, K.	2005	Control of potato late blight by cyazofamid.	J. Pesticide Sci. 30(2): 116-119.
三谷 滋・寛座俊孝・ Testers, J.・Schepers, HTAM	2008	新しく展開したジャガイモ葉上でのシアゾ フファミドの挙動.	日植病報 74(3): 271.(講要)
宮部金吾	1901	北海道に発生せる馬鈴薯疫病に関する 報告.	北海道農會報 1(2): 4-21.
宮城農試	1938	馬鈴薯疫病防除及薬劑撒布期試験.	宮城農試功程(昭和13).
宮城農試	1938	馬鈴薯病害防除用薬劑撒布箇所試験 (疫病).	宮城農試功程(昭和13).
宮下撥一	1935	寒地指導地事業成績 其の1 特に馬鈴 薯疫病の防除に就きて.	園藝 27(1): 14-18.
宮崎静七・堀 正侃	1962	ジャガイモ疫病の第1次発生およびその 後の伝染に関する2, 3の知見.	日植病報 27(5): 274.(講要)
水田隼人	1995	“4. 疫病”, II 馬鈴薯の病虫害とその防 除, 「種馬鈴薯技術ハンドブック」(岩切 嶙 編).	日本植物防疫協会, 東京, pp.55-58.
森 芳夫	1964	馬鈴薯の疫病とその防除.	農薬の進歩 10(4): 63-66.
Mosa, A.A., Kato, M., Sato, N., Kobayashi, K. and Ogoshi, A.	1989	Occurrence of the A2 mating type of <i>Phytophthora infestans</i> on potato in Japan.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 55(5): 615-620.
A.A. Mosa・加藤雅康・ 佐藤章夫・小林喜六・ 生越 明	1989	ジャガイモ疫病菌の親和性型 (compatibility type) A1, A2の日本におけ る分布.	日植病報 55(4): 498-499.(講 要)
Mosa, A.A., Kato, M., Sato, N., Kobayashi, K. and Ogoshi, A.	1990	Oospore formation by <i>Phytophthora infestans</i> in potato leaves after inoculation with isolates of opposite mating type.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 56(1): 144-145. (abs.)
Mosa, A.A., Kobayashi, K., Ogoshi, A., Kato, M. and Sato, N.	1991	Chemical stimulation of oospore formation in <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 57(1): 119-120.(abs.)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Mosa, A.A., Kobayashi, K., Ogoshi, A., Kato, M. and Sato, N.	1991	Formation of oospores by <i>Phytophthora infestans</i> in inoculated potato tissues.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 57(3): 334-338.
Mosa, A.A., Kobayashi, K., Ogoshi, A., Kato, M. and Sato, N.	1991	Isozyme variability among isolates of <i>Phytophthora infestans</i> in Japan.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 57(3): 394.(abs.)
A.A. Mosa・岩田康広・小林喜六・生越 明・加藤雅康・佐藤章夫	1992	日本産ジャガイモ疫病菌A1, A2交配型の卵胞子形成と発芽.	日植病報 58(4): 540.(講要)
村山大記	1957	ジャガイモ疫病の防ぎ方.	農業北海道 9(7): 10-13.
Muslim, A.・生越 明・小林喜六・近藤則夫・秋野聖之	1994	葉面微生物によるジャガイモ疫病防除に関する研究.	日植病報 60(6): 794.(講要)
長崎農試	1937	馬鈴薯疫病防除及薬剤撒布期試験.	長崎農試功程(昭和12).
長野農試	1917	馬鈴薯疫病豫防試験.	病蟲雑 4(7): 563-566.
内藤良平・秋野聖之・近藤則夫	2010	JP-4遺伝子型ジャガイモ疫病菌の遊走子の発芽に対する温度の影響.	日植病報 76(3): 202-203.(講要)
内藤良平・秋野聖之・近藤則夫	2012	ジャガイモ疫病菌各遺伝子型菌群の腐性的生長の差異.	日植病報 78(1): 64.(講要)
仲川晃生・越智 直	2009	ジャガイモ疫病に対する亜リン酸液肥の効果.	日植病報 75(1): 38.(講要)
仲川晃生・越智 直・清水繁夫	2010	亜リン酸肥料の処理によるジャガイモ疫病防除効果.	日植病報 76(3): 185.(講要)
仲川晃生・越智 直・清水繁夫	2010	ジャガイモ疫病的発生に及ぼす亜リン酸肥料の効果.	関東東山病害虫研報 57: 5-9.
仲川晃生・越智 直	2011	市販微生物農薬のジャガイモ疫病防除効果.	土と微生物 65(2): 141.(講要)
仲川晃生	2013	ジャガイモ疫病的防除剤が示すそうか病の発病軽減効果.	植防 67(2): 80-85.
中原隆夫・入倉幸雄・小曾納雅則	1990	バレイショ疫病抵抗性カルスの選抜.	福岡農総試研報B(園芸)10: 43-47.
難波信行・小川哲治・平田憲三・吉田満明・松尾和敏	2010	長崎県におけるジャガイモ疫病発生予察モデル(FLABS)の適合性.	日植病報 76(1): 29-30.(講要)
難波信行・小川哲治・平田憲二・吉田満明・松尾和敏	2011	長崎県におけるジャガイモ疫病発生予察モデル(FLABS)の改変と防除への利用.	長崎農技セ研報 2: 79-96.
難波信行・小川哲治・渡邊 亘	2016	長崎県におけるジャガイモ疫病初発時期予測システム長崎モデルの防除への利用.	九州病虫研報 62: 136.(講要)
成田武四・眞野 豊	1954	北海道に於ける馬鈴薯疫病初発の時期の地理的変動.	北日本病虫年報 5: 94-95.(講要)
成田武四	1964	異常気象と病害虫—ジャガイモ疫病.	植防 18(6): 234-236.
新潟農試	1916	馬鈴薯疫病防除試験.	病蟲雑 3(6): 473-475.
新潟農試	1916	馬鈴薯疫病防除試験(継続第3年).	病蟲雑 3(7): 554-556.
西村政芳	1969	疫病菌によるジャガイモ塊茎腐敗の薬剤消毒効果について.	農薬研究15(4): 49-59.
西村 亮・李 王休・張東柱・U.P. Singh・後藤範夫・秋野聖之・小林喜六・生越 明	1993	韓国, 台湾, インドにおけるジャガイモ疫病菌の交配型.	日植病報 59(6): 770.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
西村 亮・張 東柱・李 王休・U.P.SINGH・E. SURYANINGSIH・S. SUWONAKENEE・P.LUMYONG・C. CHAMSWARNG・加藤 雅康・秋野聖之・近藤 則夫・小林喜六・生越 明	1995	アジア諸国におけるジャガイモ疫病菌の アインザイム分析.	日植病報 61(6): 651.(講要)
西村 亮・佐藤香緒里・Lee, W.H.・Singh,U.P.・Chang, T.・Suryaningsih, E.・Lumyong,P.・Tang, W.H.・Shrestha, K.・加藤 雅康・藤井直哉・秋野聖之・近藤則夫・小林喜六・生越 明	1998	アジア諸国から採集した <i>Phytophthora infestans</i> のミトコンドリアDNAのRFLP解析.	日植病報 64(4): 332.(講要)
Nishimura,R., Sato,K., Lee,W.H., Singh,U.P., Chang,T.t., Suryaningsih,E., Suwonakenee,S., Lumyong,P., Chamswarung,C., Tang,W.h., Shrestha,S.K., Kato,M., Fujii,N. Akino,S., Kondo,N., Kobayashi,K. & Ogishi,A.	1999	Distribution of <i>Phytophthora infestans</i> populations in seven Asian countries.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 65(2): 163-170.
野村彦太郎	1901	長野縣下に於ける馬鈴薯疫病.	農商務省農事試報告 18: 93-103.
農林省農政局	1944	昭和19年度病害蟲防除要領 一馬鈴薯疫病, 偽瓢蟲類.	農林省農政局.
小川哲治・佐山 充・迎田幸博・内川敬介・松尾和敬・善 正二郎・川崎修二・菅 康弘	2003	ジャガイモ疫病に対する防除薬剤の散布間隔を累積降雨量により決定した場合の防除効果について.	日植病報 69(1): 20-21.(講要)
小川哲治・佐山 充・迎田幸博・内川敬介・松尾和敏・善正二郎・川崎修二	2005	ジャガイモ疫病防除薬剤の散布間隔を累積降雨量により決定した場合の問題点.	九州病虫研報 51: 95.(講要)
小川哲治・佐山 充・迎田幸博	2006	ジャガイモ疫病に対する各種薬剤の耐雨性評価.	九州病虫研報 52: 85.(講要)
小川哲治・佐山 充・迎田幸博	2008	ジャガイモ疫病防除薬剤の耐雨性の評価.	九州病虫研報 54: 13-17.
小川哲治・佐山 充・平田憲二	2008	ジャガイモ疫病防除のためのマンゼブ剤に数種展着剤を加用した場合の耐雨性への影響.	日植病報 74(1): 27.(講要)
小川哲治・西 八束・田布尾尚子・平田憲三・迎田幸博	2010	複数の薬剤を組み合わせた防除体型による効率的なジャガイモ疫病防除.	日植病報 76(1): 30.(講要)
小川哲治・難波信行・菅 康弘	2013	ジャガイモ疫病初発時期予測システム利用による効率的な防除.	日植病報 79(1): 69-70.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
生越 明・小林喜六・A. A. Mosa・佐藤章夫	1988	ジャガイモ疫病菌の生理的変異に関する研究 (Ⅲ) 分離菌の親和性型.	日植病報 54(3): 349.(講要)
生越 明・A. A. Mosa・小林喜六・加藤雅康・佐藤章夫	1992	日本におけるジャガイモ疫病菌 (<i>Phytophthora infestans</i>) の個体群構造.	日植病報 58(4): 551.(講要)
大島喜四郎	1940	馬鈴薯疫病に関する硫酸銅粉剤の効果.	北農 7(7): 346-348.
大島喜四郎	1943	馬鈴薯疫病に関する薬剤撒布の時期.	北農 10(7): 199-204., 北海道農試時報 173: 1-16.
大塚美幸・秋野聖之・小泉恵美子・小野豪朗・近藤則夫	2015	栽培後期の圃場におけるジャガイモ疫病菌の存在場所.	日植病報 81(1): 90.(講要)
太田孝彦・松尾和敏	1992	暖地マルチ栽培におけるジャガイモ疫病に対する防除時期の検討.	九州病虫研報 38: 201.(講要)
岡山農試	1910	馬鈴薯疫病豫防試験.	岡山農試工程(明治43).
大澤 央・福江由佳・鈴木宣之・浅野賢治・平田明靖・秋野聖之・近藤則夫	2016	2012-2014年の北海道で発生したジャガイモ疫病菌の遺伝子型構成.	日植病報 82(1): 70.(講要)
大澤 央・福江由佳・鈴木宣之・荒木宏道・浅野賢治・秋野聖之・近藤則夫	2016	ジャガイモ塊茎表面の傷が疫病菌による塊茎の感染に与える影響.	日植病報 82(3): 194-195.(講要)
尾崎政春・赤井 純・遠藤利光・高桑 亮	1988	ジャガイモ疫病菌及び疫病菌による塊茎腐敗に対するマンゼブ・メタラキシル水和剤の効果.	北日本病虫研報 39: 112-117.
Puruwanti, H.・Mosa, A. A.・小林喜六・生越明・加藤雅康・佐藤章夫	1992	ジャガイモ疫病の生物防除 (1) ジャガイモ葉面微生物.	日植病報 58(4): 582.(講要)
ハエニ プルワンテイ・小林喜六・生越 明	1993	<i>Phytophthora infestans</i> の胞子発芽と菌糸生育に対するジャガイモ葉面微生物の影響.	日植病報 59(1): 91.(講要)
齋藤大明	1951	馬鈴薯疫病防除について.	北日本病虫年報 2: 34-35.(講要)
坂口 荘一	1972	ジャガイモ疫病の発生時期と予察について.	九州病虫研報 18: 104-106.
坂口 荘一	1973	春作ジャガイモの塊茎腐敗とその発生におよぼす疫病防除の影響.	九州病虫研報 19: 23-25.
坂口 荘一	1978	1967年から1976年までの, 春秋二期ジャガイモにおける疫病の発生様相.	九州病虫研報 24: 39-40.
坂口 荘一	1979	春作ジャガイモにおける塊茎疫病的発生様相について.	九州病虫研報 25: 16-19.
坂口 荘一	1979	春秋二期作ジャガイモにおける疫病の発生について.	長崎総農試研報(農業) 7: 77-85.
坂口 荘一	1986	施設栽培のジャガイモにおける黒あざ病の発生と防除対策.	長崎総農試研報(農業) 12: 103-124.
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第1, 2報) 病原菌の発育と炭素源並びに窒素源との関係.	日植病報 19(3・4): 178.(講要)
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第3報) 馬鈴薯疫病菌の発育に及ぼす重金属塩類の影響.	日植病報 19(3・4): 178.(講要)
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第4報) 馬鈴薯疫病菌の呼吸.	日植病報 19(3・4): 178-179.(講要)
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第2報 馬鈴薯疫病菌の窒素源.	日植病報 19(3・4): 141-145.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第5報) 馬鈴薯疫病菌のアミノ酸々化酵素に就いて.	日植病報 20(2・3): 105.(講要)
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第1報 馬鈴薯疫病菌の炭素源.	北海道農試彙報 68: 63-66.
酒井隆太郎	1955	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第3報 馬鈴薯疫病菌の發育に対する重金属塩類の影響.	北日本病虫年報 6: 65-68.(講要)
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究. 第3報 培養基質を異にする馬鈴薯疫病菌々糸の生育と呼吸の関係.	北海道農試彙報 70: 99-105.
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第4報 馬鈴薯疫病菌の發育に対する重金属塩類の影響.	北海道農試彙報 71: 51-55.
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第6報 馬鈴薯疫病菌の代謝産物に就て I. 有機酸のペーパークロマトグラフィー.	日植病報 21(1): 4-8.
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第7報) 馬鈴薯疫病菌の孢子形成に対する紫外線の影響 (I).	日植病報 21(1): 31.(講要)
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第7報 馬鈴薯疫病菌の孢子形成に対する紫外線照射の影響.	北日本病虫年報 7: 64-65.(講要)
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第8報) 馬鈴薯疫病菌の生育に及ぼす各種 Vitamin類の影響.	日植病報 21(1): 31.(講要)
酒井隆太郎	1956	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第10報) 馬鈴薯疫病菌の澱粉分解酵素 (amylase) について.	日植病報 21(2・3): 110.(講要)
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第11報 馬鈴薯疫病菌の生態系について.	日植病報 22(1): 11.(講要)
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第11報) 馬鈴薯疫病菌の生態型の培養性質について.	日植病報 22(1): 62.(講要)
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第12報) 馬鈴薯疫病菌のアミラーゼに就いて (II).	日植病報 22(1): 62-63.(講要)
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第12報 馬鈴薯疫病菌のアミラーゼの性質について II.	北日本病虫年報 8: 55-57.(講要)
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第9報 馬鈴薯疫病菌のアミラーゼの性質について I.	日植病報 22(3): 134-138.
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第10報 紫外線の影響.	日植病報 22(4-5): 211-214.
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第5報 馬鈴薯疫病菌のアミノ酸代謝に関する研究.	北海道農試彙報 72: 1-7.
酒井隆太郎	1957	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第8報 馬鈴薯疫病菌の生育に及ぼす各種 Vitamin類の影響.	北海道農試彙報 73: 88-93.
酒井隆太郎	1958	馬鈴薯疫病菌の孢子形成培地について.	日植病報 23(1): 31.(講要)
酒井隆太郎	1958	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第13報 疫病菌の孢子形成培地について.	日植病報 23(1): 56.(講要)
酒井隆太郎	1958	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第14報 馬鈴薯疫病菌の生育因子について.	日植病報 23(1): 56.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (XIII) 馬鈴薯疫病菌の生育促進因子について.	日植病報 24(1): 22.(講要)
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第15報) 人工培養基上に於ける孢子形成機作について.	日植病報 24(1): 63.(講要)
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第16報) 馬鈴薯疫病菌の生育促進因子について II.	日植病報 24(1): 63-64.(講要)
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第17報) 道内各地に発生した本菌生態系の栄養要求について(予報).	日植病報 24(1): 64.(講要)
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第12報 人工培養基における分生孢子形成について I.	日植病報 24(3): 154-160.
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 疫病菌 の病原性の栄養要求との関係について.	北日本病虫年報 10: 81-84. (講要)
酒井隆太郎	1959	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 第11報 馬鈴薯疫病菌生態系の培養性質の差異について.	北海道農試彙報 74: 57-72.
酒井隆太郎	1960	馬鈴薯疫病菌の生理学的研究 (第19報) 馬鈴薯疫病菌の生理的性質と病原性との 関係.	日植病報 25(1): 64.(講要)
酒井隆太郎	1960	馬鈴薯の疫病抵抗性に関する研究 I. 馬鈴薯葉のperoxidaseおよび polyphenoloxidase活性と疫病抵抗性との 関係.	日植病報 25(5): 236.(講要)
酒井隆太郎	1961	馬鈴薯の疫病抵抗性に関する研究 健全 葉, 塊茎組織のオキシダーゼ活性と疫病 抵抗性との関係.	日植病報 26(2): 48-49.(講要)
酒井隆太郎	1961	馬鈴薯疫病菌の培養に関する栄養生理 学的研究.	北海道農試報告 57: 1-158.
佐久間 勉	1961	釧路内陸地帯における馬鈴薯疫病の初 発生期予察法について.	日植病報 25(5): 233.(講要)
桜井義郎	1957	馬鈴薯疫病の第一次発生源に関する研 究 I 馬鈴薯疫病菌の越冬について.	日植病報 22(1): 11.(講要)
桜井義郎・関沢 博・狩 野精司	1958	馬鈴薯・トマトの疫病に対するストレプト マイシン剤の防除効果について.	北日本病虫年報 9: 191-197. (講要)
桜井義郎	1958	馬鈴薯・トマトの疫病に対するヒトマイシ ンの効果について.	農薬 5(5): 73-76.
桜井義郎・森 寛一・沢 田 肇	1959	馬鈴薯疫病に対するストレプトマイシン 剤の防除効果について.	関東東山病虫害研報 6: 27.
桜井義郎	1963	馬鈴薯疫病の防除法.	農及園 38(3): 497-500.
佐藤香緒里・西村 亮・ TANG, W・LIU, S・ CHANG, S・ SHRESTA, K・ SHRESTA, S. K・ TIMILA, R. D・藤井直 哉・秋野聖之・近藤則 夫・小林喜六・生越 明	1997	中国・ネパールにおけるジャガイモ疫病 菌 (<i>Phytophthora infestans</i>) の交配型およ びアインザイム分析.	日植病報 63(6): 529-530.(講 要)
佐藤章夫・北沢健治・ 石坂信之・富山宏平	1970	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機 構に関する生理学的研究 (3) 人工降雨 による発生機構の解析(続報).	日植病報 36(5): 367.(講要)
佐藤章夫・北沢健治	1972	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機 構に関する生理学的研究 IV 茎葉病斑の 疫病菌と塊茎腐敗の関係.	日植病報 38(3): 182-183.(講 要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐藤章夫・北沢健治	1973	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生理学的研究 V 茎葉病斑の防除と塊茎腐敗の関係.	日植病報 39(2): 150.(講要)
佐藤章夫・北沢健治	1973	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生理学的研究 VI 感染部位について.	日植病報 39(2): 150.(講要)
佐藤章夫・北沢健治	1973	疫病によるジャガイモ塊茎腐敗の発生機構に関する生理学的研究 VII 分生胞子の間接発芽におよぼす水温の影響.	日植病報 39(3): 196-197.(講要)
佐藤章夫・北沢健治	1974	ジャガイモ茎葉疫病感染の気象条件.	日植病報 40(2): 120.(講要)
佐藤章夫	1975	ジャガイモ疫病菌遊走子のうの発芽性質に関する研究 I 遊走子のうの成熟について.	日植病報 41(1): 127-128.(講要)
佐藤章夫・柳田麒策	1976	ジャガイモの茎疫症状について.	日植病報 42(1): 97-98.(講要)
Sato, N.	1980	Sources of inoculum and sites of infection of potato tubers by <i>Phytophthora infestans</i> in soil.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(2): 231-240.
佐藤章夫	1982	形成時気温およびageの相違によるジャガイモ疫病菌遊走子のうの間接発芽温度の変化.	日植病報 48(1): 128.(講要)
佐藤章夫	1983	“ジャガイモ塊茎腐敗”, <i>Phytophthora</i> (疫病菌), 「北海道畑作物の土壤病害」(宇井格生 監修).	北海道畑作物の土壤病害刊行会, 札幌, pp.89-98.
佐藤章夫・加藤雅康・生越 明・小林喜六	1988	ジャガイモ疫病菌の生理的変異に関する研究 (I) コロニータイプの2型の存在.	日植病報 54(3): 349.(講要)
佐藤章夫	1990	ジャガイモ疫病研究の現状と問題点.	植防 44(8): 362-365.
Sato, N. and Kato, M.	1993	Improvement of the selective medium and method for the isolation of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 59(5): 568-571.
Sato, N.	1994	Maturation of sporangia of <i>Phytophthora infestans</i> affecting the rapidity of indirect germination.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 60(1): 53-59.
Sato, N.	1994	Effect of sporulating temperature on the limit temperature of indirect germination of the sporangia of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 60(1): 60-65.
Sato, N.	1994	Effect of water temperature on direct germination of the sporangis of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 60(2): 162-166.
Sato, N.	1994	Effect of some inorganic salts and hydrogen ion concentration on indirect germination of the sporangia of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 60(4): 441-447.
Sato, N.	1995	An improved method for laboratory assessment of the field resistance of potato tubers to infection by <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 61(2): 93-98.
Sato, N.	1995	Observation of the division and osmotic pressure of protoplasm on the process of zoosporogenesis of the sporangia of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 61(5): 463-469.
佐藤正三	1935	馬鈴薯疫病の防除に就て.	北農 2(7): 203-205.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2003	2002年に長崎県島原半島で分離されたジャガイモ疫病菌の系統について.	九州病虫研報 49: 9-12.
佐山 充・小川哲治・迎田幸博	2003	2001年と2002年に長崎県島原地方で分離されたジャガイモ疫病菌の系統について.	日植病報 69(1): 21.(講要)
進藤経助・池田正幸・鏡谷大節	1952	馬鈴薯疫病防除薬剤比較.	北日本病虫年報 3: 66.(講要)
U.P. SINGH・西村 亮・小林喜六・生越 明・V. ZINKERNAGEL・A. SCHLENZIG・B. SCHOBERBUTLIN	1996	ジャガイモ疫病菌の交配型A ₁ , A ₂ の新選択培地.	日植病報 62(6): 648.(講要)
白井佳代・池田幸子・内藤洋平・鹿島健太・秋野聖之	2013	2008-2011年に北海道で発生したジャガイモ疫病菌の遺伝子型とレースおよび圃場抵抗性品種における発病程度.	日植病報 79(1): 66-67.(講要)
白井佳代・美濃健一	2015	ジャガイモ疫病による塊茎腐敗抵抗性検定法の改良.	北海道立農試集報 99: 115-120.
静岡農試	1915	馬鈴薯疫病と品種との関係試験.	病蟲雑 2: 905.
菅 康弘・一丸禎樹・仲川晃生	1999	粒剤処理がジャガイモ疫病の病勢進展に及ぼす影響.	日植病報 65(3): 403-404.(講要)
菅 康弘・仲川晃生	2000	長崎県のジャガイモから分離した疫病菌のメタラキシル剤耐性.	九州病虫研報 46: 27-30.
スワンディ・藤井直哉・秋野聖之・生越 明	1997	ジャガイモ疫病菌 (<i>Phytophthora infestans</i>) のトマトに対する病原力の変化.	日植病報 63(6): 530.(講要)
鈴木橋雄	1949	疫病に対する馬鈴薯の抵抗性の本質に関する研究 (豫報1).	農及園 24(2): 125-126.
鈴木橋雄・吉野正義	1950	馬鈴薯疫病菌の寄主體侵入法に就て.	日植病報 14(1・2): 54.(講要)
鈴木橋雄・渡邊 實	1950	馬鈴薯疫病に対する抵抗性と細胞液濃度との関係.	日植病報 14(1・2): 54-55.(講要)
鈴木橋雄・管田廣史・西澤 務	1950	疫病に対する馬鈴薯の抵抗とその解剖學的特質との関係.	日植病報 14(3・4): 113.(講要)
鈴木橋雄・青木 覺・村野久富	1950	馬鈴薯の疫病抵抗性と葉液滲透壓との関係.	日植病報 15(1): 46.(講要)
鈴木橋雄・菅谷健吾・橋本好夫	1951	疫病菌寄主體侵入及び感染の品種間差異について.	日植病報 15(2): 88-89.(講要)
鈴木橋雄・田杉 甫・関博	1951	馬鈴薯の疫病抵抗性と氣孔数との関係について.	日植病報 15(2): 89.(講要)
鈴木橋雄・山内政臣	1951	疫病に対する馬鈴薯の抵抗性と滲透壓との関係 (續報).	日植病報 15(3・4): 148.(講要)
鈴木橋雄・石田里司	1951	馬鈴薯小葉片浸出液が疫病菌胞子の發芽に及ぼす影響 (豫報).	日植病報 15(3・4): 148.(講要)
鈴木橋雄・宮城平八郎	1951	馬鈴薯疫病菌胞子の寄主葉上に於ける芽の品種間差.	日植病報 15(3・4): 174-175.(講要)
鈴木橋雄・島田禎三郎・橋本好夫	1951	馬鈴薯疫病抵抗性と氣孔の大きさ及び数との関係.	日植病報 15(3・4): 175.(講要)
鈴木橋雄	1952	疫病に対する馬鈴薯の抵抗性と小葉片内水素イオン濃度との関係.	日植病報 16(3・4): 144-145.(講要)
鈴木橋雄・橋本好夫	1952	馬鈴薯疫病抵抗性と還元糖含有量との関係.	日植病報 16(3・4): 145.(講要)
鈴木橋雄・中島眞平	1953	馬鈴薯疫病菌々糸の發育に及ぼす水素イオン濃度の影響.	日植病報 17(2): 89.(講要)
鈴木橋雄・中島眞平	1953	馬鈴薯疫病菌の菌糸の發育及び游走胞子囊の發芽に及ぼす温度の影響.	日植病報 17(3・4): 183.(講要)
鈴木宣之・秋野聖之・染谷信孝・近藤則夫	2014	遊走子のう直接採取法によるジャガイモ疫病菌の採取方法の検討.	日植病報 80(1): 58.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
多賀正節・有本英里香・金子貞美	2008	日本産ジャガイモ疫病菌の倍数性解析.	日植病報 74(3): 168-169.(講要)
田原正人	1912	馬鈴薯ノ疫病菌.	植雑 26(311): 372-373.(雑録)
田島奈津子・大林憲吾・茶谷正孝	2006	バレイシヨの雑種集団への疫病菌噴霧接種による茎葉の抵抗性検定.	九州農業研究発表会要旨集 69: 32.(講要)
田島奈津子・大林憲吾・茶谷正孝	2006	バレイシヨのメタラキシル耐性疫病菌に対する品種系統間差異 第2報 室内検定による茎葉および塊茎の抵抗性品種の探索.	九州農業研究発表会要旨集 69: 33.(講要)
高橋良直	1903	北海道の氣候と馬鈴薯疫病との關係に就きて.	札幌農林会報 4: 26.
高橋良直	1906	馬鈴薯疫病豫防試験成績.	北海道農事試報告 2: 29-34.
高桑 亮	1954	馬鈴薯塊莖の馬鈴薯疫病抵抗性に対するアルコール處理について(豫報).	日植病報 18(3・4): 147.(講要)
高桑 亮	1954	馬鈴薯塊莖の馬鈴薯疫病罹病度に対する抗生物質の影響.	日植病報 18(3・4): 177.(講要)
高桑 亮・高瀬 昇・富山宏平	1955	日本における馬鈴薯疫病菌新系統の発生について.	日植病報 19(3・4): 179.(講要)
高桑 亮	1955	馬鈴薯疫病菌の変異(予報).	日植病報 19(3・4): 179.(講要)
高桑 亮・高瀬 昇	1956	北海道における馬鈴薯疫病菌系統の発生状況について.	日植病報 21(1): 34-35.(講要)
高桑 亮・富山宏平	1956	病原性を異にする疫病菌系統の侵入による寄主細胞の褐変に到る過程の時間の測定.	日植病報 21(1): 37.(講要)
高桑 亮・高瀬 昇	1956	1955年における日本の馬鈴薯疫病菌系統の分布とその国際命名法による分類.	北農研究抄報 3: 61.
高桑 亮・高瀬 昇	1956	二因子抵抗性種間雑種を侵す馬鈴薯疫病菌新系統の発生.	北日本病虫年報 7: 63-64.(講要)
高桑 亮・富山宏平	1957	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 VI 病原性を異にする疫病菌系統の侵入による寄主細胞の褐変に至る過程の時間の測定.	北海道農試彙報 73: 94-99.
高桑 亮・高瀬昇	1957	昭和31年の北海道に於ける馬鈴薯疫病菌系統の発生状況.	日植病報 22(1): 58.(講要)
高桑 亮	1957	馬鈴薯疫病菌に対する紫外線照射の影響(予報).	日植病報 22(1): 58.(講要)
高桑 亮	1958	馬鈴薯疫病菌新系統の発生と二, 三の觀察.	北農研究抄報 4: 53.
高桑 亮・富山宏平・加藤文一	1958	馬鈴薯塊莖スライスの呼吸代謝条件と抵抗性の關係(続報).	日植病報 23(1): 30-31.(講要)
高桑 亮	1958	馬鈴薯疫病菌新系統の発生と二三の觀察.	日植病報 23(1): 55-56.(講要)
高桑 亮	1959	馬鈴薯疫病菌系統の発生及び分布を支配する要因としての種間雑種の意義.	日植病報 24(1): 64.(講要)
高桑 亮	1960	馬鈴薯疫病菌病原系統の発生と分布に関する一考察.	日植病報 25(1): 21-22.(講要)
高桑 亮	1960	抵抗性馬鈴薯生体通過による馬鈴薯疫病菌の病原性の変化について(予報).	日植病報 25(1): 65.(講要)
高桑 亮・永田利男・岡啓	1962	実生世代におけるジャガイモ疫病抵抗性検定法について.	日植病報 27(5): 265.(講要)
高桑 亮	1965	II ジャガイモ疫病抵抗性育種の経過と問題点.(イネいもち病とジャガイモ疫病, 抵抗性育種).	日植病報(記念号): 55-57.
高桑 亮	1968	ジャガイモ疫病菌による塊茎腐敗の発生条件について.	日植病報 34(5): 366.(講要)
高桑 亮	1969	ばれいしょ品種の疫病抵抗性に関する研究.	北海道農試報告 75: 1-87.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
高桑 亮	1970	ジャガイモ品種の疫病罹病度に影響する諸条件.	日植病報 36(3): 162.(講要)
高桑 亮	1990	北海道におけるフェニルアマイド系殺菌剤耐性菌発生下でのジャガイモ疫病の発生実態.	日植病報 56(1): 145.(講要)
高桑 亮	1992	フェニルアマイド剤耐性菌発生下におけるジャガイモ疫病防除について.	北日本病虫研報 43: 45-47.
高瀬 昇	1952	馬鈴薯の疫病抵抗性に及ぼす生育段階並に肥料の影響について.	日植病報 16(3・4): 178-179.(講要)
高瀬 昇	1953	馬鈴薯疫病抵抗性検定法についての2, 3の知見.	北日本病虫年報 4: 93-94.(講要)
高瀬 昇	1953	植付時期並びに窒素肥料が馬鈴薯の萌芽開花及び疫病罹病程度に及ぼす影響.	北海道農試彙報 64: 26-32.
高瀬 昇	1954	馬鈴薯葉の疫病抵抗性に対する切離の影響.	日植病報 18(3・4): 147.(講要)
高瀬 昇	1954	馬鈴薯種間雑種の自殖後代の疫病抵抗性について.	日植病報 18(3・4): 186.(講要)
高瀬 昇・高桑 亮	1955	馬鈴薯種間雑種と疫病菌生態型との関係.	日植病報 19(3・4): 179.(講要)
高瀬 昇	1955	馬鈴薯塊茎内組織各部の疫病抵抗性とその品種間差について.	日植病報 19(3・4): 179.(講要)
高瀬 昇・高桑 亮・富山宏平	1955	馬鈴薯疫病菌新系統発生とそれに対する馬鈴薯種間雑種の行動について.	北日本病虫年報 6: 68-69.(講要)
高瀬 昇・加藤文一	1956	馬鈴薯の疫病に対する“field resistance”について(予報).	日植病報 21(2・3): 109-110.(講要)
高瀬 昇	1956	馬鈴薯の疫病抵抗性 - 検定法を中心にして.	農薬の進歩 2(2): 22-26.
高瀬 昇・高桑 亮	1957	国際命名法による日本の馬鈴薯疫病菌系統及び抵抗性遺伝子の分類.	日植病報 22(1): 58.(講要)
高瀬 昇・高桑 亮	1957	日本における馬鈴薯疫病菌系統及び疫病抵抗性遺伝子の国際命名方式による分類.	日植病報 22(2): 79-82
高瀬 昇	1959	馬鈴薯の疫病に対する圃場抵抗性の解析的研究 I 生育進展に伴う抵抗性の変化の品種間差.	日植病報 24(1): 12.(講要)
高瀬 昇・加藤文一	1960	種間雑種馬鈴薯の圃場抵抗性に関する研究.	日植病報 25(1): 64.(講要)
高瀬 昇・高桑 亮	1960	馬鈴薯抵抗性遺伝子, 特にR4の働きに関する研究続報.	日植病報 25(1): 64-65.(講要)
高瀬 昇	1964	馬鈴薯の疫病抵抗性.	農薬の進歩 10(4): 58-62.
高瀬 昇・梅村芳樹	1966	圃場におけるばれいしょ塊茎の疫病菌による罹病.	北海道農試彙報 90: 7-14.
高瀬 昇	1966	馬鈴薯塊茎の疫病対策.	農業北海道 18(10): 66-69.
玉木健二・秋野聖之・近藤則夫	2012	ジャガイモ疫病菌の生育および遊走子の発芽に対するマンゼブの抑制効果.	日植病報 78(3): 228.(講要)
保 虎太郎	1927	馬鈴薯の疫病其の豫防駆除法(上).	園藝の友 23: 558-562.
保 虎太郎	1927	馬鈴薯の疫病其の豫防駆除法(下).	園藝の友 23: 612-616.
保 虎太郎	1927	馬鈴薯と其の病害.	大日本農會報 563: 38-48.
田村 元・加藤 淳・清水基滋・竹内晴信	2012	北海道における有機栽培ばれいしょの安定生産技術 1. 収量・品質に対するジャガイモ疫病発生の影響と品種選択の効果.	北農 79(1): 34-39.
田中文夫・阿部秀夫・萩田孝志	1998	ばれいしょの疫病に対する減農薬防除技術.	北農 65(1): 25-28.
田中一郎	1933	病害防除の著例.	病蟲雑 20(4): 299-304.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
田中一郎	1945	馬鈴薯疫病の豫防適期と開花期との關係.	農及園 20(5): 231-233.
田中一郎	1949	馬鈴薯疫病予防の鍵.	農及園 24(4): 277-280.
田中一郎	1950	馬鈴薯疫病に対する銅粉剤の効果.	農薬と病虫 4(5): 127-128.
田中一郎	1953	我国に於ける馬鈴薯疫病の初發生の地理的推移について.	日植病報 17(3・4): 183. (講要)
田中一郎	1953	新薬剤による馬鈴薯疫病の防除効果.	農及園 28(9): 1125-1126.
田中一郎・赤井 純	1955	馬鈴薯疫病の罹病塊茎と馬鈴薯地上部の罹病の關係について.	日植病報 19(3・4): 177-178. (講要)
田中一郎	1955	馬鈴薯疫病に関する二、三の問題.	農薬の進歩 2: 7-12.
田中一郎・赤井 純	1957	馬鈴薯疫病菌接種塊茎における病原菌の行動について.	日植病報 22(1): 11. (講要)
田中一郎	1957	馬鈴薯疫病防除について.	農及園 32(3): 485-488.
富濱 毅	2016	ジャガイモ疫病に対する殺菌剤の雨中散布による防除効果.	九州病虫研報 62: 137. (講要)
土屋貞夫・尾崎政春	1970	根釧地方におけるジャガイモ疫病の初發生期予察法と病原菌の生態について.	日植病報 36(5): 362-363. (講要)
土屋貞夫・尾崎政春	1971	根釧地方におけるばれいしょ疫病の初發生期予察法確立に関する試験.	北海道立農試集報 24: 11-24.
辻本一幸・杉井信次・横溝完二・高松英明・高桑 亮	1990	北海道におけるジャガイモ疫病菌のフェニルアマイド剤感受性の推移 -リーフディスク検定法による-	日植病報 56(1): 145. (講要)
辻本一幸	1994	植物病原菌の薬剤感受性マニュアル (8) -ジャガイモ疫病菌及び各種作物のピンウム病菌-	植防 48(3): 49-52.
辻本隆司・道家紀志・野末雅之・富山宏平	1979	強抵抗性ジャガイモ品種の葉柄表皮に於る親和性及び非親和性の <i>Phytophthora infentans</i> 感染初期過程の電顕的観察.	日植病報 45(4): 534. (講要)
常松孝祐・野中裕太・林 博之・小川宗和・荒木智史	2014	北海道で分離されたジャガイモ疫病菌のフルアジナム及びシアゾファミドに対する感受性評価.	日植病報 80(1): 59. (講要)
上田榮次郎	1902	アッペル氏『馬鈴薯莖黒腐病々原』.	植雑 16(185): 163. (雑録)
上田榮次郎(答)	1903	馬鈴薯疫病防除法質問竝答.	大日本農會報 261: 26-27.
上野賢司・浅間和夫	1965	馬鈴薯に於ける疫病發生の品種間差異.	北農 32(6): 10-11.
梅村芳樹・高瀬 昇	1968	疫病抵抗性遺伝子R3をもつばれいしょ実生に發生する非ウイルス性 necrosis について.	北海道農試彙報 93: 1-6.
梅村芳樹	1973	ジャガイモ疫病菌レース 1 2 3 4 の定着とその發生経過について.	日植病報 39(2): 149-150. (講要)
渡辺竜雄	1939	馬鈴薯疫病と蕃茄疫病との關係. (Small, T. 著)	農及園 14(3): 915-916.
渡辺竜雄	1954	戦場が原における馬鈴薯疫病防除に関する試験.	農及園 29(10): 1313-1314.
Yamada, Y., Oguri, Y., Sasaki, M., Kato, T. and Mukai, K.	1988	Protective activity of 1-hydroxyethylphosphinic acid and related compounds against downy mildew and <i>Phytophthora</i> blight on cucumber and late blight on potato.	J. Pesticide Sci. 13(3): 443-447.
山口富夫	1951	馬鈴薯疫病罹病組織の遊離アミノ酸について.	日植病報 15(3・4): 175. (講要)
山口富夫	1952	馬鈴薯葉などの浸出液及び搾汁液が疫病菌胞子の発芽に及ぼす影響.	日植病報 17(1): 34. (講要)
山本弘幸・R.M. Bostock・J.E. DeVay	1990	アラキドン酸で処理した加齢ジャガイモ塊茎ディスクのミクロゾーム画分におけるリボキシゲナーゼ活性の増高.	日植病報 56(3): 364-365. (講要)

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
山本昌木・木村幹夫	1951	馬鈴薯疫病の第一次發生に就て.	北日本病虫年報 2: 31-32.(講要)
山本昌木・木村幹夫	1951	馬鈴薯の疫病菌に対する抵抗性.	北日本病虫年報 2: 33-34.(講要)
山本昌木・木村幹夫	1952	ジャガイモ疫病病斑成分に対する寄主植物の反應.	日植病報 16(2): 72-73.(講要)
山本昌木	1952	馬鈴薯疫病病斑の組織化学.	日植病報 17(1): 33-34.(講要)
山本昌木	1952	疫病菌培養濾液の馬鈴薯葉に対する作用.	北日本病虫年報 3: 64.(講要)
山本昌木	1952	馬鈴薯疫病に対する品種の抵抗性検定について.	北日本病虫年報 3: 64-65.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1953	輝線スペクトルによる馬鈴薯疫病病斑成分の分光分析.	日植病報 17(3・4): 152-153.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1953	馬鈴薯疫病病斑中に現れる鐵について.	日植病報 18(1・2): 72.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1953	馬鈴薯疫病病斑中の活性鐵について.	日植病報 18(1・2): 91.(講要)
山本昌木・小林 裕	1953	馬鈴薯疫病菌培養濾液の馬鈴薯葉に対する作用.	東北農業 7(1): 23-25.
山本昌木・木村幹夫	1955	ジャガイモの疫病に関する研究(第1報) 第一次發生に関する二、三の実験.	東北農試研報 4: 34-40.
山本昌木	1955	ジャガイモの疫病に関する研究(第2報) 疫病病斑成分の寄主植物に対する作用.	東北農試研報 4: 41-49.
山本昌木	1955	馬鈴薯疫病々斑の組織化学.	島根農大研報 3: 54-59.
Yamamoto, M. and Tatsuyama, K.	1955	"On the iron appearing in the diseased spots of the late-blight of potato plants.", 「栃内吉彦・福士貞吉両教授還暦記念論文集刊行会, 札幌, pp.85-90. 論文集」.	
山本昌木・尾添正雄	1956	抵抗性の異なる馬鈴薯品種を通過せる疫病菌の病原性の変化について.	日植病報 20(4): 182.(講要)
山本昌木・尾添正雄	1956	抵抗性の異なる馬鈴薯品種を通過した疫病菌の病原性の変化に就いて.	日植病報 21(2・3): 63-67.
山本昌木	1956	馬鈴薯疫病菌分生孢子より遊走子の発芽並びに同菌の寄主体侵入後の進展に就いての二三の観察.	日植病報 21(2・3): 110-111.(講要)
山本昌木	1957	馬鈴薯疫病菌遊走子嚢より遊走子の発芽並びに同菌の感受体侵入後の進展についての二、三の観察.	島根農大研報 5: 24-29.
山本昌木・島田和明	1958	馬鈴薯疫病の第一次發生並びに馬鈴薯生育期間における体内成分の変化と疫病罹病度との関係について.	日植病報 23(1): 49.(講要)
Yamamoto, M. and Shimada, K.	1958	On the primary occurrence of late blight of potatoes and the change of chemical components of the suscept during the growing season.	Bull. Shimane Agr. College (A) 6: 91-99.
山本昌木・安盛 博	1959	馬鈴薯疫病培養濾液中の毒性物質.	日植病報 24(1): 52.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1959	馬鈴薯塊茎の泳動蛋白による疫病抵抗性の検討.	日植病報 24(1): 52.(講要)
山本昌木	1960	馬鈴薯疫病菌についての二三の観察.	日植病報 25(1): 21.(講要)
山本昌木	1960	馬鈴薯疫病菌分生孢子発芽に関する二三の観察.	日植病報 25(5): 230-231.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1961	馬鈴薯疫病菌に対し抵抗性を異にする感受体の組成について.	日植病報 26(2): 48.(講要)
山本昌木	1963	発芽時におけるジャガイモ疫病菌分生孢子の細胞化学的観察.	日植病報 28(5): 299.(講要)
山本昌木	1965	ジャガイモ疫病.	日植病報 31(記念号): 213-220.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
山本昌木・野津幹雄・ 広沢敬之	1966	ジャガイモ疫病菌胞子の微細構造(予報).	日植病報 32(2): 66.(講要)
山本昌木	1967	馬鈴薯葉柄中肋細胞表面構造の電子顕微鏡による観察(第1報).	島根大農研報 1: 33-37.
山本昌木・野津幹雄	1968	馬鈴薯葉柄中肋細胞表面構造の電子顕微鏡による観察(第2報)疫病菌に対し低抗性を異にする品種の葉柄中肋細胞壁の微細構造.	島根大農研報 2: 13-17.
山本昌木・野津幹雄・ 大木博英	1968	疫病菌に対し抵抗性を異にする馬鈴薯葉柄中肋細胞壁の微細構造.	日植病報 34(3): 178.(講要)
山本昌木・北見和光	1971	ジャガイモ培養組織への疫病菌侵入の観察.	日植病報 37(1): 58-62.
山本昌木・八田茂徳	1971	接ぎ木ジャガイモの疫病抵抗性.	日植病報 37(3): 165.(講要)
山本昌木・野津幹雄・ 重光善光・山本節子	1971	ジャガイモ体内に見られるマイクロボディについて.	日植病報 37(5): 385.(講要)
山本昌木・野津幹雄	1971	馬鈴薯体内に見られるマイクロボディについて.	島根大農研報 5: 18-22.
山本昌木・野津幹雄・ 森 真偉・大木博英・矢 島敏治・立石道博	1972	間接発芽時における <i>Phytophthora infestans</i> 菌の分生胞子の微細構造.	日植病報 38(3): 183.(講要)
山本昌木・荒瀬 榮・野 津幹雄	1973	ジャガイモ疫病菌感染葉と培養ろ液処理葉の電子顕微鏡による観察.	日植病報 39(3): 213-214.(講要)
山本昌木・八田茂徳	1974	ジャガイモ異品種間の接木による疫病病斑型の変異について.	日植病報 40(3): 263-264.
山本昌木・八田茂徳	1974	ジャガイモ疫病に関する研究の現状と問題点.	植防 28(6): 223-228.
山本昌木・八田茂徳	1975	<i>Phytophthora infestans</i> 胞子発芽時における産生物質について.	日植病報 41(1): 105.(講要)
山本昌木・野津幹雄・ 荒瀬 榮・重光善弘	1975	疫病罹病・疫病菌培養濾液処理ジャガイモ組織の電子顕微鏡による観察.	島根大農研報 9: 12-22.
山本昌木・今野(中尾) 清隆	1976	ジャガイモ疫病菌胞子発芽液中の産生物質について.	日植病報 42(1): 83.(講要)
山本昌木・中沢靖彦	1981	ジャガイモ疫病菌分生胞子の同調的多量形成法.	近畿中国農業研究 61: 12-14.
山本昌木	1983	ジャガイモ疫病病斑型と植物ホルモン.	近畿中国農業研究 65: 27-29.
山本昌木・高田寿雄・ 坪井洋文	1984	「弘法イモ」について.	近畿中国農業研究 67: 67-68.
吉川正明	1979	疫病菌の遊走子の形成の誘導機構.	植防 33(10): 452-455.

632 疫病2(感染生理・遺伝子分析)

安達広明・石濱伸明・ 吉岡美樹・加藤有里・ 八丈野 孝・白須 賢・吉 岡博文	2013	WRKY型転写因子は病害応答性MAPKの下流で誘導されるROS生産の重要な制御因子である.	日植病報 79(3): 162.(講要)
安達郁子・山溝千尋・ 吉岡美樹・川北一人・ 道家紀志・吉岡博文	2006	RNAiによるジャガイモのファイトアレキシン合成遺伝子の機能解析.	日植病報 72(4): 231.(講要)
秋野聖之・生越 明	1995	ジャガイモ疫病菌におけるA1/A2交配時特異的遺伝子転写物の分離.	日植病報 61(3): 235-236.(講要)
秋野聖之・生越 明	1998	<i>Phytophthora infestans</i> のA1/A2交配時に活性化される遺伝子転写物の検出.	日植病報 64(4): 267-268.(講要)
秋野聖之・藤井直哉・ 生越 明	1999	ジャガイモ疫病菌の交配時特異的遺伝子転写物cET58の転写時期.	日植病報 65(3): 338-339.(講要)
秋野聖之・生越 明	2000	ジャガイモ疫病菌の交配時に転写量が増加する遺伝子転写物について.	日植病報 66(2): 127-128.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Akino, S., Baba, Y. and Kondo, N.	2009	Use of microsatellite marker Pi26 for rapid discrimination of five Japanese genotypes of <i>Phytophthora infestans</i> .	J.Gen.Plant Pathol. 日植病報 75(5): 349-352.
天見重忠・富山宏平・道家紀志	1976	ジャガイモにおけるファイトアレキシンの生長誘導機構に関する研究 (I).	日植病報 42(1): 84.(講要)
浅井秀太・市川達士・小林光智衣・上吉原裕介・森仁志・吉岡博文	2010	StCDPK5 のvariable ドメインおよびkinase ドメインがStRBOHB の活性化に重要である.	日植病報 76(1): 54.(講要)
浅井秀太・森仁志・内田康弘・Cyril Zipfel・Jonathan Jones・吉岡博文	2013	STCDPK5のVドメインは細胞内局在およびNADPHオキシダーゼの認識・活性化に寄与する.	日植病報 79(3): 163.(講要)
馬場ゆき子・水沼花織・秋野聖之・近藤則夫	2009	マイクロサテライトマーカーを利用した日本産 <i>Phytophthora infestans</i> 菌株遺伝子型判定のための実用的な方法.	日植病報 75(1): 89.(講要)
蔡 熙秉・道家紀志	1983	ジャガイモ疫病菌接種植物葉における活性酵素生成様相と胞子発芽液接種前処理によるその生成促進.	日植病報 49(3): 378.(講要)
蔡 熙秉・道家紀志	1986	<i>Phytophthora infestans</i> の遊走子発芽液によるジャガイモ葉の過敏感反応の活性化と感染に伴うO ⁻² 生成反応の変化.	日植病報 52(1): 131.(講要)
蔡 熙秉・道家紀志	1986	<i>Phytophthora infestans</i> に対する全身抵抗性獲得ジャガイモ植物の活性酸素代謝系と生育の変化.	日植病報 52(1): 131.(講要)
Chai, H.B. and Doke, N.	1987	Systemic activation of O ₂ ⁻ generating reaction, superoxide dismutase, and peroxidase in potato plants in relation to iInduction of systemic resistance to <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 53(5): 585-590.
出口友美・加藤新平・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2003	ジャガイモ植物におけるMAPキナーゼ (StMPK1)の脱リン酸化による活性制御.	日植病報 69(3): 248.(講要)
出口友美・加藤新平・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2005	ジャガイモ植物のMAPキナーゼを不活性化するタンパク質脱リン酸化酵素の性質.	日植病報 71(1): 53.(講要)
道家紀志・富山宏平	1973	宿主-寄生菌相互反応における菌体蛋白成分と宿主細胞成分との反応.	日植病報 39(3): 211.(講要)
道家紀志・富山宏平・李 好植・西村範夫	1974	宿主-寄生菌相互反応における菌成分と宿主蛋白質成分の無細胞系における反応.	日植病報 40(2): 142.(講要)
道家紀志	1974	ジャガイモ疫病における遊走子成分による親和性の誘導.	日植病報 40(3): 179.(講要)
道家紀志・富山宏平・西村範夫	1975	ジャガイモ疫病菌遊走子成分の宿主成分との反応と宿主組織におよぼす影響.	日植病報 41(1): 105.(講要)
道家紀志	1975	ジャガイモ疫病菌遊走子・被嚢胞子および発芽胞子とジャガイモ組織のマイクロゾーム分画との反応.	日植病報 41(3): 261.(講要)
道家紀志・富山宏平	1975	ジャガイモ疫病菌遊走子のCaCl ₂ による同調的被のう化と発芽および発芽過程の物質溶出.	日植病報 41(3): 261-262.(講要)
Doke, N., Tomiyama, K., Nishimura, N. and Lee H.S.	1975	<i>In vitro</i> interactions between components of <i>Phytophthora infestans</i> zoospores and components of potato tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 41(5): 425-433.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
道家紀志・富山宏平	1976	<i>Phytophthora infestans</i> 遊走子の細胞壊死反応誘導成分のジャガイモ細胞の膜系に及ぼす影響とその反応機構.	日植病報 42(1): 84-85. (講要)
道家紀志・富山宏平	1976	SH基結合剤処理ジャガイモ細胞の <i>Phytophthora infestans</i> 感染に対する反応.	日植病報 42(3): 336. (講要)
道家紀志・N. Lisker・J. Kuć	1978	<i>Phytophthora infestans</i> の過敏感反応抑制物質と誘導物質の作用様相.	日植病報 44(1): 93-94. (講要)
道家紀志・J. Kuć	1978	<i>Phytophthora infestans</i> の発芽過程における品種特異的過敏感反応抑制因子の放出.	日植病報 44(3): 358. (講要)
道家紀志・酒井 進・富山宏平	1979	<i>Phytophthora infestans</i> の多糖成分の宿主及び非寄主植物組織に及ぼす影響 - 過敏感反応誘導性について.	日植病報 45(1): 107. (講要)
Doke, N., Sakai, S. and Tomiyaka, K.	1979	Hypersensitive reactivity of various host and nonhost plant leaves to cell wall components and soluble glucan isolated from <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 45(3): 386-393.
道家紀志・富山宏平	1979	ジャガイモ・プロトプラストの <i>Phytophthora infestans</i> 細胞壁成分に対する過敏感反応性と菌体水溶液グルカンの反応抑制.	日植病報 45(4): 533-534. (講要)
道家紀志・Adan Vite Ramirez・富山宏平	1979	菌体細胞壁成分によるジャガイモおよびトマトのジャガイモ疫病菌に対する獲得抵抗性の誘導.	関西病虫研報 21: 71. (講要)
道家紀志・森 正樹・富山宏平	1980	ジャガイモおよびトマトの全身獲得抵抗性葉における <i>Phytophthora infestans</i> の行動と宿主反応.	日植病報 46(1): 93. (講要)
道家紀志・伊藤裕子・富山宏平	1980	ジャガイモ疫病における宿主・寄生菌相互作用研究のための遊離細胞系の検討と問題点.	日植病報 46(3): 384. (講要)
道家紀志	1981	<i>Phytophthora infestans</i> に対するジャガイモ葉と塊茎組織の抵抗性強度と過敏感細胞反応の品種間比較.	日植病報 47(1): 125. (講要)
道家紀志・古市尚高	1981	ジャガイモの疫病抵抗性強度と感染細胞および菌体壁成分に対するプロトプラストの過敏感反応性について.	日植病報 47(3): 383-384. (講要)
道家紀志	1982	ジャガイモ疫病における宿主・寄生菌特異性の生理化学的機構 - NADPH-チトクロムC還元酵素の活性について.	日植病報 48(3): 362. (講要)
道家紀志・鈴木才将	1982	<i>Phytophthora infestans</i> と <i>P. capsici</i> の宿主選択機構 - 過敏感反応の誘導および抑制因子が関与するか.	日植病報 48(1): 108. (講要)
道家紀志	1983	非親和性細胞反応融合期のNADPH依存活性酵素生成系の活性化と親和性反応におけるその抑制 - ジャガイモの場合.	日植病報 49(1): 108. (講要)
道家紀志	1984	ジャガイモ植物の温度ストレス下における動的抵抗性反応不発現の生理学的解析.	日植病報 50(1): 126-127. (講要)
道家紀志・川口 章	1985	ジャガイモ組織における過敏感反応誘導時のNADPH-O ₂ 生成反応とファイトアレキシン誘導との関連性.	日植病報 51(1): 86. (講要)
道家紀志・蔡 熙秉	1985	ジャガイモ細胞の過敏感反応誘導時におけるNADPH依存O ₂ 生成系の活性化とそのCa ²⁺ 依存性.	日植病報 51(3): 375. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
道家紀志・伊藤 茂・蔡熙秉	1987	<i>Phytophthora infestans</i> の菌体壁成分で処理したジャガイモ植物の生育、塊茎形成および疫病抵抗性に関する圃場実験.	日植病報 53(1): 98.(講要)
道家紀志	1987	ジャガイモ細胞の過敏感反応始動期における原形質膜結合Caイオンの遊離.	日植病報 53(3): 391.(講要)
道家紀志・西村正暢	1989	ジャガイモの過敏感細胞反応における細胞内情報伝達機構: 活性酵素生成 NADPH酸化酵素系とホスホリパーゼA ₂ の活性化.	日植病報 55(1): 94.(講要)
道家紀志・川口悦男・西村正暢	1989	<i>Phytophthora infestans</i> の感染・侵入時におけるホスホグルカンサプレッサーの放出とその性質.	日植病報 55(4): 478.(講要)
道家紀志・伊藤 茂・蔡熙秉・三浦由雄	1990	種いもの「免疫処理」によるジャガイモ植物の疫病抵抗性の増強と塊茎生産の促進.	日植病報 56(3): 361.(講要)
道家紀志	1991	免疫処理による植物病害抵抗性の増強: ジャガイモ疫病.	植防 45(3): 101-105.
道家紀志	1997	ジャガイモ疫病における宿主の生体防御機構と寄生性制御に関する研究.	日植病報 63(3): 130-132.
道家紀志	2001	ジャガイモの病害抵抗性とオキシダティブバースト.	植物の生長調節 36(2): 143-149.
道家紀志	2005	過敏反応から学んだ作物の耐病性強化戦略 —主としてジャガイモ疫病の研究を通して—.	日植病報 71(3): 139-142.
藤井直哉・秋野聖之・生越 明	1998	DNA-RDA法によって分離されたジャガイモ疫病菌A ₂ 交配型菌株に特異的なcDNAについて.	日植病報 64(6): 582.(講要)
Fujii, N., Akino, S., Nishimura, R. and Ogoshi, A.	1999	Specifically isolated cDNA using cDNA-RDA from A ₂ mating type isolates of <i>Phytophthora infestans</i> .	Jour. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 69(3): 171-179.
古市尚高・富山宏平	1978	無傷ジャガイモ塊茎細胞は過敏感反応能を持っているか?	日植病報 44(1): 93.(講要)
古市尚高・富山宏平・道家紀志	1978	ジャガイモ無傷細胞における過敏感反応の感染による非活性状態(State I)から活性状態(State II)への移行.	日植病報 44(3): 358.(講要)
古市尚高・富山宏平・道家紀志・辻本隆司	1979	ジャガイモレクチンによるジャガイモ疫病菌とジャガイモ塊茎細胞 membrane rich fraction との結合.	日植病報 45(1): 107.(講要)
Furuichi, N, Tomiyama, K., Doke, N. and Nozue, M.	1979	Inhibition of further development of hypersensitive reactivity to <i>Phytophthora infestans</i> by blasticidin S in cut tissues of potato tuber at various stages of aging process.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 45(2): 215-220.
古市尚高・富山宏平・道家紀志・辻本隆司	1979	レクチンによるジャガイモ疫病菌菌体表面と宿主単離細胞膜の結合ならびに発芽胞子の凝集.	日植病報 45(4): 534.(講要)
Furuichi, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1980	Induction of hypersensitive reactivity in juvenile potato cell to compatible race of <i>Phytophthora infestans</i> by its infection <i>per se</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(2): 247-249.
古市尚高・富山宏平・道家紀志	1980	Potato lectin による疫病菌菌体表面とジャガイモ・プロトプラストの結合およびその反応.	日植病報 46(3): 383-384.(講要)
古市尚高・富山宏平・道家紀志	1981	ジャガイモレクチンと疫病菌細胞壁表面との相互作用に及ぼす過敏感反応抑制成分菌体グルカンの影響.	日植病報 47(3): 384.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Furuichi, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1982	Effect of water soluble glucan of <i>Phytophthora infestans</i> on the agglutination of germinated systospores caused by potato lectin.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(2): 234-237.
古市尚高・及川胤昭・ 道家紀志・富山宏平	1982	ジャガイモ疫病菌菌体成分を用いたアフィニティクロマトグラフィーによる宿主の結合性蛋白質の探索.	日植病報 48(1): 108.(講要)
古市尚高・鈴木譲一・ 及川胤昭	1987	ジャガイモの過敏感細胞死 (1) 疫病菌に対する受容体蛋白質の純化.	日植病報 53(1): 90.(講要)
古市尚高・鈴木譲一	1987	ジャガイモ疫病菌の病原性因子(グルカン)に対する宿主受容体蛋白質の解析.	日植病報 53(3): 391.(講要)
古市尚高・鈴木譲一	1987	ジャガイモの過敏感細胞死 (2) 宿主細胞膜に存在する疫病菌細胞壁成分に対する受容体様蛋白質.	日植病報 53(3): 391-392.(講要)
古市尚高	1988	ジャガイモの疫病菌感染と過敏感反応.	植防 42(12): 577-580.
Furuichi, N. and Suzuki, J.	1988	Use of enzyme-linked immunosorbent assay for characterization of water soluble glucan, the suppressor of hypersensitive response of potato cells caused by <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 54(1): 45-51.
古市尚高・鈴木譲一	1988	ジャガイモの過敏感細胞死 (Ⅲ) ジャガイモ疫病菌の発芽管表面のエリクター活性の検討.	日植病報 54(1): 89.(講要)
古市尚高・鈴木譲一	1988	ジャガイモの過敏感細胞死 (4) 疫病菌 β -Glucan 結合宿主タンパク質の精製および局在部位.	日植病報 54(3): 361-362.(講要)
古市尚高・鈴木譲一・ 大場昭悦・A.J. Anderson	1989	ジャガイモの過敏感細胞死 (7) 疫病菌グルカンの宿主遺伝子の発現に及ぼす影響.	日植病報 55(4): 478-479.(講要)
古市尚高・鈴木譲一	1990	ジャガイモの過敏感細胞死 (10) 疫病菌サブレッサーの化学的特性について.	日植病報 56(3): 362-363.(講要)
Furuichi, N. and Suzuki, J.	1990	Purification and properties of suppressor glucan isolated from <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 56(4): 457-467.
古市尚高・鈴木譲一・ 加藤久晴・平井智美	1991	ジャガイモの過敏感細胞死 (11) 疫病菌サブレッサーに対する認識機構.	日植病報 57(3): 413.(講要)
Furuichi, N., Nishimura, S. and Langsdorf, G.	1992	Effect of alternaric acid, a toxin of <i>Alternaria solani</i> , on the hypersensitive response of potato to <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 58(1): 1-7.
古市尚高・宮川 恒	1992	パルスドアンペロメトリック検出クロマトグラフィーによるジャガイモ疫病菌サブレッサーの構造解析と生理活性について.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 58(4): 565-566. (abs.)
N. Furuichi・EA.J. Anderson・Y. Suzuki・J. Takemoto・E. Hisada・ ER. Ikeda・K. Tutida	1993	Specific phosphorylation of plasma membrane H^+ -ATPase of potato and bean cells stimulated by the fungal suppressor and elicitor of <i>Phytophthora infestans</i> .	日植病報 59(3): 268.(講要)
古市尚高・松原已致・ 田淵浩康・市原耿民	1994	ジャガイモ細胞膜 $[H^+]$ ATPase活性に対する病原性因子アルタナリック酸およびサブレッサーの影響.	日植病報 60(3): 315-316.(講要)
古市尚高・松原已致・ 田淵浩康・市原耿民・ Y. SUZUKI・A.J. ANDERSON	1995	ジャガイモ疫病菌に対する抵抗性発現におけるジャガイモ細胞膜プロテインキナーゼの役割.	日植病報 61(3): 248.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
古市尚高・稲川淳一・高村則子・金山貴明・鈴木由香	1996	ジャガイモ細胞の疫病菌サブレッサー認識機構: ジャガイモ細胞膜Ca ²⁺ 依存型タンパク質キナーゼ(CPK)とサブレッサーとの結合解析.	日植病報 62(3): 292-293.(講要)
古市尚高・金山貴明・加藤美紀・奥田智勇・青柳雅昭	1997	ジャガイモ細胞膜の疫病菌グルカン受容体タンパク質の役割II. Ca ²⁺ 依存型タンパク質キナーゼ(CPK)と疫病グルカンのIAsysによる結合解析.	日植病報 63(3): 236.(講要)
古市尚高・松原已致・高村則子・北 宜裕・奥田智勇・加藤美紀	1997	ジャガイモの防御反応におけるジャガイモ疫病菌サブレッサー受容体の役割.	日植病報 63(6): 499.(講要)
古市尚高・加藤美紀・高村則子・寺田恵都子・加藤武司	1997	疫病菌に対するジャガイモの防御反応: 塊茎ミクロソーム分画における活性酸素生成成分の単離の試み.	北陸病虫研報: 41-44.
古市尚高・池田静香・奥田智勇	1998	抵抗性遺伝子Ptoプローブを用いたジャガイモのPto遺伝子ホモログのクローニング.	日植病報 64(4): 354.(講要)
古市尚高・奥田智勇・梅山慎太郎	1999	疫病菌に対するジャガイモの抵抗性機構: 疫病菌サブレッサーと宿主受容体GST融合タンパク質キナーゼとの結合解析.	日植病報 65(3): 327.(講要)
古市尚高・奥田智勇・原 啓高・A.Hassan	2000	ジャガイモの疫病抵抗性機構 サブレッサー受容体Ca ²⁺ 依存型プロテインキナーゼ(CPK)の構造と活性調節.	日植病報 66(2): 112.(講要)
古市尚高・佐治佳子・横川和俊・金城政孝	2003	ジャガイモ疫病菌に対するジャガイモの抵抗性機構: 疫病菌サブレッサーとエリシターのCDPKタンパク質キナーゼへの情報伝達およびsmGFP::CDPKの局在.	日植病報 69(3): 250.(講要)
古市尚高・ハッサン・横川和俊・齋藤勇太・金城政孝	2003	疫病菌サブレッサーとエリシターのCDPKキナーゼとの相互作用およびGFP::CDPK1の局在.	北陸病虫研発表会 55回.(講要)
古市尚高・鈴木文子・松崎美波・堀米恒好・大西耕二・田中秀明・月原富武	2004	ジャガイモの抵抗性機構: 活性酸素生成酵素の制御機構について.	日植病報 70(1): 35-36.(講要)
古市尚高・横川和俊・金城正孝・八木昌弘・阿久津秀雄	2005	疫病菌に対するジャガイモの抵抗性機構: 疫病菌エリシターのCDPK1キナーゼ情報伝達とGFP-CDPK.	日植病報 71(3): 191.(講要)
古市尚高・横川和俊・加藤美紀	2005	ジャガイモの防御機構: ジャガイモ活性酸素生成NADPHオキシダーゼの疫病菌制御因子による制御機構.	北陸病虫研発表会 57回.(講要)
古市尚高・長岡朝彦・八木宏昌・阿久津秀雄・金城正寿	2006	疫病菌に対するジャガイモの抵抗性機構: 疫病菌サブレッサーとCDPK-1(Ca ²⁺ 依存型キナーゼ)情報伝達のFCS(一分子蛍光相関)解析.	日植病報 72(4): 232.(講要)
古市尚高・八木宏昌・阿久津秀雄・君島悦夫	2007	疫病菌に対するジャガイモのAOS生成機構: 疫病菌サブレッサーとCDPK(Ca ²⁺ 依存型キナーゼ)情報伝達機構のLSM解析.	日植病報 73(3): 209.(講要)
古市尚高・横川和俊・君島悦夫・平塚和之	2007	ジャガイモ疫病菌由来の新規活性酸素種(AOS)誘導因子(PiPE)は過敏感反応およびオキシダティブバーストを引き起こす.	北陸病虫研発表会 59回.(講要)
古市尚高・齋藤恵美・佐藤岳実	2008	Ca ²⁺ 依存型キナーゼによる疫病菌サブレッサーとエリシターの過敏感防御反応の抑制シグナル伝達.	北陸病虫研発表会 60回.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
古市尚高・八木宏昌・阿久津秀雄・金城政孝	2008	疫病菌に対するジャガイモの防除機構：疫病菌サブプレッサー(SUP)とCDPKi(Ca ²⁺ 依存型キナーゼ)シグナル伝達のレーザー顕微解析.	日植病報 74(3): 199.(講要)
古市尚高	2008	植物病原菌の防御反応の誘導機構 CDPKエリシター受容蛋白質遺伝子の解析.	新潟大農研報 60(2): 91-95.
Furuichi, N., Kinjo, M. and Yokokawa, K.	2009	The calcium-dependent protein kinase (CDPK) from potato, localizes to the plasma membrane and activates the signaling of elicitor and suppressor of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 75(3): 200. (abs.)
Furuichi, N., Yokokawa, K., Okumura, H. and Ohta, M.	2010	Defence reaction of potato cell. The suppressor and PiP elicitor signal transduction with Ca ²⁺ dependent protein kinase (CDPK) in the AOS generation with NADPH oxidase (rboh-gene) in the host cells.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 76(3): 175. (abs.)
古市尚高・岡村久一・堀米恒好・太田雅寿	2010	疫病菌エリシターによるジャガイモの防御反応：宿主CDPKキナーゼを介した過敏反応の誘導機構.	北陸病虫研発表会 62回.(講要)
古市尚高・横川和俊・太田雅寿	2011	ジャガイモ活性酸素生成遺伝子(Rboh)の発現と疫病菌PiPEエリシターによる誘導.	北陸病虫研発表会 63回.(講要)
古市尚高・横川和俊・太田雅寿	2011	疫病菌PiPEエリシターはCDPKを活性化し活性酸素生成と過敏反応を誘導する.	日植病報 77(3): 175.(講要)
Furuichi, N., Okamura, H., and Ohta, M.	2012	Ca ²⁺ -dependent protein kinase of potato recognized PiP elicitor and the suppressor signals of <i>Phytophthora infestans</i> to control hypersensitive cell death in plant cell.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 78(3): 215. (abs.)
Furuichi, N., Yokokawa, K., Okamura, H. and Ohta, M.	2014	A PAMP elicitor from <i>Phytophthora infestans</i> induces active oxygen species and the hypersensitive response in potato.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 80(4): 244. (abs.)
古瀬勝美・川北一人・道家紀志	1992	ジャガイモ細胞の過敏反応におけるアクチンの関与.	日植病報 58(4): 565.(講要)
伏見真由香・小鹿一・加藤新平・川北一人・竹本大吾	2015	ベンサミアナタバコファイトアレキシン合成酵素遺伝子 <i>NbEAS</i> のプロモーター領域の解析.	日植病報 81(3): 238.(講要)
願野郁海・瀧波依里子・加藤大明・佐藤育男・千葉壮太郎・竹本大吾・川北一人	2016	ニトロ化候補タンパク質RuBisCO活性化酵素のベンサミアナタバコにおける抵抗性への関与.	日植病報 82(3): 192.(講要)
原 啓高・古市尚高・奥田智勇・Hassan, A.	2000	ジャガイモ抵抗性及び罹病性品種からのカルシウム依存型プロテインキナーゼ(CPK) 遺伝子の構造解析.	日植病報 66(2): 110-112.(講要)
原 裕太・柴田祐介・竹本大吾・川北一人	2010	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性と活性酸素生成における低分子量および3量体Gタンパク質の関与.	日植病報 76(1): 53.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Hassan, A., Furuichi, N., Oikawa, H., Okuta, T. and Hatsugai, N.	2000	Recombinant protein preparation of calcium dependent protein kinase gene (CPK), a receptor gene of potato for suppressor from <i>Phytophthora infestans</i> , from potato and <i>Arabidopsis</i> .	J.Gen.Plant Pathol. 66(2): 111.(abs.)
Hassan, A., Okuta, T., Oikawa, H., Ichihara, A., Hatsugai, N. and Furuichi, N.	2001	Effect of fungal metabolites on the activity of fusion protein of calcium-dependent protein kinase from potato RiCDPK2.	J.Gen.Plant Pathol. 67(2): 125. (abs.)
初谷紀幸・古市尚高・加藤美紀・藤原 明	1999	ジャガイモ疫病菌の抗エリシターモノクローナル抗体を用いたエリシタタンパク質をコードする遺伝子の単離.	日植病報 65(3): 328.(講要)
初谷紀幸・古市尚高・松浦貴明・池田玲子	2000	ジャガイモ疫病菌の菌体壁エリシタータンパク質, エリシチン, 糖タンパク質エリシタをコードしているcDNAの単離と構造解析.	日植病報 66(2): 113-114.(講要)
初谷紀幸・松浦貴明・古市尚高	2001	ジャガイモにおける過敏感細胞死や活性酸素種生成を誘導するジャガイモ疫病菌のタンパク質エリシターをコードする遺伝子のクローニング.	日植病報 67(2): 125-126.(講要)
早川幸江・吉岡博文・道家紀志	1993	ジャガイモ植物における防御遺伝子の発現抑制: ジャガイモ疫病菌が生産するサブプレッサーのPALおよびHMGR遺伝子発現に及ぼす影響.	日植病報 59(6): 753.(講要)
Helmi, A・朴 海準・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1998	全身獲得抵抗性の誘導に関わる新しいシグナル伝達 エリシター処理による全身的オキシダティブバーストの誘導.	日植病報 64(6): 617. (講要)
市川達士・川北一人・吉岡博文	2007	CDPKの脂質修飾部位がStrbohB依存症の活性酸素生成に関与する.	日植病報 73(3): 208-209.(講要)
市川達志・石濱伸朗・上吉原裕亮・森 仁志・寺岡博文	2009	StCDPK5のStRBOHBに対する認識機構について.	日植病報 75(3): 264.(講要)
井戸邦彦・竹本大吾・道家紀志・川北一人	1999	ジャガイモ植物における疫病菌菌体壁エリシター誘導性遺伝子のクローニング.	日植病報 65(3): 324.(講要)
井戸邦彦・竹本大吾・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2000	ジャガイモ植物におけるエリシター誘導性遺伝子群の探索と発現解析(1) - Subtraction法による -.	日植病報 66(3): 287.(講要)
池田直希・加藤新平・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2003	植物の過敏感細胞死におけるMAPKカスケードの関与について.	日植病報 69(3): 248-249.(講要)
石栗幸男・富山宏平・道家紀志	1977	ジャガイモ塊茎組織の切断によるリシチン代謝系の誘導.	日植病報 43(1): 96.(講要)
Ishiguri, Y., Tomiyama, K., Murai, A., Katsui, N. and Masamuna, T.	1978	Toxicity of rishitin, rishitin-M-1 and rishitin-M-2 to <i>Phytophthora infestans</i> and potato tissue.	日植病報 44(1): 52-56.
石栗幸男・富山宏平・道家紀志・村井章夫・勝井信勝・正宗 直	1978	健全ジャガイモ塊茎組織におけるrishitin代謝系とその意義.	日植病報 44(3): 357-358.(講要)
石濱伸明・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2006	全身的活性酸素生成に応答するC ₂ H ₂ type Zn Finger Protein遺伝子プロモータの機能解析.	日植病報 72(1): 67.(講要)
石濱伸明・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2007	PPS8のサイレンシングはジャガイモ疫病菌に対する感受性を高める.	日植病報 73(3): 208.(講要)
石濱伸明・吉岡博文	2008	PPS8/StWRKY4 のリン酸化による機能制御.	日植病報 74(3): 200.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
石濱伸明・山田麗子・吉岡博文	2010	MAPK の基質であるNbWRKY8 は HMGR2 の発現を正に制御する.	日植病報 76(1): 54.(講要)
石坂信之・佐藤章夫・富山宏平・正宗 直・勝井信勝	1967	Rishitinの2, 3の生理学的性質.	日植病報 33(2): 75.(講要)
石坂信之・佐藤章夫・富山宏平	1967	ジャガイモ疫病感染による solanine, rishitin 代謝系の転換.	日植病報 33(5): 350.(講要)
石坂信之・富山宏平・勝井信勝・正宗 直	1967	Rishitin および solanine の生物活性 (1).	日植病報 33(5): 350.(講要)
石坂信之・富山宏平・勝井信勝・村井章夫・正宗 直	1968	Rishitin および solanine の生物活性 (2).	日植病報 34(3): 180.(講要)
石坂信之・富山宏平	1969	ジャガイモ塊茎の癒傷組織の形成に及ぼすジャガイモ疫病の感染の影響.	日植病報 35(5): 371.(講要)
Ishizuka, N. and Tomiyama, K.	1970	Effect of <i>Phytophthora infestans</i> infection on wound periderm formation in cut potato tuber tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 36(4): 243-249.
石坂信之・富山宏平	1970	ジャガイモ塊茎の疫病抵抗性反応 - 罹病性および抵抗性におけるリシチンおよびソラニンの生成.	日植病報 36(5): 366-367.(講要)
石坂信之・富山宏平	1971	ジャガイモ塊茎組織におけるリシチンの減少.	日植病報 37(3): 177-178.(講要)
石坂信之	1972	ジャガイモの罹病塊茎およびトマトの罹病果実からのリシチンの分離.	日植病報 38(3): 195.(講要)
石坂信之	1973	滅菌塊茎におけるリシチンの生成.	日植病報 39(2): 149.(講要)
石坂信之	1973	ジャガイモおよびトマトの自然病斑からのリシチンの検出.	日植病報 39(3): 211.(講要)
石坂信之・佐藤章夫・松永 旭・勝井信勝	1974	罹病ジャガイモより得られたルビミンの生物活性について.	日植病報 40(2): 119.(講要)
伊藤靖浩・吉岡博文・小鹿 一・道家紀志・川北一人	2004	活性酸素生成を指標としたジャガイモ疫病菌エリシターの精製.	日植病報 70(1): 58.(講要)
伊藤靖浩・吉岡博文・小鹿 一・道家紀志・川北一人	2004	ジャガイモ疫病菌からの活性酵素生成エリシターの単離とその性質.	日植病報 70(3): 199-200.(講要)
伊藤夢子・古岡博文・道家紀志	1998	ジャガイモにおける3-hydroxy-3-methylglutaryl CoA reductase遺伝子のクローニング.	日植病報 64(4): 355.(講要)
伊藤夢子・吉岡博文・道家紀志	1999	ジャガイモ植物における3-hydroxy-3-methylglutaryl CoA reductase 3遺伝子のクローニングおよびその構造解析.	日植病報 65(3): 324.(講要)
伊藤夢子・吉岡蛭文・道家紀志	2000	ジャガイモ植物における3-hydroxy-3-methylglutaryl CoA reductase 2および3遺伝子のプロモーター解析.	日植病報 66(2): 109.(講要)
伊代住浩幸・貫井秀樹・加藤公彦	2008	病害抵抗性誘導物質の前処理がコムギ及びバレイショにおけるエリシター応答発光 (ERPE) に及ぼす影響.	日植病報 74(3): 276.(講要)
金子真美・多賀正節	2006	フローサイトメトリーによるジャガイモ疫病菌の核ゲノムサイズ解析.	日植病報 72(4): 244.(講要)
加藤大明・竹本大吾・森 仁志・川北一人	2009	ジャガイモ葉におけるS-ニトロ化され得るタンパク質の特定.	日植病報 75(3): 264-265.(講要)
加藤大明・竹本大吾・川北一人	2011	ジャガイモ塊茎におけるS-ニトロ化タンパク質の検出.	日植病報 77(1): 67-68.(講要)
加藤大明・竹本大吾・川北一人	2012	ジャガイモ疫病菌接種ジャガイモ葉において検出されるニトロ化タンパク質とその機能.	日植病報 78(1): 36.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
加藤大明・竹本大吾・川北一人	2012	植物の感染応答におけるニトロソ化タンパク質StRanBP1の機能解析.	日植病報 78(3): 213.(講要)
加藤大明・竹本大吾・川北一人	2013	ジャガイモ植物の感染応答におけるニトロソ化タンパク質の同定.	日植病報 79(3): 160-161.(講要)
加藤久晴	2002	ジャガイモチトクロムP450遺伝子(CYP72A29)の発現解析.	日植病報 68(2): 242.(講要)
加藤 潔・富山宏平・岡本 尚	1979	ジャガイモ塊茎細胞の膜電位に及ぼす疫病菌壁物質の効果.	日植病報 45(4): 534.(講要)
加藤美紀・高村則子・寺田恵都子・加藤武司・古市尚高	1997	ジャガイモ疫病菌エリシターにより誘導される塊茎ミクロソーム画分の活性酸素生成機構.	日植病報 63(6): 499.(講要)
加藤美紀・古市尚高・奥田智勇	1998	ジャガイモ塊茎ミクロソーム画分からの活性酸素生成成分の可溶化と分離.	日植病報 64(4): 354-355.(講要)
加藤美紀・古市尚高・Moller,M.・高村則子・藤原 明	1999	ジャガイモ疫病菌エリシターによって誘導されるジャガイモの防御反応: 塊茎細胞由来の活性酸素生成成分の局在とその活性化.	日植病報 65(3): 328.(講要)
加藤新平・津田直貴・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1998	ジャガイモ組織の原形質膜O ₂ ⁻ 生成NADPH酸化酵素系の酵素的性質の解析とその部分純化.	日植病報 64(4): 356.(講要)
加藤新平・仙田香織・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1999	ジャガイモ植物のエリシター誘導性プロテリンキナーゼとその性質.	日植病報 65(3): 323.(講要)
加藤新平・仙田香織・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2000	ジャガイモ植物のエリシター誘導性プロテインキナーゼの部分精製.	日植病報 66(3): 287.(講要)
加藤新平・仙田香織・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2001	ジャガイモ植物のエリシター誘導性プロテインキナーゼはMAPキナーゼである.	日植病報 67(2): 126.(講要)
加藤新平・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2002	ジャガイモ植物のエリシター応答性MAPキナーゼStMPK1によりリン酸化されるタンパク質の単離.	日植病報 68(1): 91.(講要)
川北一人・道家紀志	1991	ジャガイモ疫病菌 (<i>Phytophthora infestans</i>) 菌体壁成分処理ジャガイモ塊茎におけるGTP結合蛋白質の出現.	日植病報 57(3): 413.(講要)
川北一人・道家紀志	1992	疫病菌菌体壁成分処理ジャガイモ塊茎における情報伝達系へのボスホリパーゼCとプロテインキナーゼCの関与.	日植病報 57(4): 565.(講要)
河村治代・道家紀志・川北一人・吉岡博文	1995	ジャガイモ塊茎のミクロソーム膜画分における脂質過酸化反応を介したファイトアレキシン生産誘導因子の生成.	日植病報 61(3): 245.(講要)
衣川 勝・富山宏平・道家紀志	1974	Phytoalexinの生成機構—褐変組織とrishitin生成との関係について.	日植病報 40(2): 143.(講要)
清 多佳子・藤井直哉・秋野聖之・内藤繁男・生越 明	2001	ジャガイモ疫病菌A2交配型菌株に特異的なcDNAクローンcET110について.	日植病報 67(2): 139.(講要)
小林光智衣・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2005	Strbohタンパク質の細胞内局在性について.	日植病報 71(1): 54.(講要)
小林光智衣・大浦生子・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2005	ジャガイモ塊茎組織におけるStrbohBのリン酸化について.	日植病報 71(3): 187.(講要)
小林光智衣・吉岡美樹・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2007	恒常活性型StCDPK5を導入したジャガイモ植物は疫病菌に耐性を示す.	日植病報 73(3): 209.(講要)
小嶋博樹・水谷安希・柴田裕介・川北一人・竹本大吾	2012	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須なSAR8.2 遺伝子群の機能解析.	日植病報 78(1): 35.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
小嶋博樹・水谷安希・柴田裕介・川北一人・竹本大吾	2013	ベンサミアナタバコのSAR8.2はジャガイモ疫病菌抵抗性に必須な内生エリシタータンパク質である.	日植病報 79(3): 161-162.(講要)
小松原 肇・朴 海準・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1997	ジャガイモ塊茎切断面の菌体壁エリシター(HWC)に対する活性酸素生成応答能の加齢による変化.	日植病報 63(3): 233-234.(講要)
小松原 肇・前田裕貴・朴 海準・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1998	ジャガイモ塊茎切断組織とプロトプラストにおけるオキシダティブバースト機能をもつ細胞の活性化と分化.	日植病報 64(4): 355-356.(講要)
近藤洋平・宮崎江里・小嶋博樹・水谷安希・柴田裕介・川北一人・竹本大吾	2014	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須なSAR8.2m についての解析.	日植病報 80(4): 244-245.(講要)
近藤洋平・宮崎江里・小嶋博樹・水谷安希・柴田祐介・川北一人・竹本大吾	2015	ベンサミアナタバコのSAR8.2mはジャガイモ疫病菌感染に应答した抵抗性誘導に必須である.	日植病報 81(3): 238.(講要)
口村和男・吉岡博文・山田直史・道家紀志	2000	ジャガイモ植物におけるセスキテルペンシクラーゼ遺伝子の単離およびその発現解析.	日植病報 66(2): 109-110.(講要)
口村和男・加藤新平・道家紀志・吉岡博文	2002	Potato vetispiradiene synthase 3遺伝子の単離およびジャガイモ塊茎細胞におけるプロモーター解析.	日植病報 68(2): 166.(講要)
口村和男・小林 晃・山溝千尋・道家紀志・吉岡博文	2003	ジャガイモ形質転換体を用いたPotato Vetispiradiene Synthase 3遺伝子のプロモーター解析.	日植病報 69(1): 55.(講要)
倉橋良雄・滝野 卓	1999	カルプロバミド(ウイン ^(R))処理ジャガイモ塊茎切断面であ蛍光物質の誘導と疫病菌菌糸の生育.	日植病報 65(3): 404.(講要)
李 好植・富山宏平・道家紀志	1973	ジャガイモ疫病菌菌体成分のジャガイモ塊茎プロトプラストに対する影響.	日植病報 39(3): 211.(講要)
李 好植・富山宏平・道家紀志	1974	ジャガイモ疫病菌菌体成分のジャガイモ塊茎プロトプラストからの ³² P漏出に対する影響.	日植病報 40(2): 143.(講要)
李 好植・富山宏平・松本直幸	1975	ジャガイモ疫病菌菌体成分, 及び菌体外成分のジャガイモ塊茎プロトプラストに対する影響.	日植病報 41(3): 261.(講要)
前田裕貴・津田直希・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1997	ジャガイモ疫病菌の被嚢胞子に対する宿主プロトプラストの結合と初期応答.	日植病報 63(3): 234.(講要)
前田淳司・秋野聖之・生越 明	2000	ジャガイモ疫病菌new A1系統と既存系統とのDNAフィンガープリンティングによる比較.	日植病報 66(2): 106.(講要)
牧野智子・洪 盛基・朴海準・吉岡博文・川北一人・野村 聡・道家紀志	1999	植物組織におけるオキシダティブバースト機能をもつ組織細胞への傷や感染による活性化の三次元的解析.	日植病報 65(3): 323.(講要)
松川みずき・柴田裕介・小鹿 一・川北一人・竹本大吾	2012	ベンサミアナタバコのエリシター認識と疫病菌抵抗性におけるカルレティキュリン遺伝子NbCRT3 の役割 .	日植病報 78(1): 35-36.(講要)
松本直幸・富山宏平・道家紀志・田村 保	1973	ジャガイモ疫病菌感染初期における表面電位の変化について.	日植病報 39(3): 212.(講要)
松本直幸・富山宏平・道家紀志	1975	ジャガイモ塊茎の疫病菌感染に対する極初期反応及び疫病菌分泌物質に対する反応.	日植病報 41(3): 261.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Matsumoto, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1976	Alteration of membrane permeability of potato-tuber tissue infected by incompatible and compatible races of <i>Phytophthora infestans</i> during the initial phase of infection.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 42(3): 279-286.
松浦貴之・古市尚高・ 池田玲子	1995	ジャガイモ疫病菌 (<i>Phytophthora infestans</i> Mont de Bary) 菌体壁成分からのジャガイモに対する褐変化と活性酸素生成を引き起こす因子について.	日植病報 61(6): 606-607. (講要)
真弓大伸・伊藤夢子・ 吉岡博文・道家紀志	2001	ジャガイモ培養細胞における3-hydroxy-3-methylglutaryl CoA reductase 2 遺伝子のプロモーター解析.	日植病報 67(2): 126-127. (講要)
加田路子・道家紀志・ 川北一人	1997	ジャガイモ疫病菌エリシターの一成分とその性質.	日植病報 63(3): 234. (講要)
Mino, Y., Sakai, R., Uchino, K. and Sasabuchi, T.	1980	Effect of coronatine on the metabolism of phenolics in the discs of potato tuber.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(4): 510-516.
三浦由雄・川北一人・ 道家紀志	1991	HWC処理したジャガイモおよびトマト懸濁培養細胞におけるCa ²⁺ の動向と活性酸素生成.	日植病報 57(3): 413-414. (講要)
三浦由雄・川北一人・ 吉岡博文・道家紀志	1992	ジャガイモ塊茎組織の膜分画を用いた無細胞系におけるエリシターによるNADPH依存O ₂ ⁻ 生成系の活性化.	日植病報 58(4): 564. (講要)
三浦由雄・吉岡博文・ 川北一人・道家紀志	1993	ジャガイモ塊茎組織より分離したマイクロゾーム膜分画におけるジャガイモ疫病菌菌体エリシターのリン脂質代謝への影響.	日植病報 59(3): 267-268. (講要)
Miura, Y., Yoshioka, H., Park, H., Kawakita, K. and Doke, N.	1999	Plasma membrane perturbation in association with calcium ion movement followed by fungal elicitor-stimulated oxidative burst and defense gene activation in potato tuber.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 65(4): 447-453.
Miyagawa, H., Ishihara, A., Chi-Hwan LIM, Ueno, T. and Furuichi,	1998	Induction of N-p-coumaroyloctopamine in potato tuber disks by 3- 1, 3- glucooligosaccharide.	J. Pesticide Sci. 23(1): 49-53.
宮川典子・山溝千尋・ 石濱伸明・川北一人・ 吉岡博文	2007	ジャガイモNADPH oxidase 遺伝子プロモータの制御機構.	日植病報 73(3): 208. (講要)
宮川典子・吉岡美樹・ 吉岡博文	2009	ジャガイモNADPH オキシダーゼであるStRBOHD のプロモーター解析.	日植病報 75(1): 68. (講要)
宮川典子・吉岡美樹・ 吉岡博文	2009	ジャガイモのNADPH オキシダーゼであるStRBOHC およびStRBOHDのプロモーター解析.	日植病報 75(3): 264. (講要)
Miyake, Y., Sakai, J., Shibata, M., Yonekura, N., Miura, I., Kumakura, K. and Nagayama, K.	2005	Fungicidal activity of benthiavalicarb-isopropyl against <i>Phytophthora infestans</i> and its controlling activity against late blight diseases.	J. Pesticide Sci. 30(4): 390-396.
宮崎暁喜・古市尚高・ 奥田智勇・池田静香	1999	ジャガイモ防御反応におけるSer/Thr型プロテインキナーゼの役割: ジャガイモPtoホモログのタンパク質発現.	日植病報 65(3): 328. (講要)
宮崎暁喜・古市尚高・ 加藤美紀・池田静香	2000	ジャガイモ疫病菌エリシターに誘導されるジャガイモの防御反応: ジャガイモPtoホモログとNADPHオキシダーゼの発現解析.	日植病報 66(2): 112. (講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
水野貴仁・間瀬圭介・川北一人・道家紀志・森 仁志・児玉基一朗・吉岡博文	2007	AAL毒素で誘導される細胞死にはエチレン合成およびその作用シグナル伝達が関与する。	日植病報 73(3): 209.(講要)
水野邑里・大津美奈・小鹿 一・森 仁志・川北一人・竹本大吾	2015	ベンサミアナタバコの核膜孔Nup107-160複合体を介して輸送される低分子量Gタンパク質Ranはジャガイモ疫病菌抵抗性に関与する。	日植病報 81(3): 238.(講要)
水野邑里・柴田祐介・大津美奈・小鹿 一・佐藤育男・千葉壮太郎・川上一人・竹本大吾	2016	ベンサミアナのRanBP1を介したmRNAの効率的な核外輸送はジャガイモ疫病菌感染時の迅速なファイトアレキシン生成に必須である。	日植病報 82(3): 192.(講要)
Monjil, M., Takemoto, D. and Kawakita, K	2011	Resistance inducing activities of NO producing elicitor candidates on potato and <i>Nicotiana benthamiana</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 77(3): 215. (abs.)
Monjil, M.S., Takemoto, D., Shibata, Y. and Kawakita, K.	2013	Bis-aryl methanone compound elicits nitric oxide production and resistance in <i>Nicotiana benthamiana</i> against <i>Phytophthora infestans</i> .	日植病報 79(3): 161.(講要)
Monjil, M.S., Takemoto, D. and Kawakita, K.	2014	Defense induced by a bis-aryl methanone compound leads to resistance in potato against <i>Phytophthora infestans</i> .	J. Gen. Plant Pathol. 80(1): 38-49.
森脇丈治・水野明文・佐藤 守・門田育生・西山幸司	1996	ダイズ斑点細菌病菌における培地中とジャガイモ塊茎上でのコロナチン産生の違い。	日植病報 96(5): 544-547.
永野睦美・竹本大吾・道家紀志・川北一人	1998	ジャガイモ葉の感染応答におけるエチレン合成酵素遺伝子の発現。	日植病報 64(4): 355.(講要)
長岡朝彦・古市尚高・八木宏昌・阿久津秀雄・堀米恒好・大西耕二	2006	疫病菌エリシターにより誘導されるジャガイモの防御反応。	日植病報 72(4): 232.(講要)
永田恭子・三浦由雄・則武智哉・朴 海準・川北一人・道家紀志	1996	ジャガイモ組織にエリシター活性をもつアラキドン酸もオキシダティブーストを誘導する。	日植病報 62(3): 291.(講要)
仲井仁美・竹本大吾・道家紀志・川北一人	1999	エリシター処理ジャガイモ葉におけるPRタンパク質の蓄積とエチレン生成。	日植病報 65(3): 324.(講要)
中島和美・吉岡博文・道家紀志	2001	ジャガイモ疫病菌接種に対するタバコ植物の細胞応答。	日植病報 67(2): 127.(講要)
中島俊夫・富山宏平	1973	ジャガイモの抵抗反応におけるリシチン, ルビミンの生成部位とその時間的経過。	日植病報 39(3): 211-212.(講要)
Nakajima, T., Tomiyama, K. and Kinukawa, M.	1975	Distribution of rishitin and libimin in potato-tuber tissue infected by an incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> and the site where rishitin is synthesized.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 41(1): 49-55.
中根栄一・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2000	ジャガイモ植物におけるエリシター誘導性遺伝子群の探索と発現解析(2) - differential hybridization法による -。	日植病報 66(3): 287.(講要)
Nakane, E., Kawakita, K., Doke, N., and Yoshioka, H.	2003	Elimination of primary and secondary metabolism during defense in the potato.	J. Gen. Plant Pathol. 69(6): 378-384.
中野孝明・安達広明・宮川典子・吉岡美樹・石濱伸明・吉岡博文	2013	ペンサミアナタバコNADPHオキシダーゼである <i>N6RBOHB</i> のプロモーター調節にはWRKY型転写因子が関与する。	日植病報 79(3): 162-163.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
中瀬千恵・加藤貴光・山城 都	2012	ジャガイモ植物におけるニトロ化候補タンパク質の防御応答への関与.	日植病報 78(3): 213.(講要)
西村範夫・道家紀志・富山宏平	1974	ジャガイモ疫病菌感染初期に消失する宿主のprotein-bandについて.	日植病報 40(2): 142-143.(講要)
西村範夫・富山宏平・道家紀志	1975	ジャガイモ塊茎よりのmembrane rich fractionの抽出について.	日植病報 41(1): 105.(講要)
西村範夫・富山宏平・道家紀志	1975	Membrane rich fractionと菌体成分の反応によるATPase活性の変動について.	日植病報 41(3): 260.(講要)
西村範夫・富山宏平・道家紀志	1976	疫病菌感染による細胞膜分画ATPase活性の変動.	日植病報 42(3): 355.(講要)
西村範夫・富山宏平	1977	ジャガイモ疫病菌の感染によるミクロゾーム分画の K ⁺ stimulated ATPase 活性の変動について.	日植病報 43(3): 331.(講要)
西村範夫・富山宏平	1978	ジャガイモ塊茎スライスの ³ H-ロイシン, ³² P および ⁸⁶ Rbの吸収におけるジャガイモ疫病菌感染の影響について.	日植病報 44(3): 358-359.(講要)
Nishimura, N. and Tomiyama, K.	1978	Effect of infection by <i>Phytophthora infestans</i> on uptake of ³ H-leucine, ³² P and ⁸⁶ Rb by potato-tuber tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 44(2): 159-166.
Nishimura, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1978	Effect of infection by <i>Phytophthora infestans</i> and treatment with its zoosporial components on uptake of ³ H-leucine and protein synthesis in potato tuber tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 44(5): 599-605.
Nishimura, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1980	Effect of partially purified components of zoospores and mycelia of <i>Phytophthora infestans</i> on uptake of ³ H-Leucine by potato tuber disks.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(1): 1-6.
Nishimura, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1981	Effect of infection by <i>Phytophthora infestans</i> and treatment with zoosporial water-insoluble component on Leakage of ⁸⁶ Rb ⁺ from potato tuber cells.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 47(3): 308-312.
Nishimura, N., Tomiyama, K. and Doke, N.	1982	Changes in electrophoretic pattern of soluble proteins of potato tuber in early period of infection by <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(2): 220-223.
則武智哉・朴 海準・三浦由雄・川北一人・道家紀志	1995	酸素ラジカル分子であるNOのジャガイモファイトアレキシン生成誘導活性.	日植病報 61(6): 616.(講要)
Nozu, M., Yamamoto, M. and Konno, K.	1976	Occurrence of resistant reaction by exogenous DNA fraction on potato leaves infected with <i>Phytophthora infestans</i> .	Bull. Fac. Agr. Shimane Univ. 10: 80-85.
野津幹雄・山本昌木・大船重幸・西村昭雄・坂東俊輝	1977	疫菌感染ジャガイモの病態生理学的研究—特に種間雑種DNA分画の抵抗性誘導に関連して.	島根大農研報(環境保全学) 11: 28-33.
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1976	<i>Phytophthora infestans</i> 感染ジャガイモ細胞の過敏感細胞死に対するブラストサイジンSの影響.	日植病報 42(1): 84.(講要)
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1976	ジャガイモ塊茎切断後のブラストサイジンS処理時期と同処理細胞の非親和性疫病菌に対する過敏感反応能.	日植病報 42(3): 336-337.(講要)
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1977	DNPで抑制された疫病菌感染ジャガイモ塊茎細胞の過敏感細胞死に対するATPの影響.	日植病報 43(1): 96.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1977	Na ⁺ で抑制された疫病菌感染ジャガイモ塊茎細胞の過敏感細胞死に対するATPの影響.	日植病報 43(3): 331-332.(講要)
野末雅之・富山宏平	1978	ジャガイモ疫病菌感染時におけるジャガイモ塊茎細胞原形質と疫病菌侵入菌糸との結合について.	日植病報 44(1): 93.(講要)
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1978	ジャガイモ塊茎細胞の疫病菌感染反応に対する糖類の影響.	日植病報 44(3): 358.(講要)
野末雅之・富山宏平・道家紀志・辻本隆司	1979	性疫病菌感染時の侵入菌糸とジャガイモ塊茎細胞原形質膜との結合の電子顕微鏡観察.	日植病報 45(1): 106.(講要)
野末雅之・富山宏平・道家紀志	1979	各種阻害剤処理によるジャガイモ塊茎スライス中のATPレベルの変動と過敏感反応死について.	日植病報 45(4): 533.(講要)
Nozue, M., Tomiyama, K. and Doke, N.	1980	Effect of some enzyme inhibitors on ATP level and hypersensitive reactivity of potato tuber disks to incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(1): 34-39.
野末雅之・富山宏平・道家紀志・辻本隆司	1980	ジャガイモレクチンのパプテン: キトビオースのジャガイモ疫病菌感染による過敏感細胞死に対する影響.	日植病報 46(1): 93.(講要)
Nozue, M., Tomiyama, K. and Doke, N.	1980	Induction of hypersensitive response in potato tuber tissue to compatible race of <i>Phytophthora infestans</i> by treatment with amino sugars. Conversion from susceptible to resistant tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(2): 250-252.
Nozue, M., Tomiyama, K. and Doke, N.	1981	Changes of ATP level on potato tuber disks treated with hyphal wall components isolated from <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 47(1): 78-79.
Nozue, M., Tomiyama, K. and Doke, N.	1981	Effect of some enzyme inhibitors on adherence of host plasmalemma to infecting hyphae of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 47(2): 189-193.
沼田紀子・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2001	タバコ植物におけるgp91 phoxホモローグの単離.	日植病報 67(2): 127.(講要)
大澤道正・横川俊和・初谷紀幸・Hassan,A.・奥田智勇・古市尚高	2002	疫病菌のエリシター処理によるジャガイモのGFP-RiCDPK1(Ca ²⁺ 依存型タンパク質キナーゼ)融合タンパク質の局在変化及び過敏感反応における役割.	日植病報 68(2): 166-167.(講要)
大津美奈・柴田裕介・小鹿一・森仁志・川北一人・竹本大吾	2012	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須な核膜孔タンパク質NUP75の機能解析.	日植病報 78(3): 216-217.(講要)
大津美奈・柴田裕介・田村謙太郎・西村いく子・小鹿一・森仁志・川北一人・竹本大吾	2013	Nup107-160複合体に含まれるヌクレオポリンの病害抵抗性と病害ストレス応答性エチレン生成における役割.	日植病報 79(3): 162.(講要)
大浦生子・吉岡博文・加藤新平・川北一人・道家紀志	2001	ジャガイモ塊茎組織におけるStrbohキナーゼの探索.	日植病報 67(2): 127.(講要)
大浦生子・吉岡博文・加藤新平・川北一人・道家紀志	2002	ジャガイモ塊茎組織における36kDa Strbohキナーゼのリン酸化部位について.	日植病報 68(2): 166.(講要)
大浦生子・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2003	エリシター応答性36kDaプロテインキナーゼによるStrbohBのリン酸化.	日植病報 69(3): 249.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
奥田智勇・草刈太一・ 廣田雄一・古市尚高	1997	ジャガイモの防御反応: CA ²⁺ 依存型プロ テインキナーゼ(CDPK)遺伝子の単離の 試み.	日植病報 63(6): 499.(講要)
奥田智勇・古市尚高・ Harper,J.H.・池田静香	1998	ジャガイモの培養細胞からカルシウム依 存型プロテインキナーゼ(CDPK)遺伝子 の検出.	日植病報 64(6): 354.(講要)
奥田智勇・古市尚高・ 草刈太一	1999	ジャガイモ制御機構を制御する疫病菌の サブレッサー受容体Ca ²⁺ 依存型プロテ インキナーゼ(CPK)遺伝子のクローニン グ.	日植病報 65(3): 327.(講要)
Okuta,T., Furuichi, N., Hassan, A., Hatsugai, N. and Miyazaki, A.	1999	Purification of GST-fusion protein of calcium-dependant protein kinase (CPK) from potato and <i>Arabidopsis</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 65(3): 327-328.(abs.)
朴海準・道家紀志・三 浦由雄・則武智哉・川 北一人	1995	植物の誘導抵抗性における全身的情報 伝達 エリシター刺激による全身の活性 酸素生成系の活性化の情報伝達系阻害 剤による阻害.	日植病報 61(3): 245.(講要)
朴海準・三浦由雄・則 武智哉・川北一人・道 家紀志	1996	ジャガイモ塊茎スライスにおけるエリシ ター刺激による局部および準全身的オキ シダティブバーストの発生様相の画像解 析.	日植病報 62(3): 291.(講要)
朴海準・小松原 肇・川 北一人・道家紀志	1996	ジャガイモの複葉および塊茎スライスにお けるエリシター刺激による局所的および準 全身的オキシダティブバーストの画像解 析.	日植病報 62(6): 620-621.(講 要)
朴海準・小松原 肇・川 北一人・吉岡博文・道 家紀志	1997	ジャガイモ塊茎組織における連鎖反応的 オキシダティブバーストによるエリシター 刺激情報の伝達の可能性.	日植病報 63(3): 234.(講要)
朴海準・小松原 肇・川 北一人・吉岡博文・道 家紀志	1998	ジャガイモ塊茎切断組織の新鮮および加 齢切断面におけるH ₂ O ₂ 刺激による全身 的オキシダティブバーストの誘導様相.	日植病報 64(4): 355.(講要)
朴海準・吉岡博文・川 北一人・道家紀志	1998	ジャガイモ塊茎スライスにおける半全身的 誘導抵抗性の発現およびGST遺伝子の 発現様式.	日植病報 64(6): 615.(講要)
朴海準・吉岡博文・川 北一人・道家紀志	1999	エリシター処理ジャガイモ塊茎で生成され るO ₂ ⁻ の電子スピン共鳴による測定.	日植病報 65(6): 691.(講要)
斎藤修平・吉岡博文・ 道家紀志・川北一人	2006	疫病菌非親和性レース摂取ジャガイモ塊 茎におけるペルオキシ亜硝酸イオンの生 成.	日植病報 72(4): 231.(講要)
佐治佳子・大澤道正・ 佐藤岳実・古市尚高	2003	ジャガイモ疫病菌エリシター処理時の GFP::RiCDPK1(Ca ²⁺ 依存型タンパク質キ ナーゼ)融合タンパク質関与による活性酸 素生成の解析.	北陸病虫研発表会 55回.(講 要)
酒井隆太郎・竹森俊 彦・富山宏平	1962	Phenol 関連代謝と抵抗性の関係 I. Phenol 関連諸生理因子および抵抗性の 相互関係.	日植病報 27(5): 265.(講要)
Sakai, R. and Tomiya, K.	1964	Relation between physiological factors related to phenols and varietal resistance of potato plant to late-blight.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 29(1): 33-38.
Sakai, R. and Tomiya, K.	1964	Relation between physiological factors related to phenols and varietal resistance of potato plant to late-blight. II. Experiments with the potato tubers.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 29(3): 120-127.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
酒井隆太郎・佐久間勉・竹森俊彦・富山宏平・高瀬 昇・梅村芳樹	1964	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 (9) ジャガイモ品種交配後代系統間の疫病圃場抵抗性とperoxidase活性との関係.	日植病報 29(5): 283.(講要)
酒井隆太郎・富山宏平	1965	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 (12) クロロゲン酸処理ジャガイモ塊茎スライスにおける各種フェノールの生合成.	日植病報 30(2): 98.(講要)
酒井隆太郎・富山宏平	1965	ジャガイモ疫病菌の過敏感反応類似現象誘起物質について.	日植病報 30(5): 284.(講要)
酒井隆太郎・富山宏平・石坂信之・佐藤章夫	1966	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 (14) ジャガイモ疫病抵抗病斑隣接組織におけるフェノールの代謝、特にリグニンの生成を中心として.	日植病報 32(2): 74-75.(講要)
Sakai, R., Tomiyama, K., Ishizuka, N. and Sato, N.	1967	Phenol metabolism in relation to disease resistance of potato tubers. 3. Phenol metabolism in tissue neighboring the necrogenous infection.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 33(4): 216-222.
Sakai, R., Mino, Y., Takachi, M. and Enoki, S.	1979	Effect of coronatine on the decomposition of starch grains in the discs of potato tuber.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 45(5): 596-602.
Sakai, R., Nishiyama, K., Ichihara, A., Shiraishi, K. and Sakamura, S.	1979	Studies on the mechanism of physiological activity of coronatine. Effect of coronatine on cell wall extensibility and expansion of potato tuber tissue.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 45(5): 645-653.
酒井隆太郎・美濃羊輔・内野賢二・笹渕俊幸	1980	コロナチン処理がバレイショ塊茎柔組織切片中のフェノール含量および2, 3酸化酵素の変動に及ぼす影響.	日植病報 46(3): 404.(講要)
Sakai, R.	1980	Comparison of physiological activities between coronatine and indole-3-acetic acid to some plant tissues.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 46(4): 499-503.
Sakai, R., Mino, Y. and Hosoi, E.	1982	Effect of coronatine on the induction of cell wall degrading enzymes in potato tuber discs.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(1): 52-57.
酒井 進・道家紀志・富山宏平	1979	<i>Phytophthora infestans</i> の過敏感反応誘導物質による Phytoalexin誘導様相.	日植病報 45(1): 107.(講要)
酒井 進・富山宏平・道家紀志	1979	切断ジャガイモ組織, および健全芽組織におけるリシチン動静系.	日植病報 45(4): 533.(講要)
Sakai, S., Tomiyama, K. and Doke, N.	1979	Synthesis of a sesquiterpenoid phytoalexin rishitin in new-infected tissue from various parts of potato plant immediately after slicing.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 45(5): 705-711.
Sakai, S., Tomiyama, K. and Doke, N.	1981	Effect of hyphal wall component of <i>Phytophthora infestans</i> on activity of rishitin synthetic pathway in a potato cell exposed directly to the component.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 47(2): 255-257.
Sakai, S., Doke, N. and Tomiyama, K.	1982	Relation between necrosis and rishitin accumulation in potato tuber slices treated with hyphal wall components of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 48(2): 238-240.
佐久間 勉・富山宏平	1963	フェノール関連代謝と抵抗性の関連 VI クロロゲン酸処理によるジャガイモ塊茎の疫病罹病の阻止.	日植病報 28(5): 308.(講要)
佐久間 勉・富山宏平・酒井隆太郎	1964	ジャガイモ塊茎のファイトアレキシン様物質(予報).	日植病報 29(5): 283.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
佐久間 勉・富山宏平	1965	フェノール関連代謝と抵抗性の関連 (10) フェノールおよび関連化合物による塊茎薄片スライスの失われた抵抗性の回復.	日植病報 30(2): 97.(講要)
Sakuma, T. and Tomiyama, K.	1967	The role of phenolic compounds in the resistance of potato tuber tissue to infection by <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 33(1): 48-58.
佐藤和夫・石栗幸男・道家紀志・富山宏平・八木橋不二夫・村井章夫・勝井信勝・正宗 直	1978	感染ジャガイモ組織でのセスキテルペン生合成経路における rishitinの前駆物質について.	日植病報 44(3): 357.(講要)
佐藤和夫・道家紀志・富山宏平・村井章夫・勝井信勝・正宗 直	1979	リシチンのセスキテルペノイド前駆物質の抗菌性及び対植物毒性.	日植病報 45(4): 533.(講要)
佐藤章夫・富山宏平	1967	感染後のリシチンの生成速度とその局在.	日植病報 33(5): 350.(講要)
Sato, N., Tomiyama, K., Katsui, N. and Masamuna, T.	1968	Isolation of rishitin from tubers of interspecific potato varieties containing diferent late-blight resistans genes.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 34(2): 140-142.
佐藤章夫・石坂信之・富山宏平	1968	ジャガイモの疫病感染による solanine rishitin代謝系の転換 (2).	日植病報 34(3): 180.(講要)
Sato, N. and Tomiyama, K.	1969	Localized accumulation of rishitin in the potato-tuber tissue infected by an incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 35(3): 202-207.
佐藤章夫・北沢健治・富山宏平	1969	ジャガイモ塊茎の疫病抵抗反応 - 過敏感死褐変およびリシチン生成の時間経過.	日植病報 35(5): 371.(講要)
佐藤章夫・石坂信之	1971	ジャガイモ塊茎の疫病抵抗反応 - 褐変病斑の現われ方とリシチン生成の時間経過.	日植病報 37(5): 405.(講要)
Sato, N. and Tomiyama, K.	1976	Relation between rishitin accumulation and degree of resistance of potato-tuber tissue to infection by an incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 42(4): 431-435.
佐藤章夫・松永 旭・富山宏平・勝井信勝・正宗 直	1976	ばれいしょのファイトアレキシンの抽出法について.	北海道農試研報 113: 127-136.
Sato, N. and Tomiyama, K.	1977	Relationship between inhibition of intracellular hyphal growth of <i>Phytophthora infestans</i> and rishitin concentration in infected potato cells.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 43(3): 598-600.
Sato, N., Yoshizawa, Y., Miyazaki, H. and Murai, A.	2009	Antifungal activity to <i>Phytophthora infestans</i> and toxicity to tuber tissue of several potato phytoalexins.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 51(4): 494-497.
佐藤岳実・古市尚高・横川和俊	2003	ジャガイモ防御反応におけるCa ²⁺ 依存型タンパク質キナーゼ(CDPK), Pto-キナーゼ, および活性酸素生成NADPHオキシダーゼ遺伝子の疫病菌因子による誘導発現解析.	新潟大農研報 56(1): 1-8.
佐藤岳実・横川和俊・古市尚高	2003	ジャガイモの防御反応における活性酸素生成に関与するCa ²⁺ 依存型タンパク質キナーゼ(CDPK-), Pto-キナーゼ, およびNADPHオキシダーゼ(rboh-) 遺伝子の疫病菌因子による誘導発現解析.	北陸病虫研発表会 55回.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
仙田香織・川北一人・道家紀志	1992	ジャガイモ植物の誘導抵抗反応におけるホスホリパーゼA ₂ の活性化機構: 粗酵素標品による活性化とその因子.	日植病報 58(4): 564-565.(講要)
仙田香織・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1993	ジャガイモ塊茎組織の可溶性画分に存在するホスホリパーゼA ₂ の精製とそのポリクローナル抗体の作製.	日植病報 59(6): 751-752.(講要)
仙田香織・吉岡博文・道家紀志・川北一人	1995	ジャガイモ植物の誘導抵抗反応に関するホスホリパーゼA ₂ について.	日植病報 61(3): 244-245.(講要)
仙田香織・道家紀志・川北一人	1996	ジャガイモ植物の誘導抵抗反応とパタチン.	日植病報 62(3): 289.(講要)
仙田香織・道家紀志・川北一人	1997	ジャガイモ塊茎ホスホリパーゼA ₂ であるパタチンのリン酸化による活性化機構について.	日植病報 63(3): 235.(講要)
柴田祐介・川北一人・竹本大吾	2009	ジャガイモ疫病菌に対するベンサミアナタバコ植物におけるサルチル酸およびエチレンの関与.	日植病報 75(3): 264.(講要)
柴田祐介・川北一人・竹本大吾	2010	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病品種抵抗性におけるRタンパク質関連因子の関与.	日植病報 76(1): 53-54.(講要)
柴田祐介・川北一人・竹本大吾	2010	ベンサミアナタバコのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須な新規遺伝子の探索.	日植病報 76(3): 238.(講要)
柴田裕介・川北一人・竹本大吾	2011	PDR 型ABCトランスポーターはベンサミアナタバコのファイトアレキシン合成に必須である.	日植病報 77(3): 215.(講要)
柴田裕介・小鹿 一・川北一人・竹本大吾	2012	ベンサミアナタバコのPDR1を介したジャガイモ疫病菌侵入抵抗性に必須な抗菌物質の生合成系に関する研究.	日植病報 78(3): 217.(講要)
柴田裕介・小鹿 一・川北一人・竹本大吾	2013	ベンサミアナタバコはジャガイモ疫病菌侵入前と侵入後に活性化するテルペノイド合成経路をスイッチする.	日植病報 79(3): 162.(講要)
白澤優子・秋野聖之・内藤繁男	2004	日本におけるジャガイモ疫病菌の遺伝子型を識別するマーカー.	日植病報 70(1): 85.(講要)
杉江顕一・吉岡博文・津田直希・前田裕貴・川北一人・道家紀志	1998	ジャガイモにおけるgp91 ^{phox} ホモログのクローニング.	日植病報 64(6): 615.(講要)
杉江顕一・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2000	ジャガイモ植物におけるStrboh cDNAの単離およびその発現解析.	日植病報 66(2): 110.(講要)
砂崎浩二・伴 昇子・朴海準・吉岡博文・川北一人・道家紀志	1999	植物組織におけるエリシターおよび植物活性化剤による局所的および全身的オキシダティブバーストの誘導と比較.	日植病報 65(6): 690-691.(講要)
砂崎浩二・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2000	植物組織における全身的オキシダティブバースト誘導のシグナル機構: Ca ²⁺ の関与.	日植病報 66(2): 110.(講要)
砂崎浩二・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2001	ジャガイモ塊茎組織における全身的オキシダティブバースト誘導のシグナル伝達機構.	日植病報 67(2): 126.(講要)
鈴木讓一・大場昭悦・古市尚高	1989	ジャガイモの過敏感細胞死 (6) 過敏感反応抑制因子グルカンと発芽液成分の生理活性.	日植病報 55(4): 478.(講要)
鈴木讓一・古市尚高	1990	ジャガイモの過敏感細胞死 (8) 疫病菌感染初期における抗-グルカン-抗体の作用.	日植病報 56(1): 112.(講要)
鈴木讓一・古市尚高	1990	ジャガイモの過敏感細胞死 (9) ELISAによるグルカン結合タンパク質とグルカンとの結合特性の検討.	日植病報 56(3): 362.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
鈴木真紀・吉岡博文・道家紀志・川北一人	1995	疫病菌菌体壁成分処理ジャガイモ培養細胞における情報伝達系へのイノシトールリン脂質特異的ボスホリパーゼCの関与.	日植病報 61(3): 244.(講要)
高地雅子・榎 佐和子・美濃羊輔・酒井隆太郎	1979	コロナチンの生理活性について I. ジャガイモ塊茎細胞の澱粉の分解.	日植病報 45(4): 556-557. (講要)
竹本大吾・古瀬勝美・道家紀志・川北一人	1995	ジャガイモ植物の感染応答におけるアクチン関連タンパク質の関与.	日植病報 61(6): 615(講要)
竹本大吾・林 誠・西村幹夫・道家紀志・川北一人	1997	植物の感染応答におけるアクチン結合タンパク質プロフィリンの関与について.	日植病報 63(3): 235.(講要)
竹森俊彦・富山宏平	1963	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 IV. クロロゲン酸処理によるフェノール・オキシダーゼ活性増加の条件.	日植病報 28(5): 308.(講要)
竹森俊彦・酒井隆太郎・富山宏平	1964	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 (8) クロロゲン酸処理によるフェノール・オキシダーゼ (F.O) 活性増加の条件について.	日植病報 29(5): 283.(講要)
竹森俊彦・富山宏平	1965	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 (11) 抗生物質その他の代謝阻害剤による抵抗性類似反応の誘起とそれに伴う2, 3の生理現象.	日植病報 30(2): 98.(講要)
瀧波依里子・加藤大明・佐藤育男・竹本大吾・川北一人	2015	ニトロソ化候補タンパク質イソクエン酸脱水素酵素のベンサミアナタバコにおける抵抗反応への関与.	日植病報 81(3): 238-239.(講要)
富山宏平	1954	疫病菌侵入に対する馬鈴薯葉中肋表皮細胞の初期変化について.	日植病報 18(3・4): 147.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1954	馬鈴薯疫病菌侵入に対する馬鈴薯塊茎の生體反應に関する研究 (I).	日植病報 18(3・4): 147.(講要)
富山宏平	1954	<i>Phytophthora infestans</i> に対する馬鈴薯抵抗性品種細胞の過敏感反応と侵入菌糸の生死の関係.	日植病報 18(3・4): 186-187.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1954	<i>Phytophthora infestans</i> の侵入に侵入に対する馬鈴薯塊茎の生體反應について.	日植病報 18(3・4): 187.(講要)
富山宏平	1954	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 I. 疫病菌侵入初期の馬鈴薯中肋表皮細胞の変化.	北海道農試彙報 67: 28-38.
富山宏平	1955	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 II. 寄主細胞の変化と侵入菌糸の生死の関係.	日植病報 19(3・4): 149-154.
富山宏平	1955	馬鈴薯疫病菌侵入時の寄主細胞のT.T.C.染色性の時間的経過について.	日植病報 19(3・4): 179-180.(講要)
富山宏平	1955	馬鈴薯疫病菌侵入初期における寄主細胞原形質の運動について.	日植病報 19(3・4): 180.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1955	馬鈴薯疫病抵抗性に伴う生體反應の向合成性について.	日植病報 19(3・4): 180.(講要)
富山宏平	1955	馬鈴薯疫病菌の侵入による細胞褐変過程の時間の測定について.	日植病報 19(3・4): 180.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1955	疫病菌の侵入に対する馬鈴薯の抵抗反応に関する生理学的研究 II. 病原性の異なる疫病菌系統の侵入に対する馬鈴薯塊茎の生理学的反応.	日植病報 20(2・3): 59-64.
富山宏平・高桑 亮・高瀬 昇・酒井隆太郎	1955	<i>Phytophthora infestans</i> 侵入に伴う馬鈴薯塊茎の生理的反應に対するEthanolの影響.	日植病報 20(2・3): 105-106.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1955	異なった疫病菌生態型に対する馬鈴薯塊茎の反応に関する生理学的研究.	日植病報 20(2・3): 106.(講要)
富山宏平	1955	馬鈴薯疫病の抵抗性に関する研究.	農業技術 10(5): 227-229.

著者名	年	表題	掲載誌・巻号頁
富山宏平	1956	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 III. 疫病菌の侵入を受けた細胞の褐変に至る過程の時間の測定.	日植病報 20(4): 165-169.
富山宏平・高桑 亮・高瀬 昇・酒井隆太郎	1956	疫病菌の侵入に対する馬鈴薯の抵抗反応に関する生理学的研究 III. Ethanolの処理による抵抗性低下の生理学的研究(其の1).	日植病報 21(1): 17-22.
富山宏平・酒井隆太郎・高瀬 昇・高桑 亮	1956	Ethylalcohol による馬鈴薯疫病抵抗性低下に関する研究(続報).	日植病報 21(1): 37.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・高桑 亮・竹森俊彦・酒井隆太郎	1956	疫病菌侵入初期に於ける馬鈴薯塊茎の生理学的反応(続報).	日植病報 21(1): 37.(講要)
富山宏平	1956	抵抗性馬鈴薯葉柄細胞の過敏感死に対する 2,4,DNP の影響.	日植病報 21(1): 37.(講要)
富山宏平	1956	抵抗性及び罹病性馬鈴薯の生細胞内に於ける疫病菌菌糸伸長の比較.	日植病報 21(1): 37.(講要)
Tomiya, K.	1956	Cell physiological studies on the resistance of potato plant to <i>Phytophthora infestans</i> . IV On the monements of cytoplasm of the host cell induced by the invasion of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 21(2-3): 54-62.
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮・竹森俊彦	1956	抵抗性に於ける隣接健全細胞群の生体反応の積分的効果に就いて.	日植病報 21(2・3): 109.(講要)
富山宏平・高桑 亮・高瀬 昇・竹森俊彦	1956	馬鈴薯塊茎薄片 slice に於ける疫病菌侵入初期抵抗反応の生理.	日植病報 21(2・3): 109.(講要)
富山宏平・酒井隆太郎・高瀬 昇・高桑 亮	1956	疫病菌の侵入に対する馬鈴薯の抵抗反応に関する生理学的研究 IV. Ethanol 処理による抵抗性低下の生理学的研究(その2).	日植病報 21(4): 153-158.
富山宏平・高瀬 昇・酒井隆太郎・高桑 亮	1956	疫病菌の侵入に対する馬鈴薯の抵抗反応に関する生理学的研究 I. 生理学的反応の時間経過およびその品種間差.	北海道農試彙報 71: 32-50.
富山宏平	1956	馬鈴薯疫病抵抗性の機作.	農業技術 11(2): 63-67.
富山宏平・竹森俊彦・高桑 亮	1957	疫病菌の侵入に対する馬鈴薯の抵抗反応に関する生理学的研究 V. 切断処理による馬鈴薯塊茎の酸溶性燐酸成分の変動.	北海道農試彙報 72: 8-15.
富山宏平・高桑 亮・高瀬 昇	1957	馬鈴薯塊茎スライスの代謝型と疫病抵抗性.	日植病報 21(1): 13-14.(講要)
富山宏平・高瀬 昇・高桑 亮・竹森俊彦	1957	切断処理によって呼吸を促進せしめた場合の馬鈴薯塊茎の疫病抵抗性過敏感死反応の促進.	日植病報 22(1): 62.(講要)
富山宏平	1957	接種前熱処理による馬鈴薯の代謝機能の低下と疫病抵抗性過敏感死反応の遅延.	日植病報 22(1): 62.(講要)
富山宏平・酒井隆太郎・高桑 亮	1957	馬鈴薯疫病菌の毒素に関する研究(予報).	日植病報 22(1): 62.(講要)
富山宏平	1957	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 V. 抵抗性馬鈴薯細胞の過敏感反応に対する 2,4-Dinitrophenol の影響について.	日植病報 22(2): 75-78.
富山宏平	1957	馬鈴薯疫病抵抗性の細胞生理学的研究 VII. 抵抗性および罹病性を示す馬鈴薯葉柄生細胞内に於ける疫病菌菌糸伸長の比較.	日植病報 22(3): 129-133.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
富山宏平・高桑 亮	1958	疫病菌侵入初期における被侵入馬鈴薯細胞の代謝(続報).	日植病報 23(1): 31.(講要)
富山宏平・高桑 亮	1958	馬鈴薯塊茎障害部における指数関数的生体反応呼吸曲線について.	日植病報 23(1): 56-57.(講要)
富山宏平	1958	馬鈴薯疫病抵抗性過敏反応に於ける型について.	日植病報 23(1): 57.(講要)
富山宏平・高桑 亮・酒井隆太郎	1958	疫病菌の侵入を受けたジャガイモ細胞およびその隣接細胞群における酸化酵素系の転換.	31回日本生化学会総会抄録集, pp.52-54.
富山宏平	1958	馬鈴薯疫病抵抗性の研究.	植防 12(7): 297-306.
富山宏平・竹森俊彦・酒井隆太郎	1962	Phenol 関連代謝と抵抗性の関係 II. クロロゲン酸処理を行なったジャガイモ塊茎スライスの oxidase の変化.	日植病報 27(5): 265.(講要)
富山宏平・酒井隆太郎・竹森俊彦	1963	Phenol 関連代謝と抵抗性の関係 III. クロロゲン酸処理を行なったジャガイモ塊茎スライスの oxidase の変化(続報).	日植病報 28(2): 80.(講要)
富山宏平・大谷吉雄・竹森俊彦	1963	フェノール関連代謝と抵抗性の関係 V. クロロゲン酸処理スライスの解糖系酵素, グルタチオン, レダクターゼ活性の変化.	日植病報 28(5): 308.(講要)
富山宏平・酒井隆太郎	1963	ジャガイモにおける疫病抵抗性の変化と Ageing.	日本植物生理学会報 3(2・3): 89-95.
富山宏平・佐久間 勉	1964	フェノール関連代謝と抵抗性との関係 VII. クロロゲン酸処理スライスの解糖系酵素, グルタチオン, レダクターゼ活性の変化.	日植病報 29(2): 87.(講要)
富山宏平	1964	ジャガイモ疫病抵抗性における過敏細胞死の研究 (1) ブラウン運動顆粒体の本体について.	日植病報 29(5): 283.(講要)
富山宏平	1964	ジャガイモ疫病抵抗性における過敏細胞死の研究 (2) 過敏細胞死の代謝活性に対する直接または間接依存性について.	日植病報 29(5): 283.(講要)
富山宏平・酒井隆太郎・大谷吉雄・竹森俊彦	1965	フェノール関連代謝と抵抗性との関係 (13) クロロゲン酸, ストレプトマイシン処理塊茎スライスにおけるフェノール関連諸酵素活性.	日植病報 30(2): 98.(講要)
富山宏平	1965	ジャガイモ疫病における過敏細胞死と細胞内菌糸量との関係.	日植病報 30(5): 284.(講要)
Tomiya, K.	1966	Double infection by an incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> of a potato plant cell which has previously been infected by a compatible race.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 32(4): 181-185.
Tomiya, K.	1967	Cell physiological studies on the resistance of potato plant to <i>Phytophthora infestans</i> . VIII The influence of a pre-infectious heat treatment on the resistance of potato plants to <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 22(4-5): 237-242.
富山宏平・佐久間 勉・石坂信之・佐藤章夫・正宗 直・勝井信勝・高杉光雄	1967	罹病ジャガイモ塊茎に見出される新抗菌性物質 rishitin.	日植病報 33(2): 74-75.(講要)
富山宏平・正宗 直	1967	リシチン - 罹病ジャガイモ中の抗菌性物質.	化学と生物 5(11): 659-660.
富山宏平	1970	不親和性疫病菌感染によるジャガイモ細胞の過敏死における2相.	日植病報 36(5): 366.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Tomiyama, K.	1973	Effect of temperature on the process of the hypersensitive death of a potato plant cell infected by an incompatible race of <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 39(1): 73-78.
Tomiyama, K., Lee, H.S. and Doke, N.	1974	Effect of hyphal homogenate of <i>Phytophthora infestans</i> on the potato-tuber protoplasts.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 40(1): 70-72.
富山宏平・李 好植・道家紀志	1974	疫病菌体成分によって起るプロトプラストからの ³² P-leakに対するATPの影響.	日植病報 40(2): 143.(講要)
Tomiyama, K. and Fukaya, M.	1975	Accumulation of rishitin in dead potato-tuber tissue following treatment with HgCl ₂ .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 41(4): 418-420.
富山宏平	1976	ジャガイモ疫病に関する生態学的, 育種学的, 生理学的研究.	関西病虫研報 18: 1-11.
富山宏平・佐藤和夫・野末雅之・道家紀志	1978	ジャガイモ疫病における過敏感細胞死に対するcytocharasin Bの影響.	日植病報 44(3): 359.(講要)
富山宏平	1980	ジャガイモの疫病抵抗性 -特に過敏感反応の機構について.	植防 34(1): 2-8.
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1981	ジャガイモ細胞膜電位に対する疫病菌感染の影響.	日植病報 47(3): 383.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1982	疫病菌感染によるジャガイモ細胞の酵素呼吸依存性膜電位および受動性膜電位の変化.	日植病報 48(1): 108.(講要)
富山宏平・岡本 尚	1983	ジャガイモ細胞の過敏感反応能力獲得過程における呼吸依存性および受動性膜電位の変化.	日植病報 49(1): 108.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1984	非親和性疫病菌の感染を受けたジャガイモ細胞及び隣接細胞における細胞膜電位の変化.	日植病報 50(3): 409-410.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1985	非親和性疫病菌レースの感染を受けたジャガイモ細胞膜電位に対する2,4-DNPの影響.	日植病報 51(1): 86.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1986	ジャガイモ疫病の過敏感反応の電気生理学的研究.	日植病報 52(3): 526.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1986	非親和性疫病菌レースの感染によるジャガイモ細胞膜電位変化に対する接種前熱処理の影響.	日植病報 52(1): 131-132.(講要)
富山宏平・岡本 尚・加藤 潔	1986	ジャガイモ疫病の過敏感反応の電気生理学的研究.	日植病報 52(3): 526.(講要)
Tomiyama, K., Okamoto, H. and Katou, K.	1987	Membrane potential change induced by infection by <i>Phytophthora infestans</i> of potato cells.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 53(3): 310-322.
刀祢千代里・中島和美・加藤新平・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2003	ジーンサイレンシングによるG6PDHの機能解析.	日植病報 69(3): 248.(講要)
刀祢千代里・秋野聖之・前田淳司・内藤繁男	2004	G6PDH発現と防御応答との関連について.	日植病報 70(3): 200.(講要)
津田康介・Monjil Ahahjahan・佐藤育夫・竹本大吾・川北一人	2015	ジャガイモ疫病菌由来エリシターゼによるシロイヌナズナの防御応答.	日植病報 81(3): 226.(講要)
内田淳貴・加藤大明・竹本大吾・川北一人	2013	植物の抵抗性反応誘導時におけるアスコルビン酸ペルオキシダーゼのニトロソ化とその機能解析.	日植病報 79(3): 161.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
関間貞雄・野澤武司・村上友哉・竹本大吾・川北一人	2008	ジャガイモ植物におけるセラミド関連化合物の抵抗反応誘導活性.	日植病報 74(3): 199.(講要)
八丈野 孝・門田康弘・瀧澤 香・李 華・大沢登・半田徳子・寺田貴帆・小柴生造・白水美香子・渡部 暁・木川隆則・横山茂之・Sophien Kamoun・白須 賢	2011	ジャガイモ疫病菌エフェクターAVR3aの立体構造および機能解析.	日植病報 77(3): 155.(講要)
八丈野 孝・李 華・Angela Chaparro-Garcia・Sebastian Schornack・小柴生造・渡部 暁・木川隆則	2012	ジャガイモ疫病菌が分泌するエフェクターAVR3aの病原性機能には脂質との結合が必要である.	日植病報 78(3): 216.(講要)
八丈野 孝・瀧澤 香・白須 賢	2013	ジャガイモ疫病菌エフェクターAVR3aの宿主細胞内における免疫抑制機構.	日植病報 79(3): 159.(講要)
山田直史・吉岡博文・道家紀志	1999	ジャガイモ植物におけるsesquiterpene cyclaseおよびsqualene synthetase cDNAの単離.	日植病報 65(3): 327.(講要)
山口友美・加藤新平・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2005	ジャガイモ植物のMAPキナーゼを不活性化するタンパク質脱リン酸化酵素の性質.	日植病報 71(1): 53.(講要)
山溝千尋・口村和男・加藤新平・川北一人・道家紀志・小林 晃・吉岡博人	2004	ファイトアレキシン合成遺伝子プロモータを利用した耐病性植物の作出.	日植病報 70(3): 200.(講要)
山溝千尋・口村和男・加藤新平・川北一人・小林 晃・道家紀志・吉岡博人	2005	ファイトアレキシン合成遺伝子プロモータを利用した耐病性組換えジャガイモ植物の解析.	日植病報 71(1): 53-54.(講要)
山溝千尋・吉岡美樹・平野美奈子・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2006	MAPKカスケードのジャガイモ疫病菌抵抗性における役割.	日植病報 72(1): 66-67.(講要)
山溝千尋・川北一人・柘植尚志・道家紀志・石岡博文	2007	ジャガイモファイトアレキシン合成遺伝子プロモータの制御機構の解析.	日植病報 73(1): 54.(講要)
山本文子・吉岡博文・道家紀志	2000	ジャガイモ植物の誘導抵抗性反応における一酸化窒素の関与.	日植病報 66(3): 286-287.(講要)
山本文子・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2001	ジャガイモ植物におけるエリシター誘導性硝酸還元酵素遺伝子の単離.	日植病報 67(2): 126.(講要)
山本文子・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2002	ジャガイモ植物におけるエリシター誘導性硝酸還元酵素の性質.	日植病報 68(1): 91-92.(講要)
山本文子・加藤新平・吉岡博文・道家紀志・川北一人	2003	エリシター処理ジャガイモ懸濁培養細胞における一酸化窒素生成の検出.	日植病報 69(1): 55.(講要)
山本昌木	1955	疫病罹病馬鈴薯塊茎中のアスコルビン酸について.	島根農大研報 3: 60-62.
山本昌木・遠山和紀	1956	馬鈴薯疫病病斑中の活性鉄について.	島根農大研報 4: 59-62.
山本昌木・平井篤造・安盛 博・遠山和紀・岡田 惇	1957	馬鈴薯の疫病に対する抵抗性機作に対するの考察.	日植病報 22(1): 14.(講要)
山本昌木	1957	疫病菌の侵入を受けた馬鈴薯組織の偏光顕微鏡及び位相差顕微鏡による観察.	日植病報 22(1): 53.(講要)
山本昌木・遠山和紀	1957	疫病菌を接種した馬鈴薯葉の有機態鉄及びカタラーゼ活性の動きに就いて.	日植病報 22(1): 53.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Yamamoto, M.	1957	Investigations by means of phase-contrast and polarization microscopes on the penetration of <i>Phytophthora infestans</i> into the suscept plants.	Ann. Phytopath. Soc. Japan 22(3): 148-152.
山本昌木・遠山和紀	1957	疫病菌を接種した馬鈴薯葉のカタラーゼ活性と有機態鉄との関係について.	島根農大研報 5: 30-32.
山本昌木・安盛 博・遠山和紀・岡田 惇	1958	疫病菌の侵入に伴う馬鈴薯塊茎の呼吸と酸化酵素の変化.	日植病報 23(1): 30.(講要)
山本昌木・安盛 博	1959	疫病菌の侵入に伴う馬鈴薯塊茎のチトクロームC 酸化酵素の活動変化について.	日植病報 24(1): 12-13.(講要)
山本昌木・本田博教	1960	生育時期を異にする馬鈴薯葉中のアミノ酸ならびに疫病菌の侵入に伴う馬鈴薯塊茎中のアミノ酸量について.	日植病報 25(5): 209-213.
山本昌木	1964	ジャガイモ疫病における過敏感現象とATPアーゼとの関連性(予報).	日植病報 29(5): 269.(講要)
山本昌木	1966	ジャガイモ疫病における過敏感現象についての一考察.	日植病報 32(5): 323.(講要)
山本昌木・師井幸雄	1967	疫病感染に伴うジャガイモ塊茎における2, 3の酵素活性について.	日植病報 33(2): 74.(講要)
山本昌木・重松昭世・野津幹雄	1967	ジャガイモ疫病過敏感現象におけるDNAを含むフラクションの関与.	日植病報 33(5): 338.(講要)
山本昌木	1967	馬鈴薯疫病菌に対する感受体の過敏感現象とATPアーゼ活性について.	島根農大研報 15(A-1): 32-34.
山本昌木・重松昭世・野津幹雄	1968	疫病菌侵入による過敏感現象発現に及ぼす馬鈴薯のDNAを含むフラクションについて二・三の実験.	日植病報 34(5): 381.(講要)
山本昌木	1969	カルコフルオール標識による馬鈴薯疫病過敏感現象の観察.	日植病報 35(2): 96.(講要)
山本昌木・野津幹雄・重松昭世	1969	疫病菌侵入による過敏感現象発現に及ぼす馬鈴薯DNAフラクションに関する二・三の実験.	島根大農研報 3: 1-5.
山本昌木	1970	疫病感染馬鈴薯のパーオキシダーゼ活性について.	島根大農研報 4: 14-18.
山本昌木	1970	螢光白色染料標識によるジャガイモ疫病過敏感現象の観察.	日植病報 36(4): 283-285.
山本昌木・大塚範夫・今村好和・北見和光	1970	異品種DNAのジャガイモ疫病抵抗性に及ぼす影響.	日植病報 36(5): 361.(講要)
山本昌木・大塚範夫	1971	疫病菌に対するジャガイモの抵抗性と感受体内DNAに関する2, 3の実験.	日植病報 37(2): 84-90.
山本昌木・八田茂徳	1973	ジャガイモ品種と疫病菌各系統間の特異性について -特にDNAに関連して-	日植病報 39(3): 210-211.(講要)
山本昌木・野津建一・杉本義則・野津幹雄	1973	ジャガイモ疫病病斑形成に及ぼすエチレンの影響.	島根大農研報 7: 9-13.
山本昌木・八田茂徳	1974	R1因子を持つジャガイモ種間雑種DNAフラクションの疫病病斑形成に及ぼす影	日植病報 40(2): 108-109.
山本昌木・中尾清隆	1974	疫病感染ジャガイモの可溶性蛋白質とPAL活性について.	日植病報 40(3): 178-179.(講要)
山本昌木・大船重幸・中尾清隆・野津幹雄	1974	疫病菌培養濾液フラクション処理のジャガイモ塊茎組織に認められる過敏感現象について.	日植病報 40(3): 179-180.(講要)
山本昌木・八田茂徳	1974	R1因子を持つジャガイモ種間雑種DNAフラクションの疫病菌孢子発芽に及ぼす影響.	日植病報 40(3): 261-262.

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
Yamamoto, M. and Hatta, S.	1974	Studies on the compatibility of potato varieties and races of <i>Phytophthora infestans</i> (Mont.) DeBary, with special reference to the DNA fraction of the susceptibles and the pathogens.	Bull. Fac. Agr. Shimane Univ. 8: 28-40.
山本昌木・大船重幸	1975	ジャガイモ疫病菌培養濾液と菌体磨砕液中の塊茎組織褐変誘起物質の検討.	日植病報 41(1): 105.(講要)
山本昌木・中尾清隆・板東俊輝	1975	疫病菌侵入時におけるジャガイモ塊茎と塊茎カルスのリシチン形成, 特に異品種フラクション処理との関連.	日植病報 41(1): 106.(講要)
山本昌木・松尾憲二郎	1975	異品種DNAフラクション処理ジャガイモ上の異型病斑出現の時間的経過.	日植病報 41(1): 106.(講要)
山本昌木・松尾憲二郎	1975	ジャガイモ以外の植物のDNAフラクションの疫病菌出現に及ぼす影響.	日植病報 41(3): 260-261.(講要)
山本昌木・大船重幸	1976	疫病菌培養ろ液中の褐変誘起物質.	日植病報 42(1): 83-84.(講要)
山本昌木・松尾憲二郎・今野(中尾)清隆	1976	異品種細胞内器官DNAフラクション処理によるジャガイモ疫病菌異型病斑出現について.	日植病報 42(1): 84.(講要)
山本昌木・大船重幸・住吉浩策	1976	異品種DNAフラクション・疫病菌培養ろ液処理ジャガイモ塊茎組織のパーオキシダゼ活性の変化.	日植病報 42(3): 337.(講要)
山本昌木・今野清隆・松尾憲二郎・落合英夫・柴田 等・石田政弘・菊地忠寿・水間長代	1976	熱中性子照射ジャガイモDNAフラクションの異型疫病菌斑形成について.	日植病報 42(3): 337.(講要)
山本昌木・今野清隆・松尾憲二郎・落合英夫・柴田 均・石田政弘・菊地忠寿・水間長代・佐藤孝司	1977	熱中性子照射ジャガイモDNAフラクションの異型病斑形成能の低下.	日植病報 43(1): 96-97.(講要)
山本昌木・松尾憲二郎	1977	紫外線照射ジャガイモDNAの異型疫病菌斑形成に及ぼす影響.	日植病報 43(3): 332.(講要)
山本昌木・古沢 巖	1979	同種・異種ならびに分子量を異にする外生ジャガイモDNAの疫病菌異型病斑形成に及ぼす影響.	日植病報 45(4): 539.(講要)
山本昌木・平井篤志・古沢 巖	1981	疫病菌に対し抵抗性を異にするジャガイモのフラクション I タンパクとDNAについて.	日植病報 47(3): 383.(講要)
山本昌木・鈴木一実・今野清隆	1981	疫病菌に感染したジャガイモ葉細胞の反応.	近畿中国農業研究 62: 38-40.
山本昌木・古沢 巖	1982	塗付外生DNAの植物体における動向.	日植病報 48(1): 108-109.(講要)
山本昌木・黒岩常祥・西林双龍	1982	外生DNAのジャガイモへの取り込みと疫病菌に対する抵抗性について.	日植病報 48(3): 362.(講要)
山本昌木・山岡直人・萩原保成・黒岩常祥・西林双龍・河野重行	1983	外生DNAのジャガイモへの取り込みと疫病菌による異型病斑形成について.	日植病報 49(1): 107-108.(講要)
山本昌木	1983	外生ジャガイモDNA導入による疫病菌抵抗性の誘導 - 特に塗布したDNAの組織内とりこみについて.	日植病報 49(3): 331-337.
山本昌木・山岡直人	1983	制限酵素処理ジャガイモDNAを塗布したジャガイモ葉上の疫病菌異型病斑出現について.	日植病報 49(3): 382.(講要)
山本昌木・山岡直人・萩原保成・黒岩常祥・西林双龍・河野重行	1984	疫病菌に対するジャガイモの抵抗性と外生DNA(ジャガイモ核と葉緑体)の細胞核内への取り込みについて.	日植病報 50(1): 124-125.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
山本昌木・山岡直人・久保康之・駒野 徹	1984	制限酵素処理をしたジャガイモDNAの疫病病斑形成に及ぼす影響.	日植病報 50(3): 408.(講要)
山本昌木・山岡直人・駒野 徹・黒岩常祥	1985	制限酵素処理をしたジャガイモ種間雑種DNAのジャガイモ疫病病斑形成に及ぼす影響.	日植病報 51(1): 86.(講要)
山本昌木・山岡直人・久保康之・堀越 守・黒岩常祥・河野重行	1985	疫病罹病性ジャガイモ品種上に静置またはカーボランダムと共に塗布した種間雑種DNAの細胞内への取り込みについて.	日植病報 51(3): 375.(講要)
山本昌木	1986	疫病に抵抗性のジャガイモ種間雑種DNAの制限酵素処理による罹病性品種上における過敏型病斑の変動について.	近畿中国農業研究 71: 16-18.
山本昌木	1986	疫病罹病性ジャガイモ品種上に静置又はカーボランダムとともに塗布した抵抗性種間雑種DNAの細胞内への取り込みについて.	近畿中国農業研究 72: 9-11.
山溝千尋・口村和男・加藤新平・道家紀志・吉岡博文	2003	Agroinfiltration法によるPotato Vetspiradiene Synthase 3遺伝子プロモータの機能解析.	日植病報 69(3): 249.(講要)
山溝千尋・吉岡美樹・川北一人・道家紀志・吉岡博人	2005	ジャガイモMAPK (StMPK1)を利用した耐病性植物の作出.	日植病報 71(3): 187.(講要)
山溝千尋・吉岡美樹・平野美奈子・川北一人・道家紀志・吉岡博文	2006	MAPK カスケードのジャガイモ疫病菌抵抗性における役割.	日植病報 72(1): 66-67.(講要)
山溝千尋・川北一人・柘植尚志・道家紀志・吉岡博文	2007	ジャガイモファイトアレキシン合成遺伝子プロモータの制御機構の解析.	日植病報 73(1): 54.(講要)
山下真生・砂崎浩二・吉岡博文・川北一人・道家紀志	2002	ジャガイモ植物におけるサリチル酸による全身のオキシダティブースト誘導のシグナル伝達機構.	日植病報 68(1): 92.(講要)
山下慶晃・下川原由希子・加藤良晃・今井康史	2012	新規殺菌剤アムトフラジン・ジメトモルフ(ザンプロDMフロアブル)に関する研究(1) ジャガイモ疫病菌に対する基礎活性について.	日植病報 78(3): 243.(講要)
山下将武・松田健太郎・Monjil Shajahan・佐藤育男・竹本大吾・川北一人	2015	ジャガイモ疫病菌由来エリシターにより誘導されるジャガイモ植物の抵抗反応.	日植病報 81(3): 239.(講要)
横川和俊・加藤美紀・古市尚高	2001	ジャガイモにおける活性酸素生成酵素rboh遺伝子の単離と発現タンパク質の機能解析.	日植病報 67(2): 125.(講要)
横川和俊・初谷紀幸・加藤美紀・古市尚高	2002	エリシター、サプレッサー処理によるジャガイモrboh遺伝子の発現誘導の解析: 罹病性品種と抵抗性品種間での比較.	日植病報 68(1): 72-73.(講要)
横川和俊・加藤新平・Hassan,A.・古市尚高	2002	疫病菌抵抗性・罹病性品種における活性酸素生成酵素遺伝子rboh 1の発現の比較およびその融合タンパク質の活性酸素生成活性.	日植病報 68(2): 166.(講要)
横川和俊・大澤正道・古市尚高	2003	疫病菌エリシターゼによるジャガイモNADPHオキシダーゼ遺伝子rboh1の活性酸素生成およびGFP:rboh1の細胞内での局在.	日植病報 69(3): 273.(講要)
吉岡博文・早川幸江・道家紀志	1993	ジャガイモ植物における防御遺伝子の発現抑制: ジャガイモ疫病菌を接種した塊茎組織におけるPALおよびHMGR-mRNAの蓄積傾向.	日植病報 59(1): 87.(講要)

著者名	年	表 題	掲載誌・巻号頁
吉岡博文・宮部美保・道家紀志	1994	ジャガイモ植物における防御遺伝子の発現制御：疫病菌を接種した塊茎組織のポリソームにおけるHMGR mRNAの解析.	日植病報 60(3): 316.(講要)
Yoshioka, H., Hayakawa, Y. and Doke, N.	1995	Suppression of phenylalanine ammonia-lyase mRNA accumulation by suppressors from <i>Phytophthora infestans</i> .	Ann. Phytopath. Soc. Japan 61(1): 7-12.
吉岡美樹・小林光智 衣・浅井秀太・吉岡博文	2008	恒常活性型CDPKと導入したジャガイモ植物は疫病菌に耐性を示すが夏疫病菌には感受性を示す.	日植病報 74(3): 199-200.(講要)
吉岡美樹・安達郁子・道家紀志・吉岡博文	2010	RNAiによるジャガイモファイトアレキシン合成遺伝子の機能解析.	日植病報 76(3): 175.(講要)
吉岡美樹・石濱伸明・金原佳子・安達広明・吉岡博文	2013	WRKY8転写因子を導入した組換えジャガイモは疫病菌および夏疫病菌に抵抗性を示す.	日植病報 79(1): 44.(講要)
吉岡美樹・安達郁子・道家紀志・近藤竜彦・吉岡博文	2014	ジャガイモのセスキテルペノイドは疫病菌および夏疫病菌の侵入前抵抗性に寄与する.	日植病報 80(4): 267.(講要)